

**出土遺物（第95図、図版99）**

**銅製品（307）** 6枚が錆のため重なって固着する銅銭で、うち1枚の銭文は寛永通宝である。

**弥生土器（308）** 甕で、口縁部はT字状で内側に大きく突出する。口縁端部には刻目を施し、口縁下に2条の三角突帯を貼り付ける。口縁部と突帯はヨコナデ、他はナデ。

**SX48（第92図）**

調査区南東側に位置する。墓坑は長軸1.1m（床面で0.7m）、短軸0.9m（床面で0.7m）の平面不整な楕円形を呈し、深さは0.75mである。鉄製品・瓦質土器が出土した。

**SX55（第92図）**

調査区南東側に位置する。墓坑は長軸1.1m（床面で0.9m）、短軸0.9m（床面で0.7m）の平面長方形を呈し、深さは0.6mである。墓坑内に人骨が残る。磁器椀・須恵器片・土師器片・陶器片が出土した。

**出土遺物（第95図、図版95）**

**陶磁器（309）** 淡い青緑色味の釉の小椀で、全面施釉の後、高台畳付の釉を剥ぎとる。高台には砂が付着する。

**SX57（第92図）**

調査区南東側に位置する。墓坑は長軸1.2m（床面で0.9m）、短軸1.1m（床面で0.7m）の平面隅丸方形を呈し、深さは0.8mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

**SX58（第93図、図版64）**

調査区南東側に位置する。墓坑は長軸1.2m（床面で0.85m）、短軸1.1m（床面で0.75m）の平面隅丸方形を呈し、深さは0.8mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

**SX60（第93図）**

調査区南東側に位置する。墓坑は長軸1.2m（床面で1.0m）、短軸1.2m（床面で0.75m）の平面不整な方形を呈し、深さは0.55mである。木質・金属片が出土した。

**SX61（第93図、図版64）**

調査区南東側に位置する。墓坑は長軸1.2m（床面で1.05m）、短軸1.05m（床面で0.85m）の平面長方形を呈し、深さは0.9mである。墓坑内に人骨が残る。玉が出土した。

**出土遺物（第95図、図版97）**

**ガラス製品（310）** 白色に風化した数珠玉。

**SX62（第93図、図版64）**

調査区南東側に位置する。墓坑は長軸1.25m（床面で1.05m）、短軸1.1m（床面で0.8m）の平面長方形を呈し、深さは0.75mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

**SX63（第94図、図版64）**

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.25m（床面で0.9m）、短軸1.15m（床面で0.85m）の平面隅丸長方形を呈し、深さは0.85mである。墓坑内に人骨が残る。玉が出土した。

**出土遺物（第95図、図版97）**

**ガラス製品（311～313）** 311は明黄褐色半透明の数珠玉の親玉でT字状の孔がある。312は黒褐

色の数珠玉。313は青緑色の小玉で、弥生時代か古墳時代遺物の混入品と考えられる。

#### SX67 (第94図、図版65)

調査区中央に位置する。墓坑は長軸0.7m以上、短軸0.9m(床面で0.6m)で、平面隅丸長方形を呈するものと考えられる。深さは0.7mである。墓坑内に人骨が残るが、改葬を受けているものと考えられる。小玉のほか、弥生甕棺の破片が出土した。

#### 出土遺物(第98図、図版95・97)

ガラス製品(314～316) 314は淡青色の数珠玉だが、風化した白色部分と縞模様になる。315も淡青色の数珠玉で、314程は風化していない。316は白色に風化した数珠玉。

弥生土器(317・318) 317はおそらく甕の底部。内外面ともにナデ。318は甕。T字状口縁で、外側に低く傾斜する。胴部は直線的でやや内傾する。

#### SX68 (第94図、図版65)

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.1m(床面で0.95m)、短軸1.1m(床面で0.8m)の平面方形を呈し、深さは1.05mである。墓坑内に人骨が残る。袋状の遺物が出土した。

#### SX69 (第94図、図版65)

調査区南東側に位置する。墓坑は長軸1.2m(床面で0.8m)、短軸1.1m(床面で0.75m)の平面不整な楕円形を呈し、深さは1.25mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

#### SX70 (第94図、図版65)

調査区南東側に位置する。墓坑は長軸1.0m(床面で0.75m)、短軸1.0m(床面で0.7m)の平面円形を呈し、深さは0.65mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

#### SX73 (第96図)

調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸1.2m(床面で0.8m)、短軸1.15m(床面で0.65m)の平面隅丸方形を呈し、深さは0.85mである。副葬品はない。

#### SX82 (第96図、図版65)

調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸1.0m(床面で0.75m)、短軸不明で、平面方形と考えられ、深さは1.0mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

#### SX85 (第96図、図版65)

調査区北側に位置する。墓坑は長軸1.0m(床面で0.8m)、短軸0.8m(床面で0.7m)の平面円形を呈し、深さは1.5mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

#### SX95 (第96図、図版65)

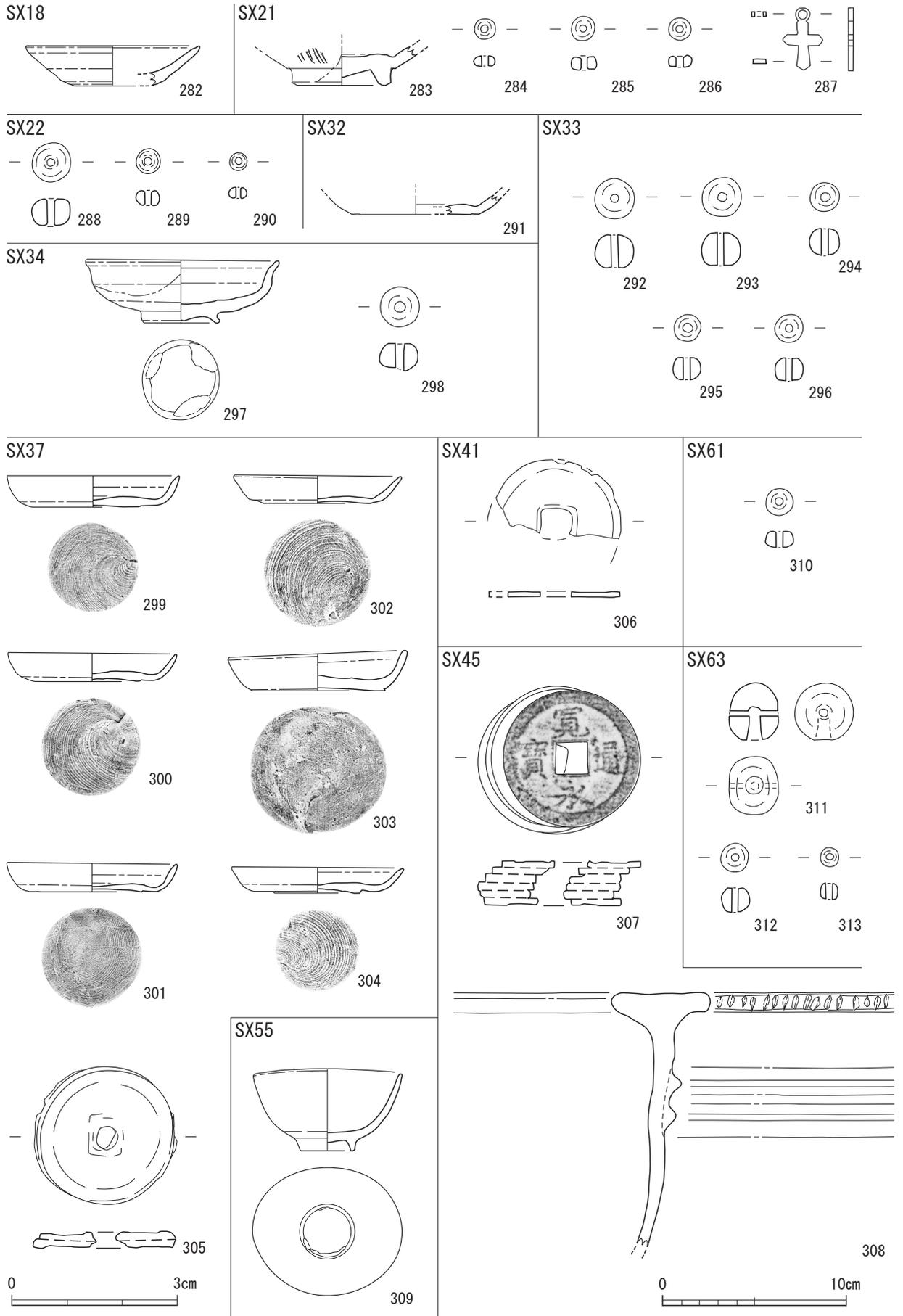
調査区北側に位置する。墓坑は長軸1.85m(床面で1.15m)、短軸1.3m(床面で0.9m)の平面隅丸長方形を呈し、深さは1.5mである。墓坑内に人骨が残る。銭が出土した。

#### 出土遺物(第98図、図版99)

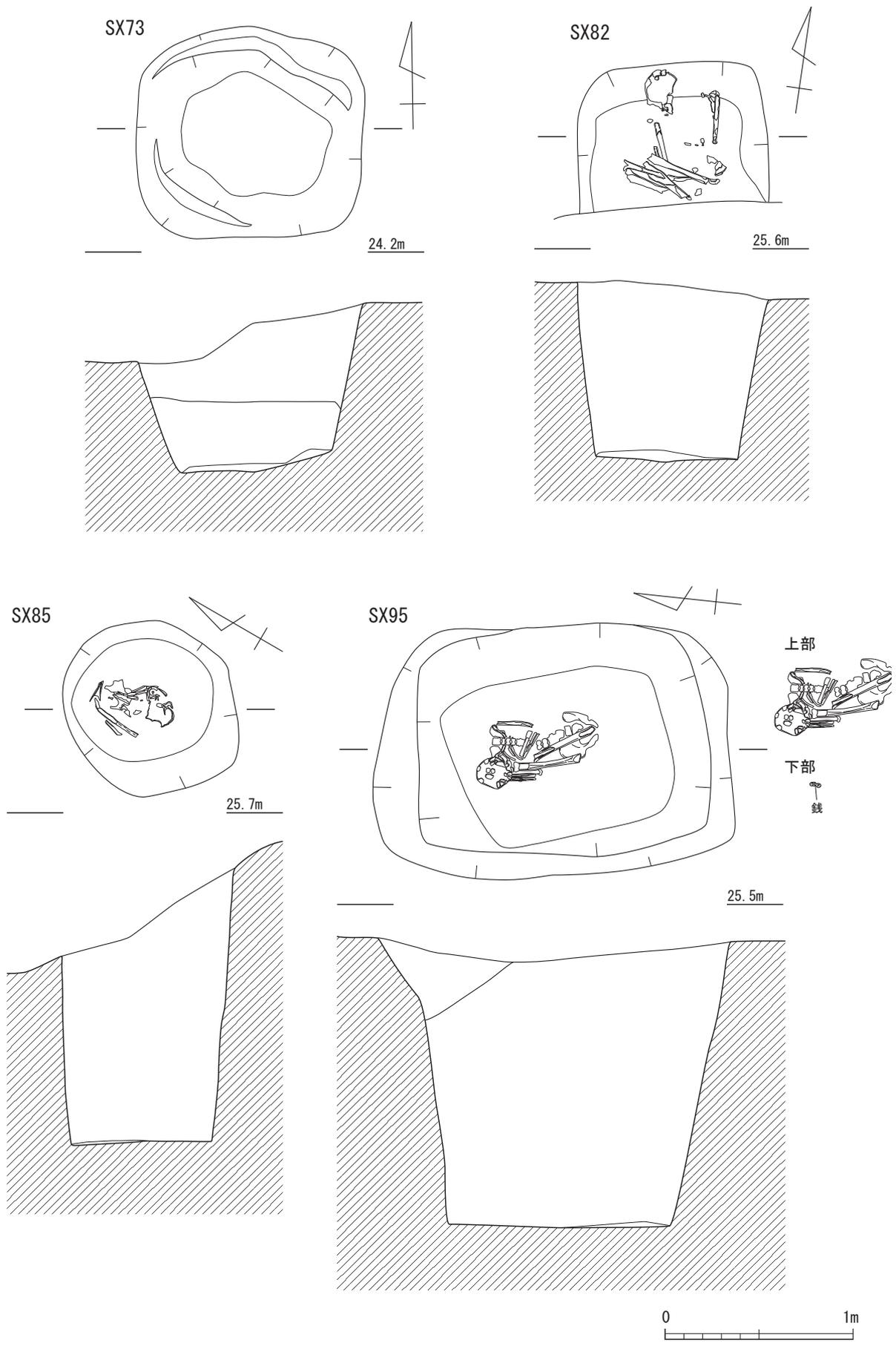
銅製品(319～322) いずれも銅銭で、320と322は2枚が錆のため重なって固着する。322は布状のものが付着する。322の実測図の下1枚を除き、銭文は寛永通宝である。

#### SX98 (第97図、図版66)

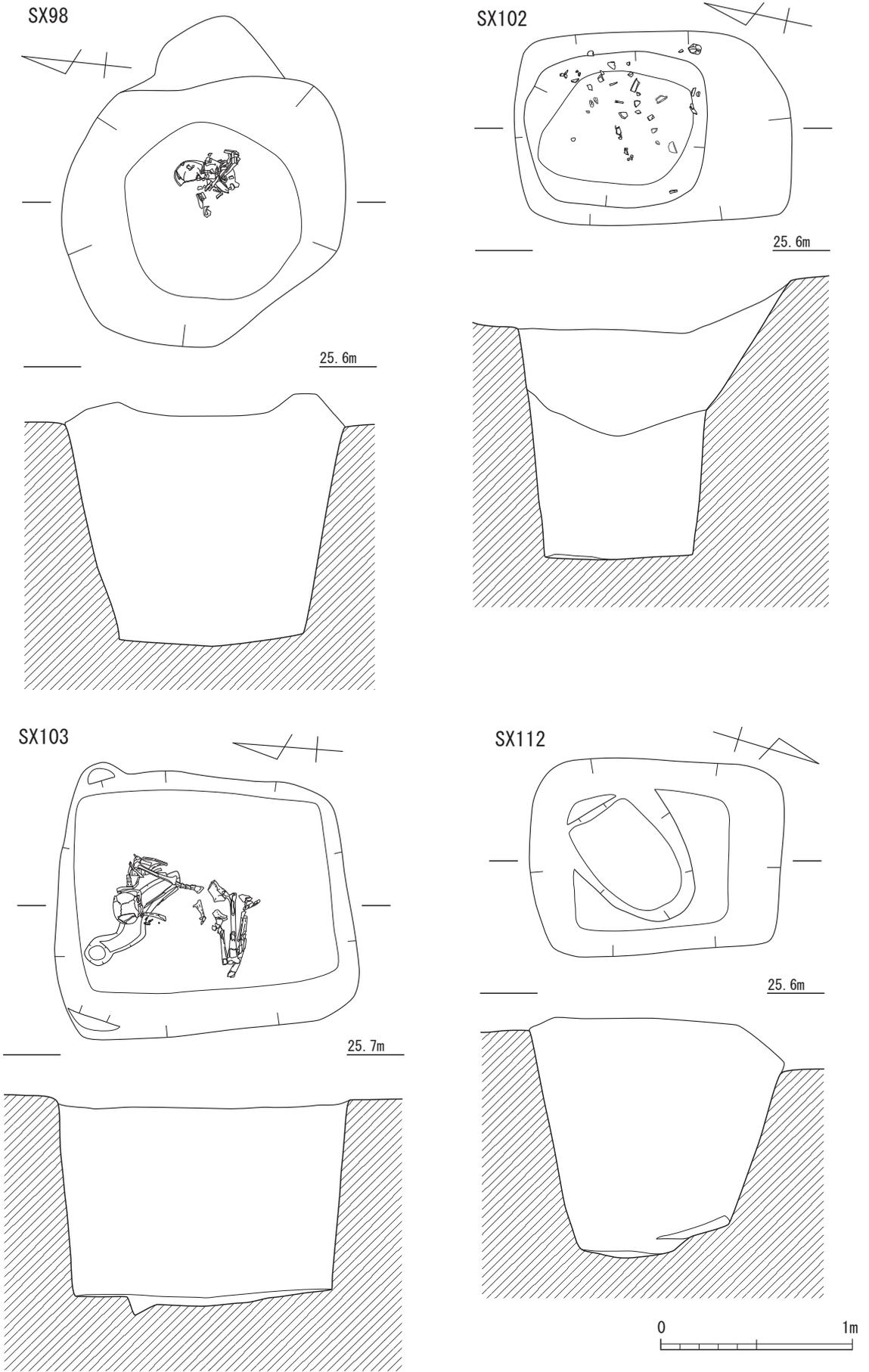
調査区北側に位置する。墓坑は長軸1.5m(床面で0.9m)、短軸1.4m(床面で0.9m)の平面不整



第95図 SX18・21・22・32～34・37・41・45・55・61・63 出土遺物実測図  
(282・283・291・297・299～304・308・309は1/3、他は原寸)

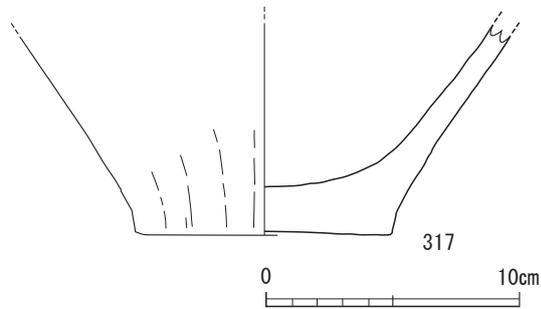
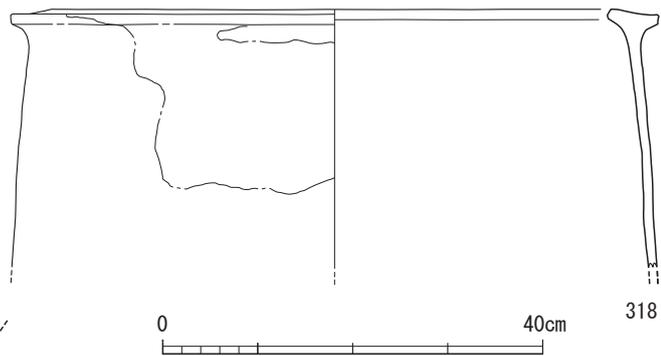
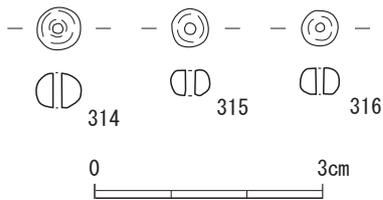


第96図 SX73・82・85・95実測図(1/30)

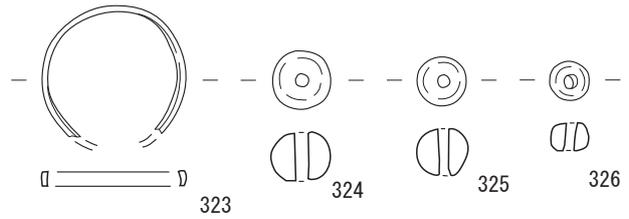


第 97 図 SX98・102・103・112 実測図 (1/30)

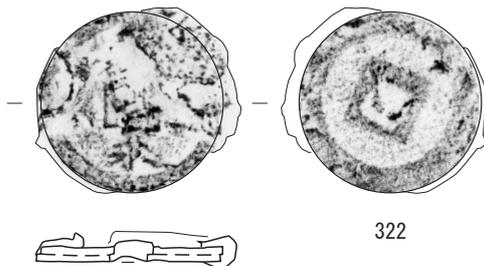
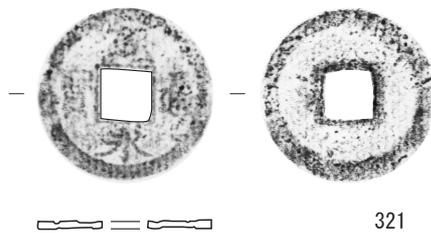
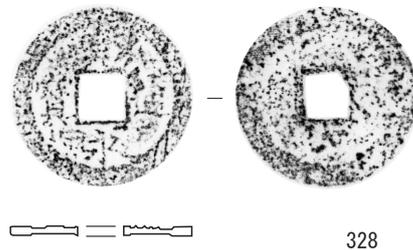
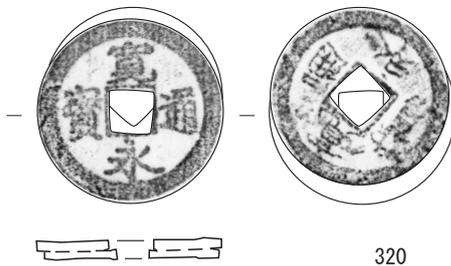
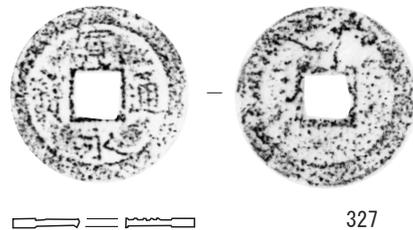
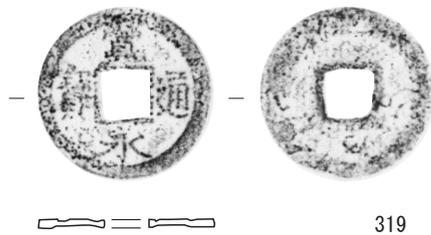
SX67



SX102



SX95



第98図 SX67・95・102 出土遺物実測図 (317は1/3、318は1/8、他は原寸)

な円形を呈し、深さは1.35mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

#### SX102 (第97図、図版66)

調査区北側に位置する。墓坑は長軸1.45m(床面で0.75m)、短軸1.0m(床面で0.6m)の平面長方形を呈し、深さは1.45mである。墓坑内に人骨が残る。銅製品・銭・玉・繊維等が出土した。

#### 出土遺物(第98図、図版93)

**銅製品(323・327～330)** 323は外側が丸みをもつ断面蒲鉾形の円環であるが、用途は不明。327～330は銅銭の寛永通宝である。図化していないが、他に2個体分の銅銭が出土しており、1点は寛永通宝でもう1点の銭文は不明。

**ガラス製品(324～326)** 324は白色で半透明の数珠玉。透明なガラスが少し風化したもの。325は無色透明の数珠玉。326は青緑色の数珠玉。

#### SX103 (第97図、図版66)

調査区北側に位置する。墓坑は長軸1.5m(床面で1.35m)、短軸1.3m(床面で1.05m)の平面長方形を呈し、深さは1.1mである。墓坑内に人骨が残る。小玉・磁器が出土した。

#### 出土遺物(第103図、図版97)

**陶磁器(331)** 磁器の猪口。全面に施釉した後、高台畳付の釉を剥ぎ取る。やや灰色味の釉を施し、貫入がある。口縁部の形態はSX99出土380と類似する。

**ガラス製品(332～336)** 完形の数珠玉8点と破片が出土し、5点を図化した。332～334は明黄褐色半透明の数珠玉。335は白色に風化した数珠玉。336も白色に風化した数珠玉だが、わずかに黄緑色味を帯びる。

#### SX112 (第97図)

調査区北側に位置する。墓坑は長軸1.3m(床面で0.6m)、短軸1.0m(床面で0.4m)の平面長方形を呈し、深さは1.25mである。陶器片が出土した。

#### SX114 (第99図)

調査区中央に位置する。墓坑は長軸0.7m以上(床面で0.7m)、短軸0.7m以上(床面で0.6m)の平面隅丸方形と考えられ、深さは0.4mである。磁器が出土した。

#### 出土遺物(第103図、図版96)

**陶磁器(337)** 染付磁器の猪口。笹の葉文様が1か所ある。全面に施釉した後、高台畳付の釉を拭き取る。高台には砂が付着する。

#### SX116 (第99図、図版66)

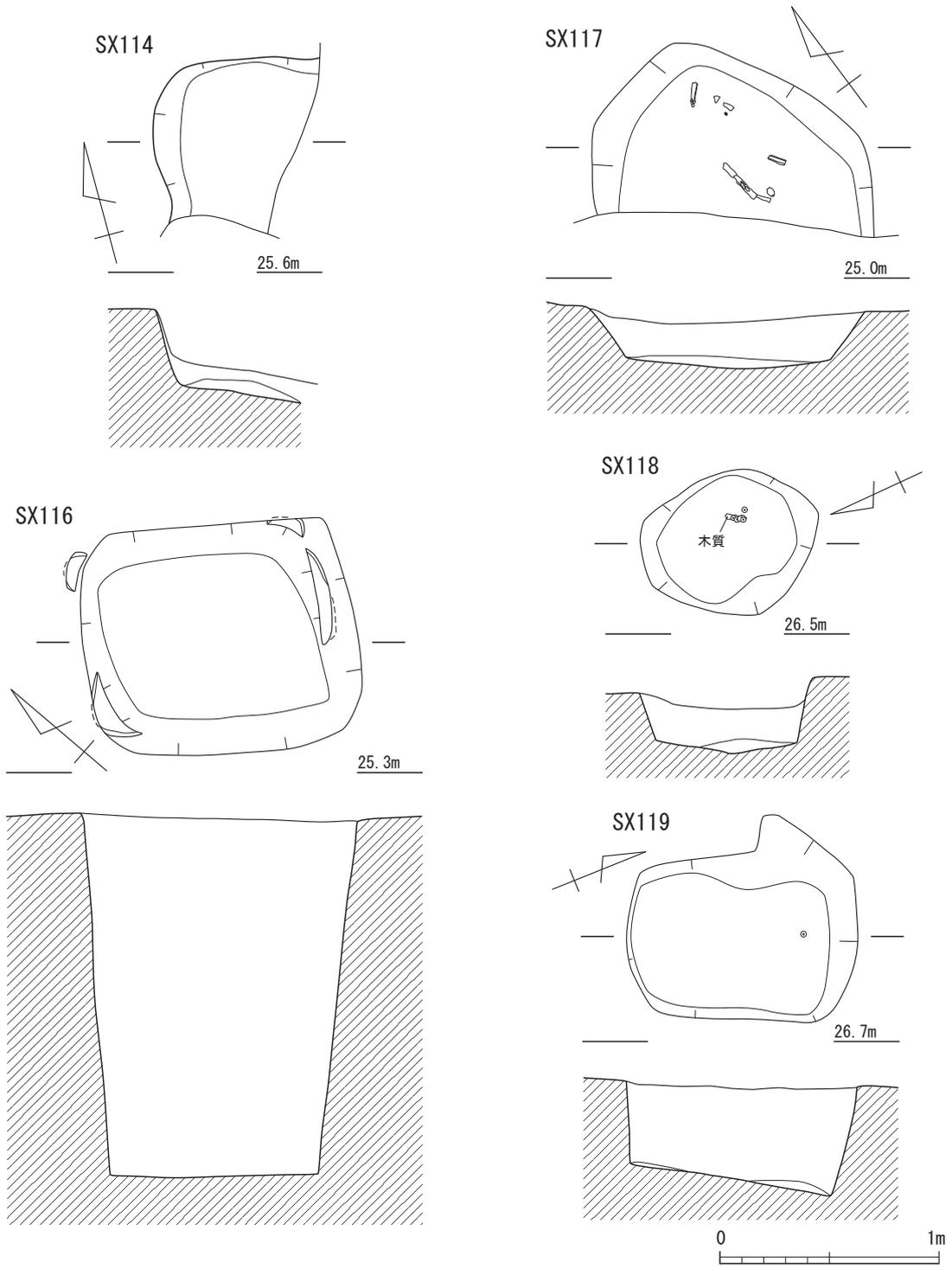
調査区北東側に位置する。墓坑は長軸1.25m(床面で0.95m)、短軸1.05m(床面で0.75m)の平面長方形を呈し、深さは1.65mである。磁器碗が出土した。

#### SX117 (第99図、図版66)

調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸1.25m(床面で1.1m)、短軸0.7m以上(床面で0.65m以上)の平面不整形を呈し、深さは0.2mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

#### SX118 (第99図、図版66)

調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸0.85m(床面で0.65m)、短軸0.65m(床面で0.5m)の



第99図 SX114・116～119実測図(1/30)

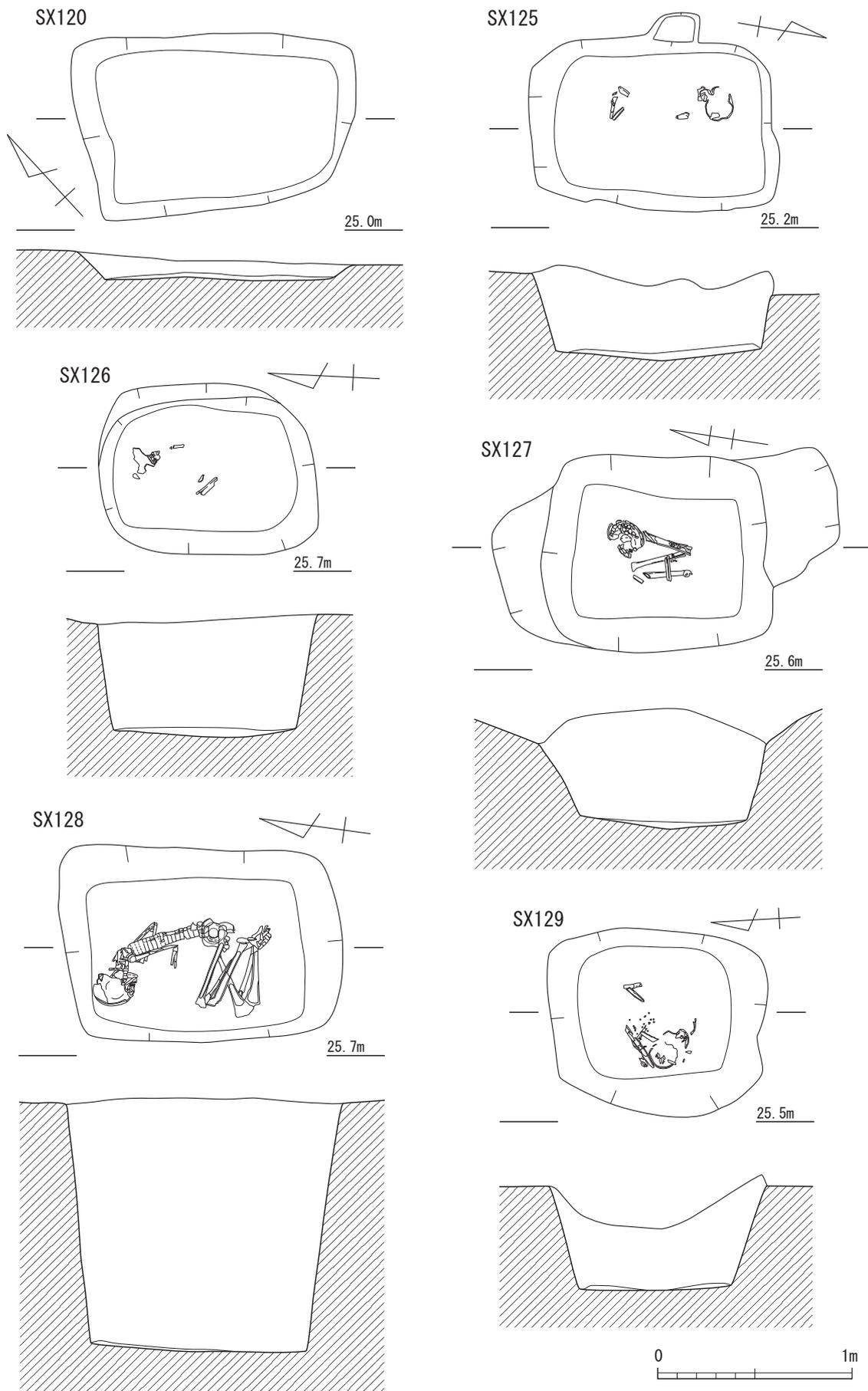
平面楕円形を呈し、深さは0.3mである。銭が出土した。

出土遺物(第103図、図版99)

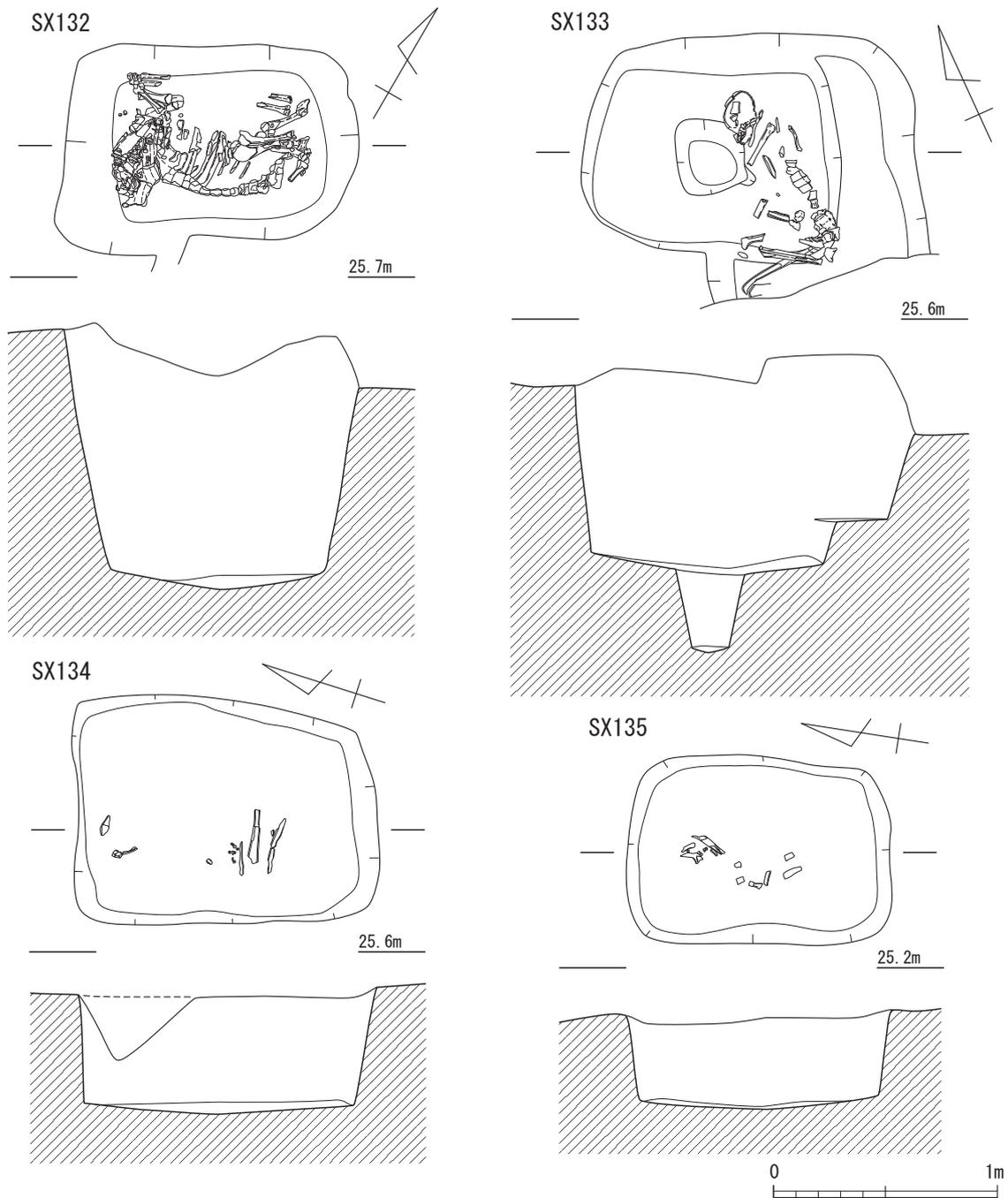
銅製品(338～341) 338～341は銅銭で、338～340は寛永通宝、341の銭文は不明である。339は背面に「文」の字を鋳出す。340は3枚がずれて錆のため重なって固着する。

SX119(第99図)

調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸1.05m(床面で0.9m)、短軸0.85m(床面で0.6m)の平面不整な長方形を呈し、深さは0.5mである。土器片・銭が出土した。



第100図 SX120・125～129実測図(1/30)



第101図 SX132～135実測図(1/30)

出土遺物(第103図、図版99)

銅製品(342)銅銭で銹が進行して銭文が崩れているが、寛永通宝である。

SX120(第100図)

調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸1.4m(床面で1.2m)、短軸0.95m(床面で0.75m)の平面不整な長方形を呈し、深さは0.1mである。土器片が出土した。

SX125(第100図、図版66)

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.25m(床面で1.15m)、短軸0.9m(床面で0.8m)の平面長方形を呈し、深さは0.5mである。316は白色に風化した数珠玉。土師器杯・小皿・磁器椀が出土した。

**出土遺物（第103図、図版95）**

**土師器（343・344）** 343は小皿で、344は杯。ともに底部は回転糸切りで、板状圧痕がある。口縁部から体部は回転ナデで底部内面はナデである。

**陶磁器（345）** 染付磁器の椀。全面に施釉した後、高台畳付周辺の釉を拭き取る。ほぼ等間隔に3か所施文するが、高さはずらしている。

**弥生土器（346）** 高杯の杯部で内外面ともに丹塗りである。体部中位に1条のM字突帯を貼り付ける。口縁部外面から突帯がヨコナデ、突帯より下位がナデ、内面はナデである。SX130出土の270と攪乱5出土の397は同一個体と思われるが、接合しない。

**SX126（第100図、図版67）**

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.1m（床面で0.9m）、短軸0.9m（床面で0.65m）の平面隅丸長方形を呈し、深さは0.6mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

**SX127（第100図、図版67）**

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.15m（床面で0.85m）、短軸1.0m（床面で0.7m）の平面不整形な長方形を呈し、深さは0.6mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

**SX128（第100図、図版67）**

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.45m（床面で1.1m）、短軸1.0m（床面で0.8m）の平面長方形を呈し、深さは1.3mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

**SX129（第100図、図版67）**

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.1m（床面で0.8m）、短軸0.95m（床面で0.65m）の平面隅丸長方形を呈し、深さは0.6mである。墓坑内に人骨が残る。小玉が出土した。

**出土遺物（第103図、図版97）**

**ガラス製品（347～351）** 完形の数珠玉が35点出土し、5点を図化した。うち1点は切断の失敗のためか連玉になっている。347・349～351は無色半透明のガラス玉で表面が部分的に白色に風化する。そのうち350は風化した白色部分が細かい筋の縞模様になる。348も無色半透明の数珠玉で表面に細かな亀裂が入る。

**SX132（第101図、図版67）**

調査区北側に位置する。墓坑は長軸1.3m（床面で0.95m）、短軸0.85m（床面で0.65m）の平面隅丸長方形を呈し、深さは1.2mである。墓坑内で牛と考えられる骨が出土した。

**SX133（第101図、図版68）**

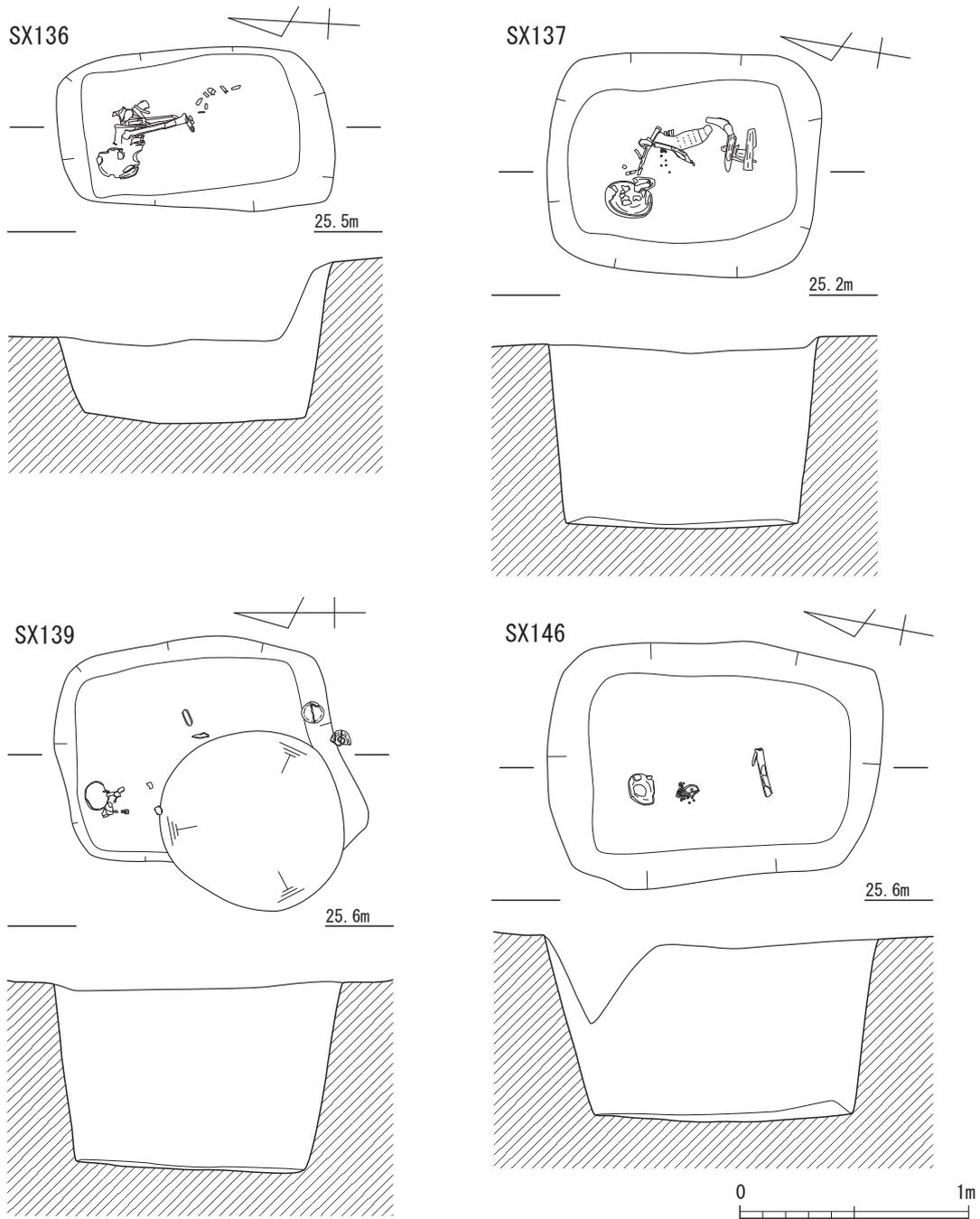
調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.5m（床面で1.0m）、短軸1.0m（床面で0.8m）の平面隅丸長方形を呈し、深さは1.0mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

**SX134（第101図、図版68）**

調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸1.3m（床面で1.2m）、短軸1.0m（床面で0.9m）の平面長方形を呈し、深さは0.55mである。墓坑内に人骨が残る。土師器小皿・玉が出土した。

**出土遺物（第103図、図版97）**

**ガラス製品（352）** 完形の数珠玉が5点と破片が出土し、1点を図化した。352は白色に風化した



第102図 SX136・137・139・146実測図(1/30)

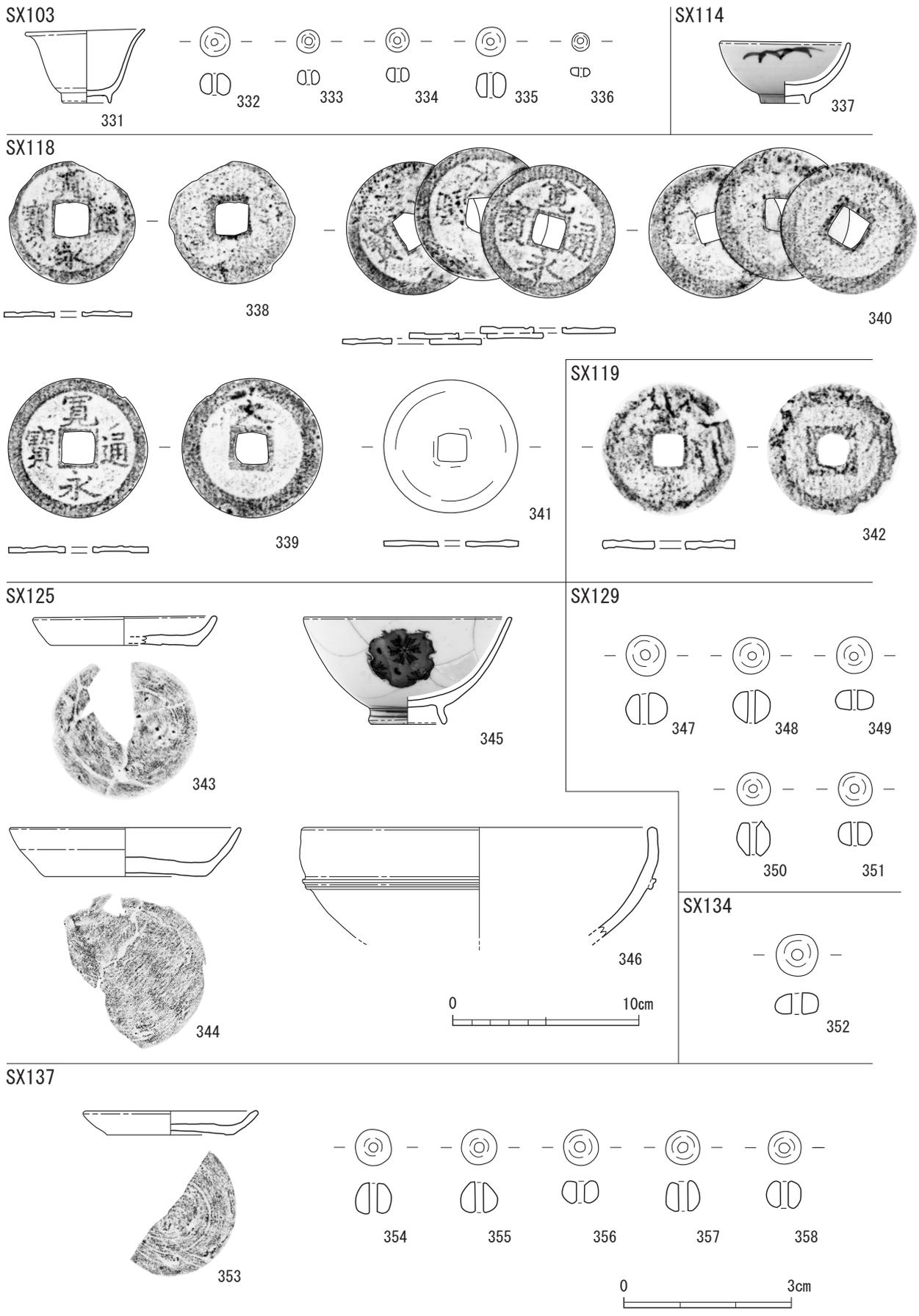
数珠玉。

**SX135 (第101図、図版68)**

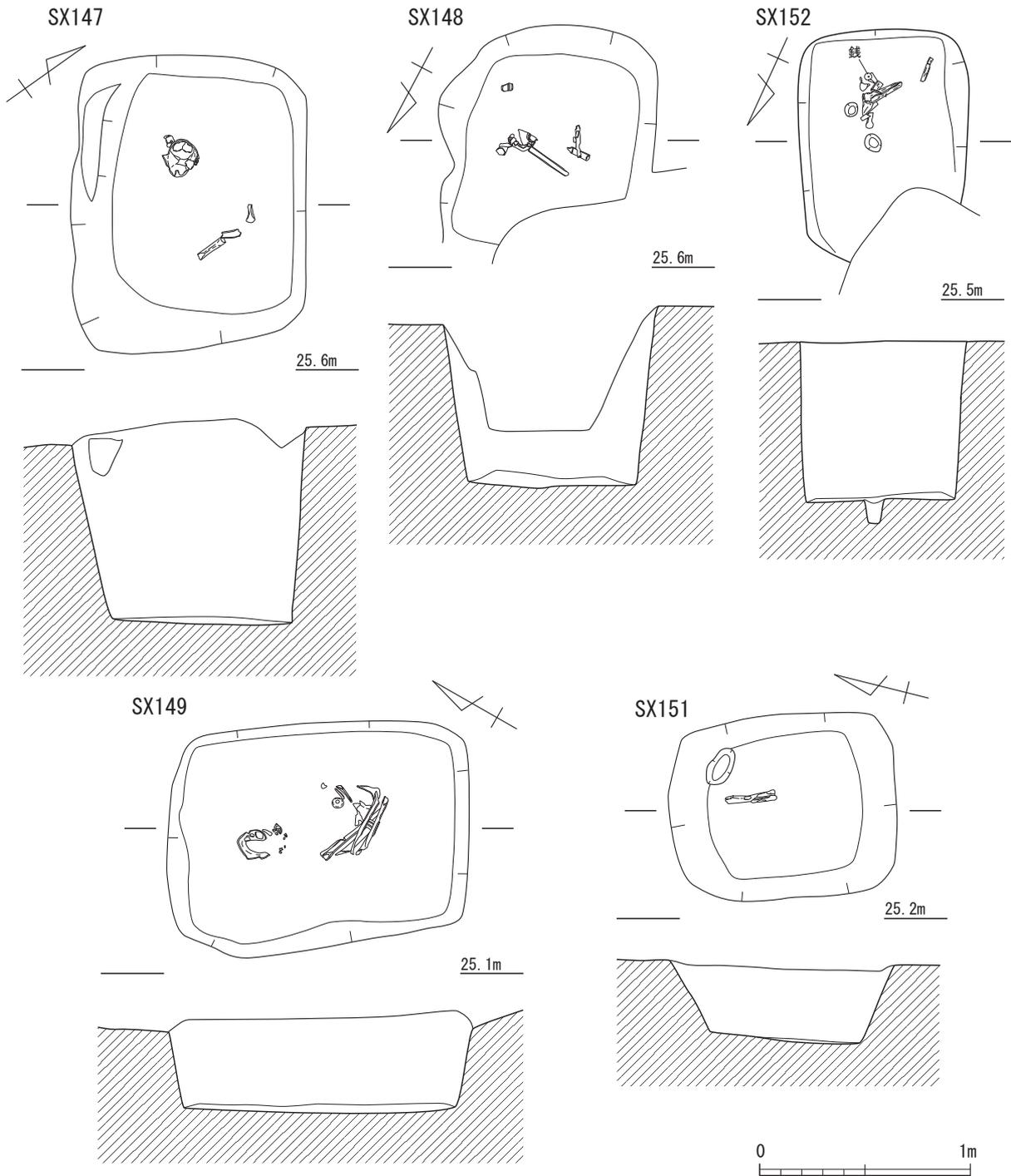
調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸1.15m(床面で1.05m)、短軸0.85m(床面で0.7m)の平面長方形を呈し、深さは0.45mである。墓坑内に人骨が残る。土器片が出土した。

**SX136 (第102図、図版68)**

調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸1.2m(床面で0.9m)、短軸0.7m(床面で0.6m)の平面長方形を呈し、深さは0.7mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。



第103図 SX103・114・118・119・125・129・134・137 出土遺物実測図  
(331・337・343～346・353は1/3、他は原寸)



第104図 SX147～149・151・152 実測図 (1/30)

SX137 (第102図、図版68)

調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸 1.2m (床面で 1.0m)、短軸 1.0m (床面で 0.7m) の平面隅丸長方形を呈し、深さは 0.8m である。墓坑内に人骨が残る。数珠玉・土師器小皿が出土した。

出土遺物 (第103図、図版98)

土師器 (353) 小皿で、口縁部の一部にススが付着するため、灯明皿として使用されたと考えられる。底部は回転糸切りで板状圧痕がある。内外面ともに回転ナデ、底部内面はナデ。

ガラス製品（354～358）数珠玉が20点出土し、5点を図化した。354・357は無色透明の数珠玉で表面は白色に風化する部分が多い。355・356・358は白色に風化する数珠玉。

**SX139（第102図、図版68）**

調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸1.2m（床面で1.0m）、短軸0.95m（床面で0.8m）の平面長方形を呈し、深さは0.8mである。墓坑内に人骨が残る。土師器小皿・陶器皿・玉が出土した。

**出土遺物（第106図、図版97・98）**

**土師器（359・360）**ともに小皿で底部は回転糸切り、360には板状圧痕がある。

**陶磁器（361）**陶器の皿。胴部は屈曲し、口縁部は外反し、端部は小さく内湾する。内面から口縁部外面、一部は胴部下位まで施釉する。釉はにぶい灰緑色で光沢がある。見込みには3か所の砂目痕がある。

**ガラス製品（362）**黄褐色で半透明の数珠玉。

**SX146（第102図、図版69）**

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.45m（床面で1.1m）、短軸1.05m（床面で0.8m）の平面長方形を呈し、深さは0.8mである。墓坑内に人骨が残る。数珠玉・土器片が出土した。

**出土遺物（第106図、図版97）**

**ガラス製品（363～367）**完形の数珠玉88点と破片が出土し、5点を図化した。363・366は白色に風化した数珠玉。364・365・367は無色半透明の数珠玉で、表面の大部分が白色に風化する。

**SX147（第104図、図版69）**

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.4m（床面で1.1m）、短軸1.1m（床面で0.85m）の平面隅丸長方形を呈し、深さは1.0mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

**SX148（第104図、図版69）**

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.1m以上（床面で0.9m）、短軸1.0m（床面で0.8m）の平面不整形を呈し、深さは0.85mである。墓坑内に人骨が残る。土器片が出土した。

**SX149（第104図、図版69）**

調査区中央東側に位置する。墓坑は長軸1.4m（床面で1.3m）、短軸1.1m（床面で0.9m）の平面長方形を呈し、深さは0.5mである。墓坑内に人骨が残る。磁器猪口が出土した。

**出土遺物（第106図、図版98）**

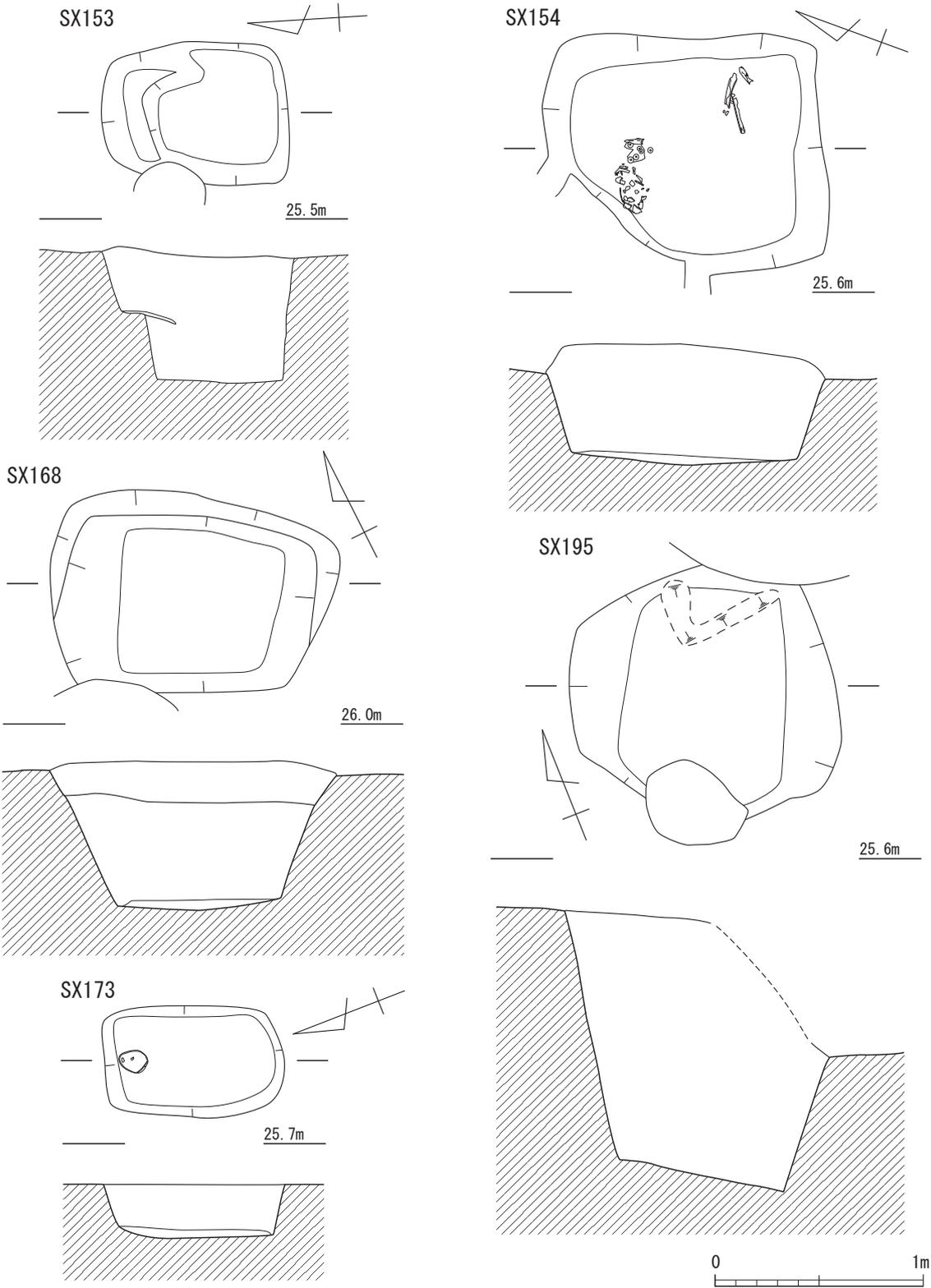
**陶磁器（368）**染付磁器の猪口で、外面に草花文を描く。内面から体部外面、部分的には高台部外面まで施釉する。

**SX151（第104図、図版69）**

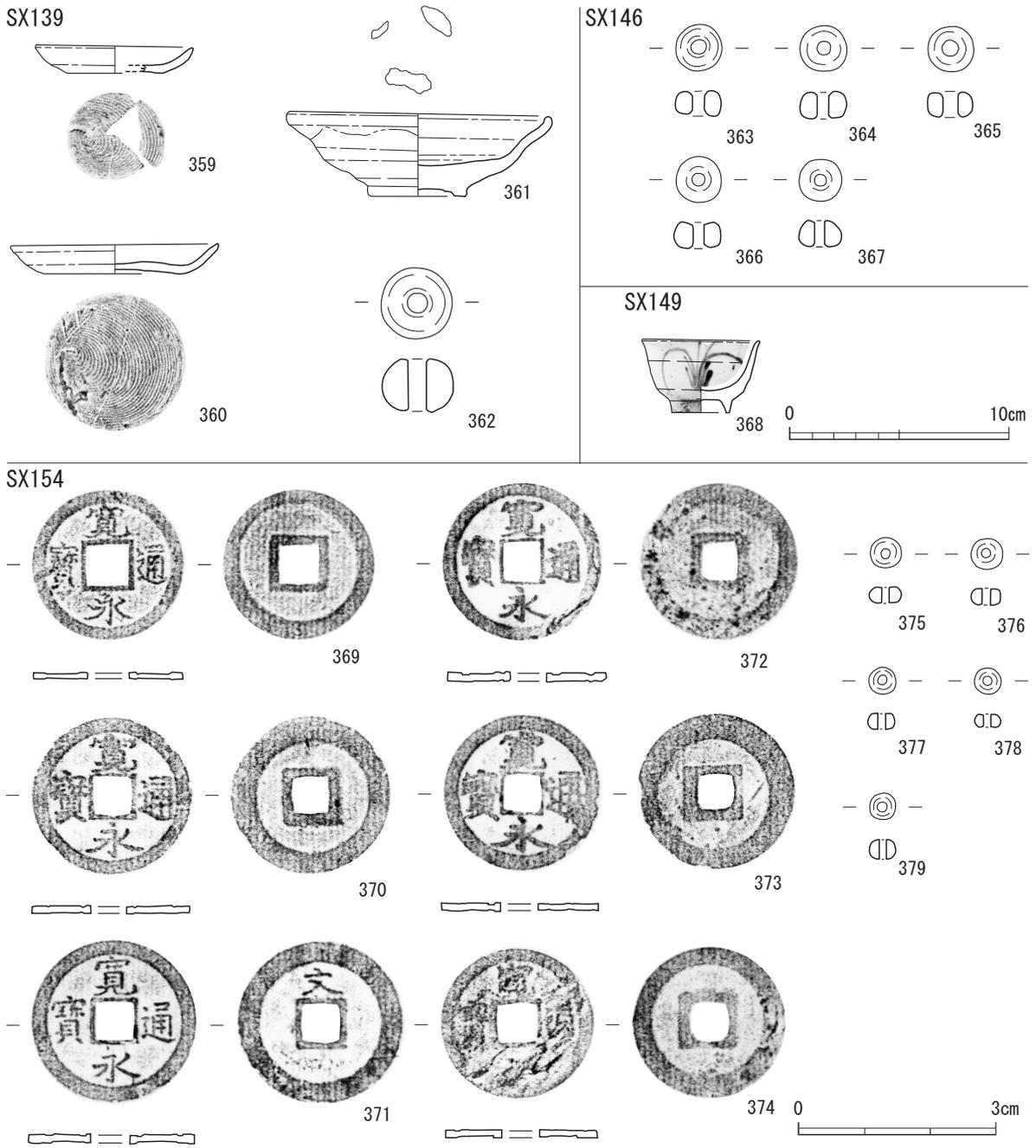
調査区北東側に位置する。墓坑は長軸1.1m（床面で0.75m）、短軸0.9m（床面で0.65m）の平面長方形を呈し、深さは0.35mである。墓坑内に人骨が残る。副葬品はない。

**SX152（第104図）**

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.1m（床面で1.0m）、短軸0.7m（床面で0.65m）の平面長方形を呈し、深さは0.75mである。墓坑内に人骨が残る。銭が出土した。



第105図 SX153・154・168・173・195実測図(1/30)



第106図 SX139・146・149・154 出土遺物実測図  
(359～361・368は1/3、他は原寸)

SX153 (第105図、図版69)

調査区中央に位置する。墓坑は長軸0.9m(床面で0.6m)、短軸0.7m(床面で0.55m)の平面長方形を呈し、深さは0.65mである。土器片が出土した。

SX154 (第105図)

調査区中央に位置する。墓坑は長軸1.3m(床面で1.1m)、短軸1.15m(床面で0.95m)の平面不整な長方形を呈し、深さは0.6mである。墓坑内に人骨が残る。銭・小玉・木質が出土した。

#### 出土遺物（第106図、図版97）

**銅製品（369～374）** 369～374は銅銭の寛永通宝で、371の背面には「文」の文字を鋳出し、374には繊維状のものが付着する。

**ガラス製品（375～379）** 数珠玉が105点出土し、5点を図化した。375・376・377・378は無色半透明の数珠玉。375は細い筋状の白色に風化する部分が少しあるが、透明度が高い。378は375よりも風化部分が多く透明度が少し劣る。376・377は無色半透明で表面の白色に風化した部分が多い。379は青緑色と風化した白色部分とが縞模様になる数珠玉。

#### SX168（第105図）

調査区北東側に位置する。墓坑は長軸1.4m（床面で0.8m）、短軸1.0m（床面で0.7m）の平面不整な長方形を呈し、深さは0.75mである。副葬品はない。

#### SX173（第105図、図版69）

調査区北西側に位置する。墓坑は長軸0.85m（床面で0.75m）、短軸0.55m（床面で0.4m）の平面長方形を呈し、深さは0.25mである。副葬品はない。

#### SX195（第105図）

調査区南東側に位置する。墓坑は長軸1.3m（床面で1.1m）、短軸1.25m（床面で0.9m）の平面不整な円形を呈し、深さは1.35mである。副葬品はない。

#### ④その他の遺構

#### SX71（第107図）

調査区南東隅に位置する。長軸1.5～1.7mの平面不整な円形を呈し、深さは0.4mである。出土遺物はない。

#### SX99（第107図）

調査区北側に位置する。長軸2.0m、短軸0.8mの平面隅丸長方形を呈し、深さは0.4mである。磁器・銭が出土しており、墳墓の可能性が高い。

#### 出土遺物（第109図、図版99）

**陶磁器（380・381）** 380は磁器の猪口で、開き気味の胴部に端反りの口縁部をもつ。やや灰色味の透明釉がかかり、貫入がある。381は染付磁器の椀で、体部は丸みを持ち口縁部は直に立ち上がる。外面に草花文を描く。

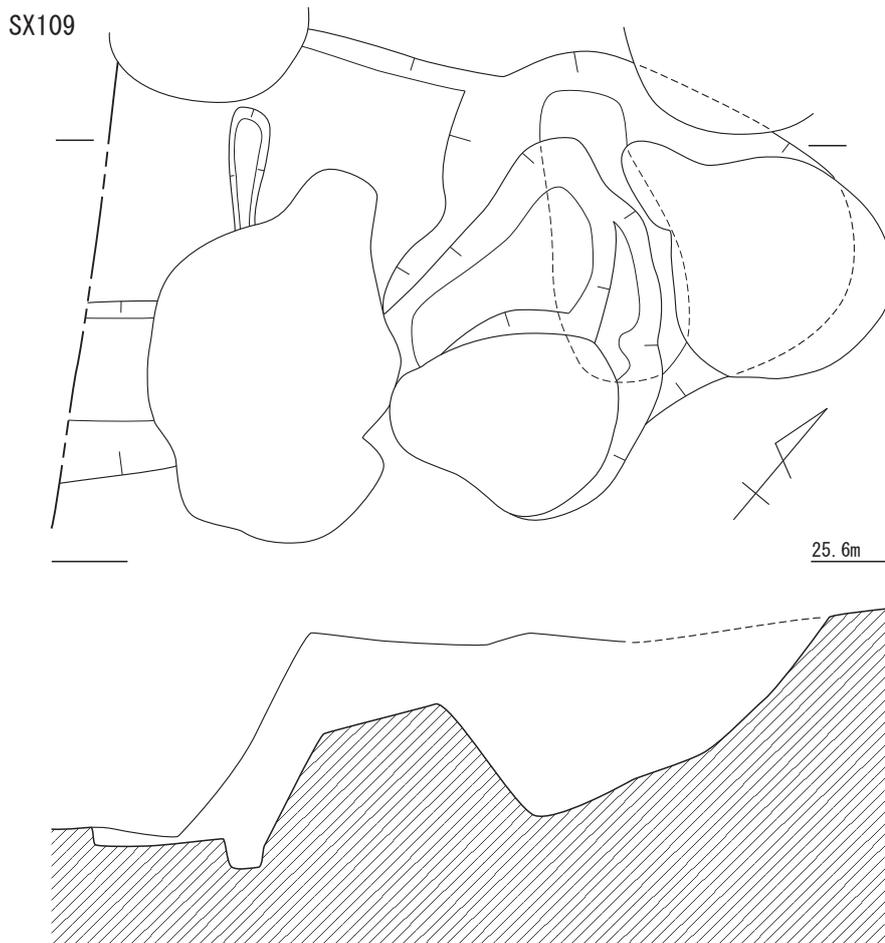
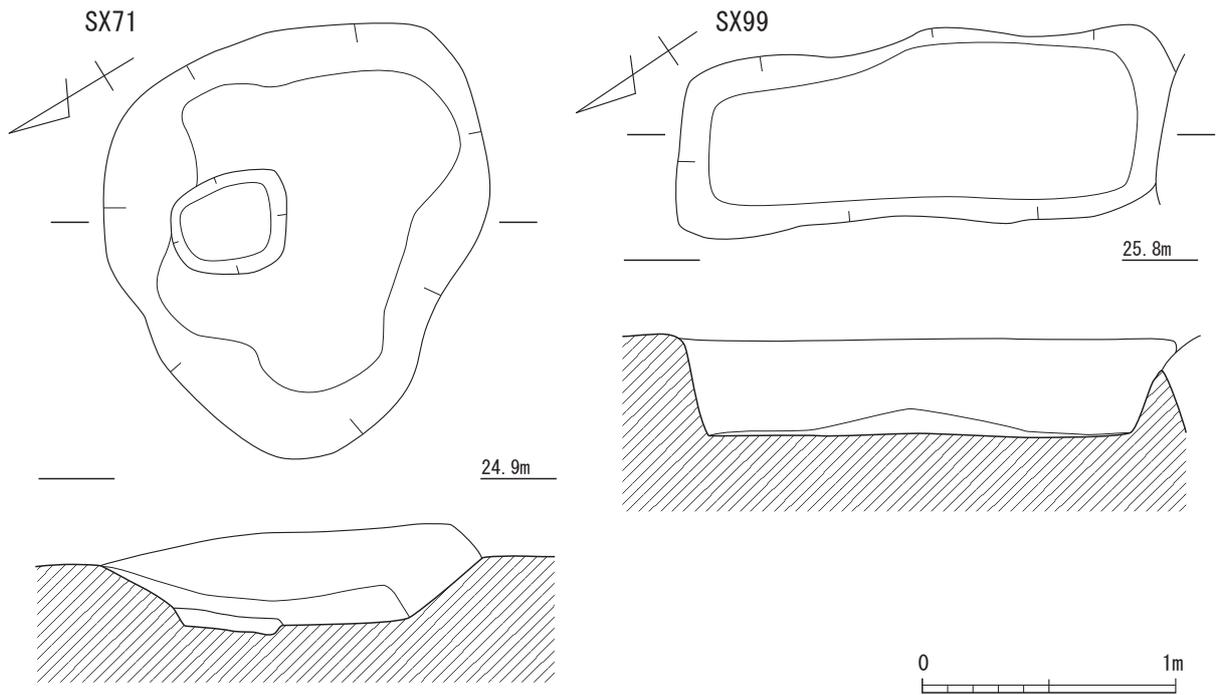
**銅製品（382）** 銭貨の模造品と考えられる。歪んだ円形で中央部を円形に打ち抜く。

#### SX109（第107図）

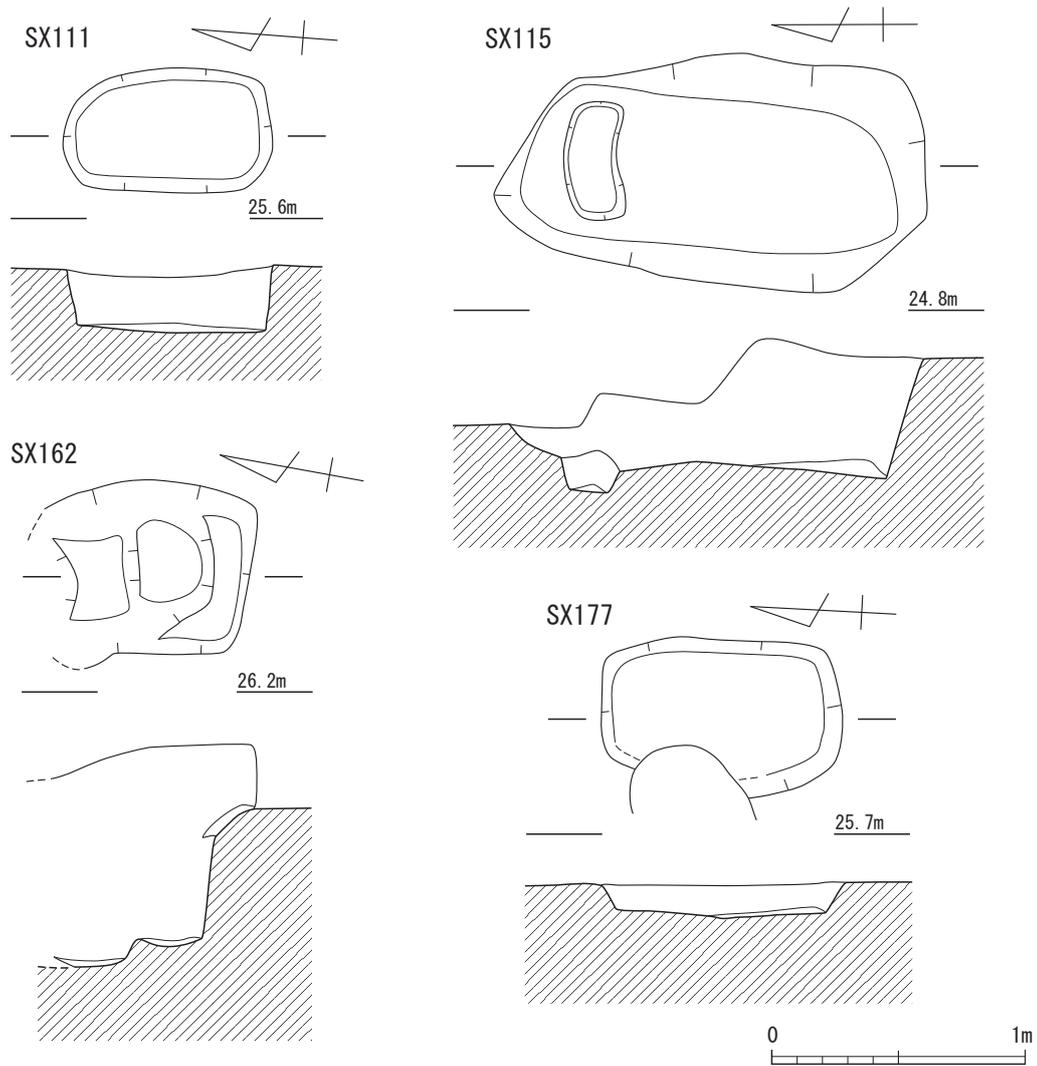
調査区北側に位置し、SX85・110等多くの遺構に切られ、西側は調査区外に広がる。遺構の全形は不明であるが、墓坑は長軸3.0m以上、短軸1.5m以上の平面不整形を呈する。深さ最深部では0.8mである。陶器等が出土した。

#### 出土遺物（第109図、図版98）

**瓦質土器（383・384）** 383は蓋である。つまみは上部を凹ませ、受け部は直角に上方に立ち上がる。口縁部は逆L字状に屈曲する。つまみから口縁部にかけてはロクロナデ、底面はナデ。384は壺で、口縁部から胴部中程まで欠損する。底部内外面はナデ調整。胴部外面はハケ状工具によるヨコナデ



第107図 SX71・99・109実測図(1/30)



第108図 SX111・115・162・177実測図(1/30)

でそれより上は研磨している。胴部内面はロクロナデ調整。383と384は焼成、胎土ともに同様に、合わせて蓋付壺になると思われるが、壺の上位が欠損するため断定はできない。

**陶磁器(385)** 陶器の甕。肩部に最大径があり口縁部は短く立ち上がって端部を玉縁状にする。内外面に暗褐色の釉を施し、底部外面は露胎となる。内面の釉は極く薄く、口縁部内外面に重ね掛けをする。肩部付近に沈線が3条巡り、その上に貼花文が現状で1箇所残存する。

**SX111(第108図)**

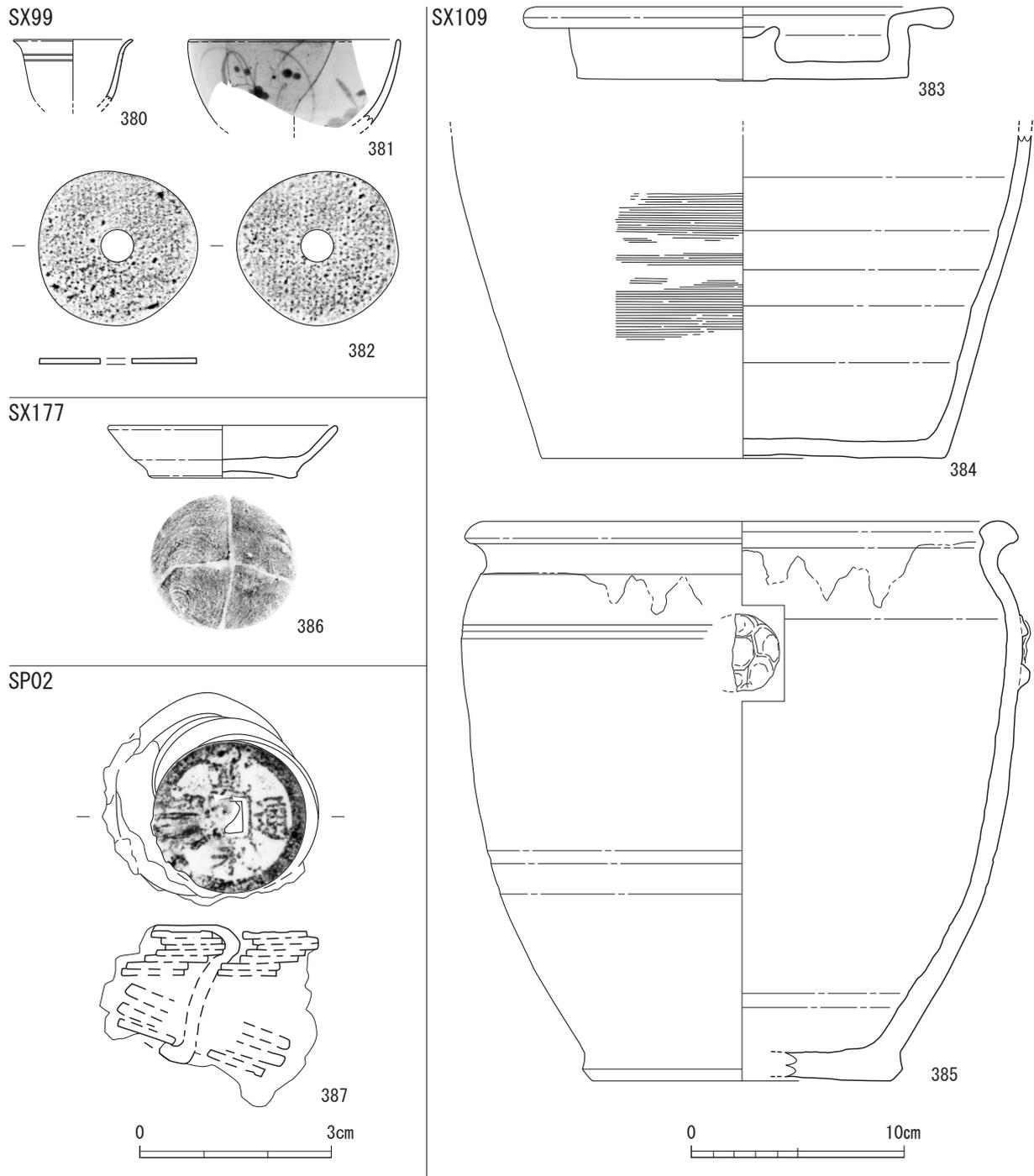
調査区北側に位置する。長軸0.7m、短軸0.5mの平面隅丸長方形形を呈し、深さは0.25mである。出土遺物はない。

**SX115(第108図)**

調査区中央部に位置する。長軸1.7m、短軸0.9mの平面不整な長方形形を呈し、深さは0.5mである。床面北側がピット状に0.1mほど深い。出土遺物はない。

**SX162(第108図)**

調査区北側に位置する。長軸0.9m以上、短軸0.7mの平面隅丸長方形形を呈し、深さは0.8mで



第109図 SX99・109・177・SP02 出土遺物実測図（382・387は原寸、他は1/3）

ある。出土遺物はない。

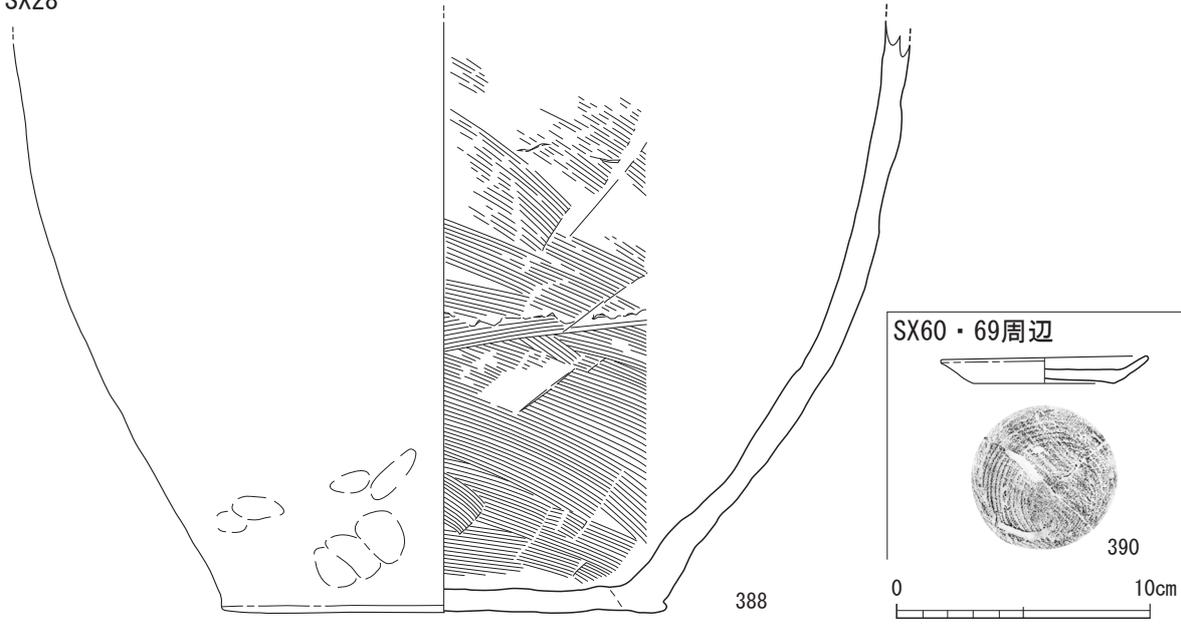
SX177（第108図）

調査区北西側に位置する。長軸0.95m、短軸0.6mの平面隅丸長方形を呈し、深さは0.1mである。

出土遺物（第109図、図版98）

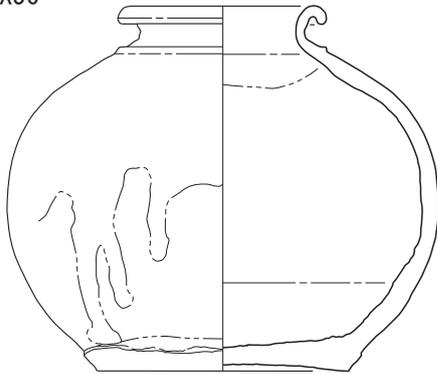
土師器（386）杯で、底部は回転糸切り。口縁部から体部が内外面ともに回転ナデ、底部内面はナデ。

SX28

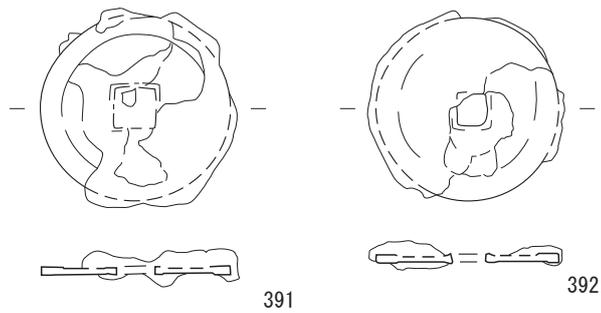


第7・8次  
調査

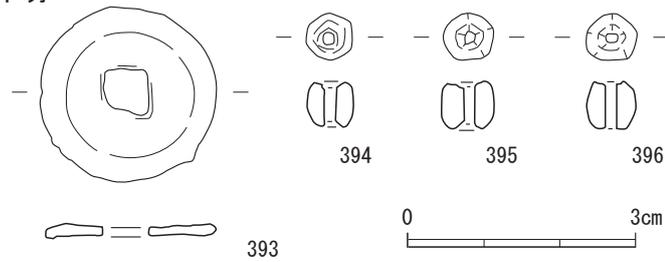
SX56



不明



不明



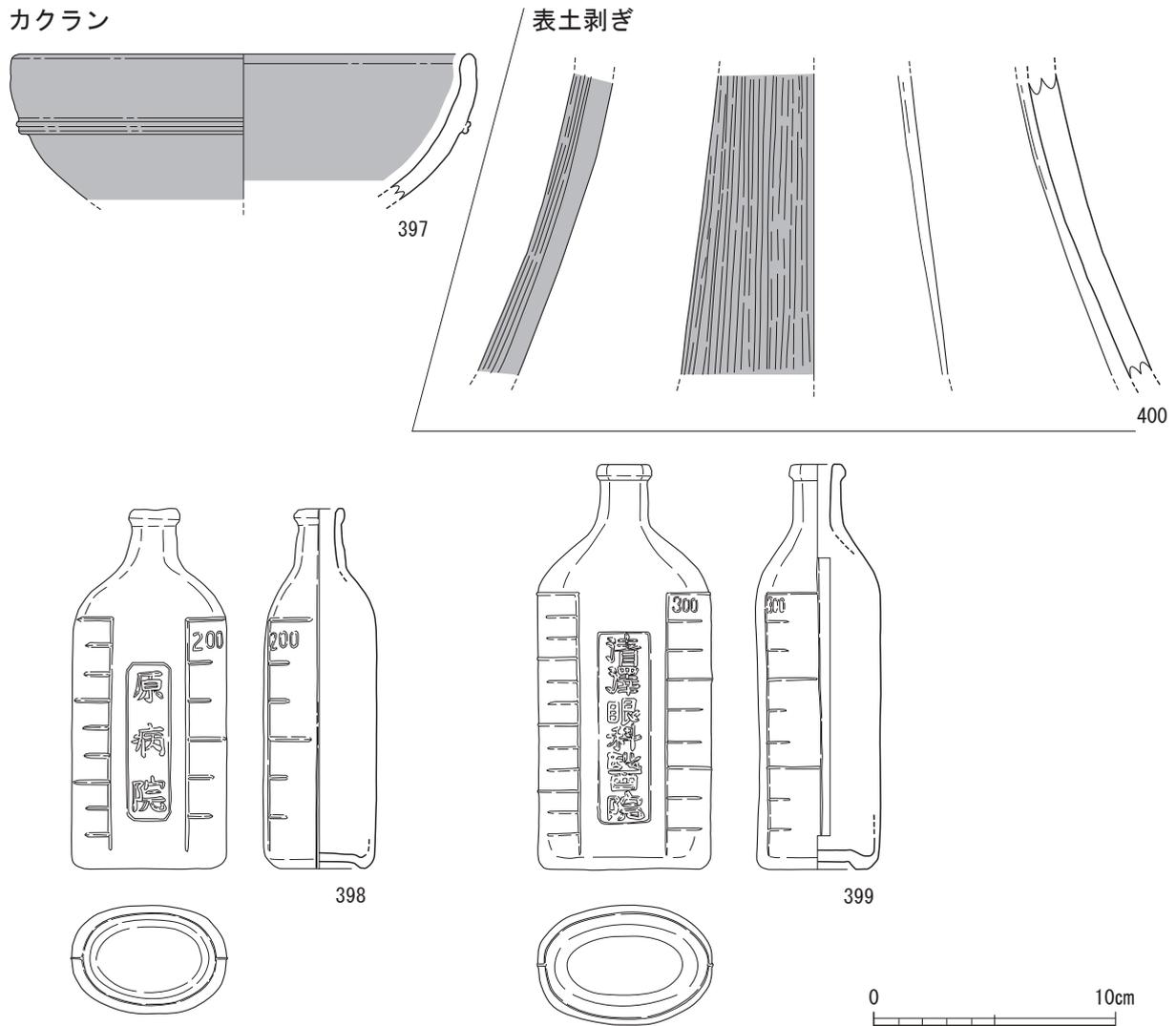
第110図 SX28・56・60-69周辺、その他の出土遺物実測図  
(388～390は1/3、他は原寸)

#### (4) その他の出土遺物

SP02 出土遺物 (第109図、図版99)

銅製品・鉄製品 (387) 銅銭8枚と鉄銭2枚?が重なって錆のため固着する。実測図の上から7枚と最下位1枚が銅銭で、最下位1枚の上の2枚?が鉄銭である。上から1枚目の銭文は寛永通宝であるが、他は不明である。緋が残存する。

SX28 出土遺物 (第110図、図版98)



第111図 カクラン・表土・その他の出土遺物実測図（1/3）

土師器（388）甕。胴部中位から底部が残存する。胴部内面がハケメで外面はハケメ後ナデ、底部は内外面ともにナデ。

SX56 出土遺物（第110図、図版98）

陶磁器（389）陶器の壺。口縁部は短く立ち上がり端部は外方に丸く折る。頸部に段がつき、胴部は底部から丸味をもって立ち上がる。底部は回転糸切り。体部外面から口縁部内面に暗褐色の釉を施すが、体部は重ね掛けをしており釉が垂れる。

SX60・69 周辺出土遺物（第110図、図版100）

土師器（390）小皿。底部は回転糸切りで、板状圧痕がある。調整は口縁部から体部が内外面ともに回転ナデ、底部内面はナデ。

出土地点不明遺物（第110図、図版99）

銅製品（391～393）391は拓本ができる状態ではないが、「永」と「寛」の字の一部が判読できる銅銭の寛永通宝である。392・393は銭文不明の銅銭。

木製品（394～396）数珠玉が71点出土し、3点を図化した。394～396は数珠玉で表面の色調

は黒褐色である。

#### カクラン出土遺物（第 111 図、図版 100）

弥生土器（397）高杯の杯部で、内外面ともに丹塗りである。体部に 1 条の M 字突帯を貼り付ける。口縁部内外面と突帯はヨコナデ、体部は内外面ともにナデ。

ガラス製品（398・399）398・399 は気泡の多いガラスの薬瓶である。398 には「原病院」、399 には「清澤眼科病院」の名前が入る。398 よりも 399 の方が容量が大きいこと以外、体部断面が楕円形で、口縁端部を肥厚させ上げ底であることなどの形態や、名前や目盛りのデザインなどは似通ったものである。

#### 表土剥ぎ時出土遺物（第 111 図）

弥生土器（400）筒形器台で、透かしがある。外面がタテ方向のミガキで内面がナデ。外面は丹塗りである。

### 3. 小結

ここでは、主要遺構の時間的位置づけについて概要を記述する。詳細はⅧ章総括を参照されたい。最もさかのぼる遺物として 32 号甕棺墓出土の石核があり、旧石器時代の資料である。

弥生時代の遺構としては、甕棺墓・土坑墓・木棺墓・石蓋土坑墓・石棺墓がある。前期末～中期初頭前後に土坑墓（木棺墓）が出現、中期前半には甕棺墓を主体とした列状墓を形成する。中期後半～後期初頭頃には甕棺墓による集塊状墓を形成するが、後期前半には甕棺墓が消滅する。後期前半～中頃では土坑墓、後期後半～終末では石蓋土坑墓・石棺墓へと変遷する。

古墳時代になると 1～3 号墳とした古墳が出現する。出土した土器より 1 号墳は古墳時代初頭（久住Ⅱ A 期）、3 号墳は古墳時代前期前半（久住Ⅱ B 期）に位置づけられる。

古墳築造後、長期間にわたり土地利用の痕跡がなくなるが、近世になり再び墓地が営まれるようになる。17 世紀には墓地（木棺墓主体）の形成がはじまったと考えられ、以後桶棺墓→甕棺墓へと変遷しながら、20 世紀中頃まで継続する。

#### 【参考文献】

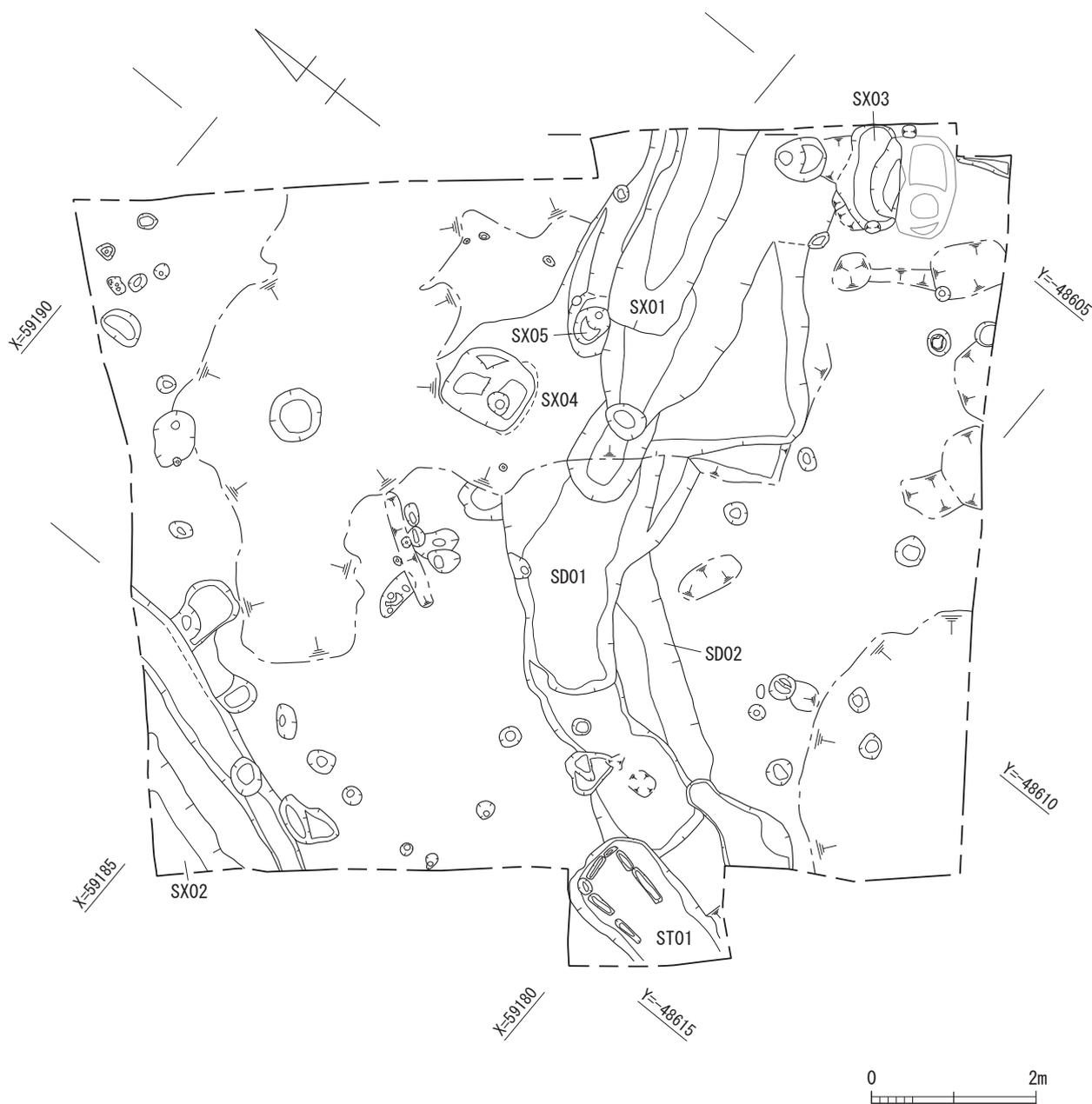
久住猛雄 1999 「北部九州における庄内式併行期の土器様相」『庄内式土器研究 XIX』

## VI. 瑞穂遺跡第 10 次調査

### 1. 調査概要

調査地は瑞穂遺跡の中央部、大野城市瑞穂町 2 丁目 31- 8、31-12 に所在する。調査面積は 100 m<sup>2</sup>である。微高地最高所付近から南西側の低地に向かって低くなっていく地点にあたる。

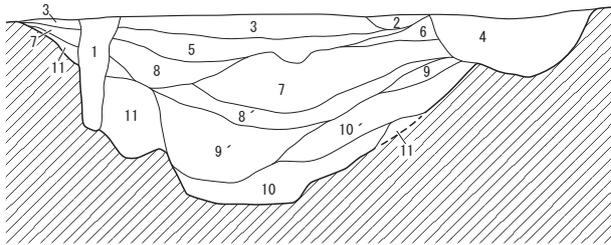
調査地の現況は宅地で、現地表下 20 ～ 60 cm で橙色粘質土を検出し、この面を遺構面と捉え遺構検出を行った。その結果、溝状遺構 2 条、木棺墓 1 基、土坑墓 1 基、その他土坑、性格不明の落ち込みのほか、複数のピットを確認した。遺物は多数の弥生土器や土師器・須恵器が出土した。なお、調査区東側を中心に攪乱があり、遺構面が消滅する。



第 112 図 遺構配置図 (1/80)

SD01①(東側)

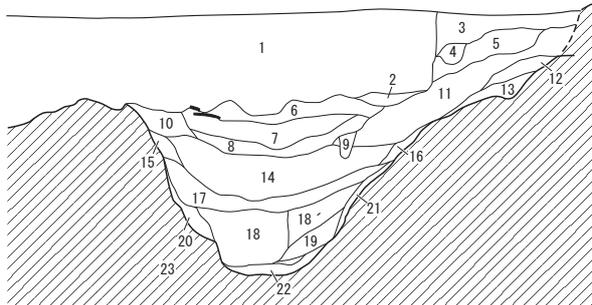
24.5m



1. 黒色(7.5YR2/1)+灰褐色(7.5YR4/2)+黄褐色(7.5YR7/8)ブロック
2. 黒色(7.5YR2/1)+褐灰色(7.5YR6/1)ブロック 現代擾乱
3. 黒色(7.5YR2/1)+橙色(7.5YR6/8)ブロック多い 締まり弱い 現代擾乱
4. 黒色(7.5YR2/1)+橙色(7.5YR6/8) 締まり弱い 現代擾乱
5. 黒色土(7.5YR2/1) 締まりあり 粘質 土器多い SD01溝
6. 黒色(7.5YR2/1)+灰褐色(7.5YR4/2) 締まりあり やや粒 ブロック(セメント)含む 現代擾乱
7. 灰褐色(7.5YR4/2)～黒褐色(7.5YR3/2) 固く締まる 粘質 細かい橙色の土を多く含む 赤生土器多い
8. 黒褐色(7.5YR3/1)～黒色(7.5YR2/1) 締まりあり 粘質 細かい橙色の土を含む
- 8' 色等8層と同じ 5mm以下の礫を多く含む
- 9' 灰褐色(7.5YR4/2)+黒褐色(7.5YR3/1)+橙色(7.5YR6/6) 締まりやや弱い 粘質(5mm以下の礫が多く混じる)
10. 明褐色(7.5YR5/8)+灰褐色(7.5YR4/2) 締まりやや弱い 粒、礫が多く混じる
11. 橙色(7.5YR6/6) 締まる 粘質 地山

SD01②(東壁)

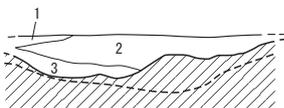
24.9m



1. 黒色(7.5YR1.7/1)+橙色(7.5YR6/6)+褐灰色(7.5YR4/2) 締まり弱い 現代擾乱
2. 橙色(7.5YR6/6)+灰褐色(7.5YR4/2) 締まり弱い 現代擾乱
3. 黒褐色(7.5YR3/2)+橙色(7.5YR6/6) 締まりあり 粘 埋土 ビット?
4. 黒褐色(7.5YR3/1)+橙色(7.5YR6/6)(微細) 締まりあり 粘 埋土 ビット?
5. 灰黄褐色(10YR4/2)+黄褐色(10YR5/6)+橙色(7.5YR6/6)(微細) 締まりあり 粘
6. 黒褐色～褐灰色(7.5YR3/1～4/1)+橙色(7.5YR6/6)(微) 締まりあり 粘 土器多く含む 少量炭
7. 黒褐色(7.5YR2/1)+褐色(7.5YR6/6)(ブロック) 固く締まる 粘土
8. 黒色(7.5YR2/1) 締まりあり 粘(砂混じる)
9. 黒色(7.5YR2/1)+灰褐色(7.5YR4/2) 締まり弱い 粘 底の方のみ黒
10. 黒褐色(7.5YR3/2)+橙色(7.5YR6/6) 8層より締まる 7より弱 粘 黒色(7.5YR2/1)少し混じる 堆積土
11. 10層よりやや黒色土減る 堆積土
12. にぶい橙色(7.5YR6/4)+黒褐色(7.5YR3/2) 固く締まる 粘性强 炭
13. 褐灰色(7.5YR5/1)+にぶい橙色(7.5YR6/4)+褐色(7.5YR6/6) 粘 締まる
14. 褐色(7.5YR4/3～4/4)+黒色(7.5YR1.7/1)+褐色(7.5YR6/6)(微) 締まりやや弱 粘
15. にぶい橙色(7.5YR6/4)～褐色(7.5YR6/6) 締まり弱 粘(粒子細かい)
16. にぶい褐色(7.5YR6/4)+にぶい黄褐色(10YR5/4) 締まりやや弱 粘(粒子細かい)
17. 黒色(7.5YR1.7/1)～黒褐色(7.5YR3/2) 固く締まる～やや締まる 粘(粒子細かい) 北ほど固く締まる 一部地山ブロック(橙色(7.5YR6/6))
18. 灰褐色(7.5YR4/2)+黄褐色(7.5YR7/8)+黄褐色(10YR8/6～8/8)+黒色(7.5YR1.7/1) 締まり弱 粘 炭が入る
- 18' 18層とほぼ同じ ブロックが小さくなり、炭が入らない
19. 褐色(7.5YR4/3～4/4)+黒色(7.5YR1.7/1) 締まり弱(18層よりややある) 粘 炭ごく少しあり
20. 暗褐色(7.5YR3/3) 締まり弱 粘(粒子細かい)
21. 褐灰色(7.5YR5/1)+褐色(7.5YR6/6) 締まり弱 粘(粒子細かい)
22. 黄褐色(7.5YR7/8)～褐色(7.5YR6/8) 締まる 粘
23. 黄褐色(10YR8/8～7/8)～灰白色(10YR8/2) 締まる 粘 地山

SD02土層

25.0m



第113図 SD01①・②・SD02土層実測図(1/40)

2. 遺構と遺物

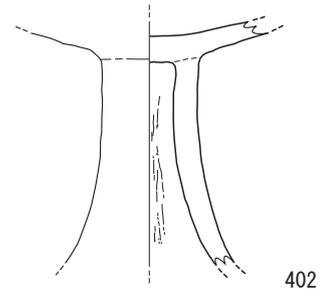
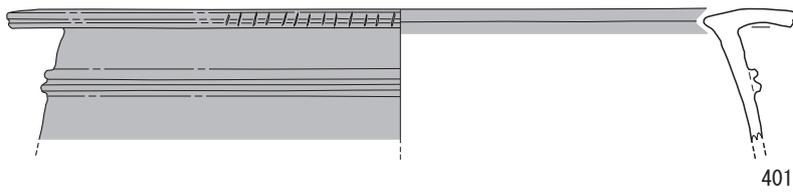
(1) 溝状遺構

調査区中央を東西方向にのびる溝状遺構である。西側をSD01、東側をSX01として調査したが、一連の遺構である可能性があるため、ここで報告する。

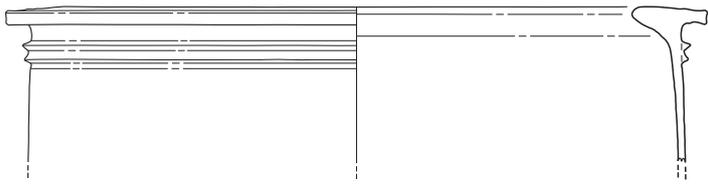
SD01(SX01)(第113～118図、図版71～72)

ST01・SX03・SX05に切られ、SD02を切る。平面はわずかに弧を描き、長さは現状で10m以上で、東は調査区外へと伸びる。深さは西側で0.2m、中央部から東側が1.0～1.3m程で、断面形はおおむね逆台形を呈し、一部二段掘り状となる部分もある。埋土は基本的には自然堆積した状況であるが、不整合面をなすところもある。平面的には土坑が連続したようにも見えることから、度重なる掘り直しの可能性もあろう。遺物は埋土上層から比較的量の弥生土器が出土し、甕棺

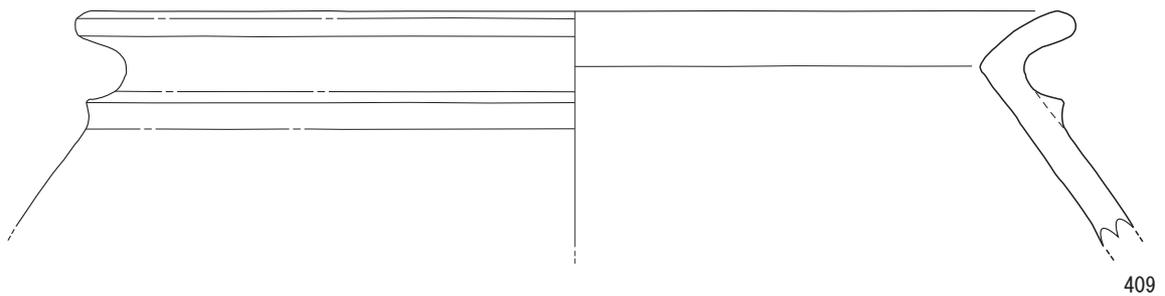
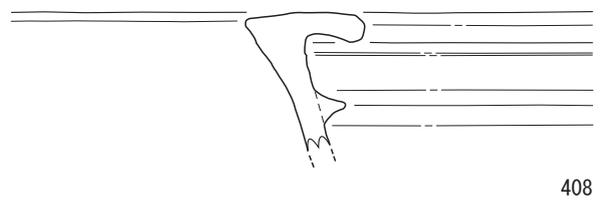
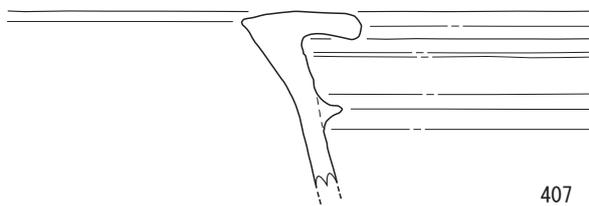
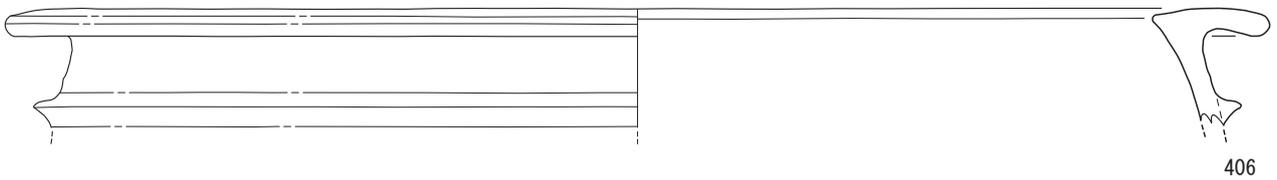
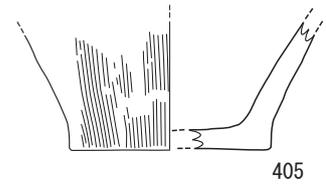
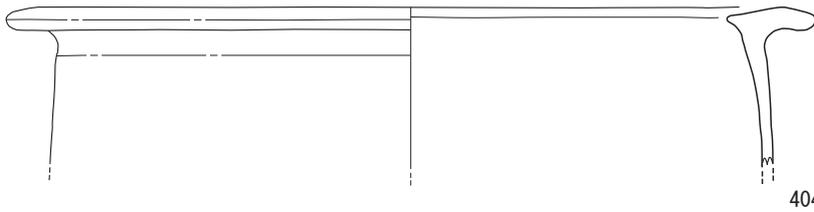
SX01 (1層 カクラン)



SX01 (2層 カクラン)

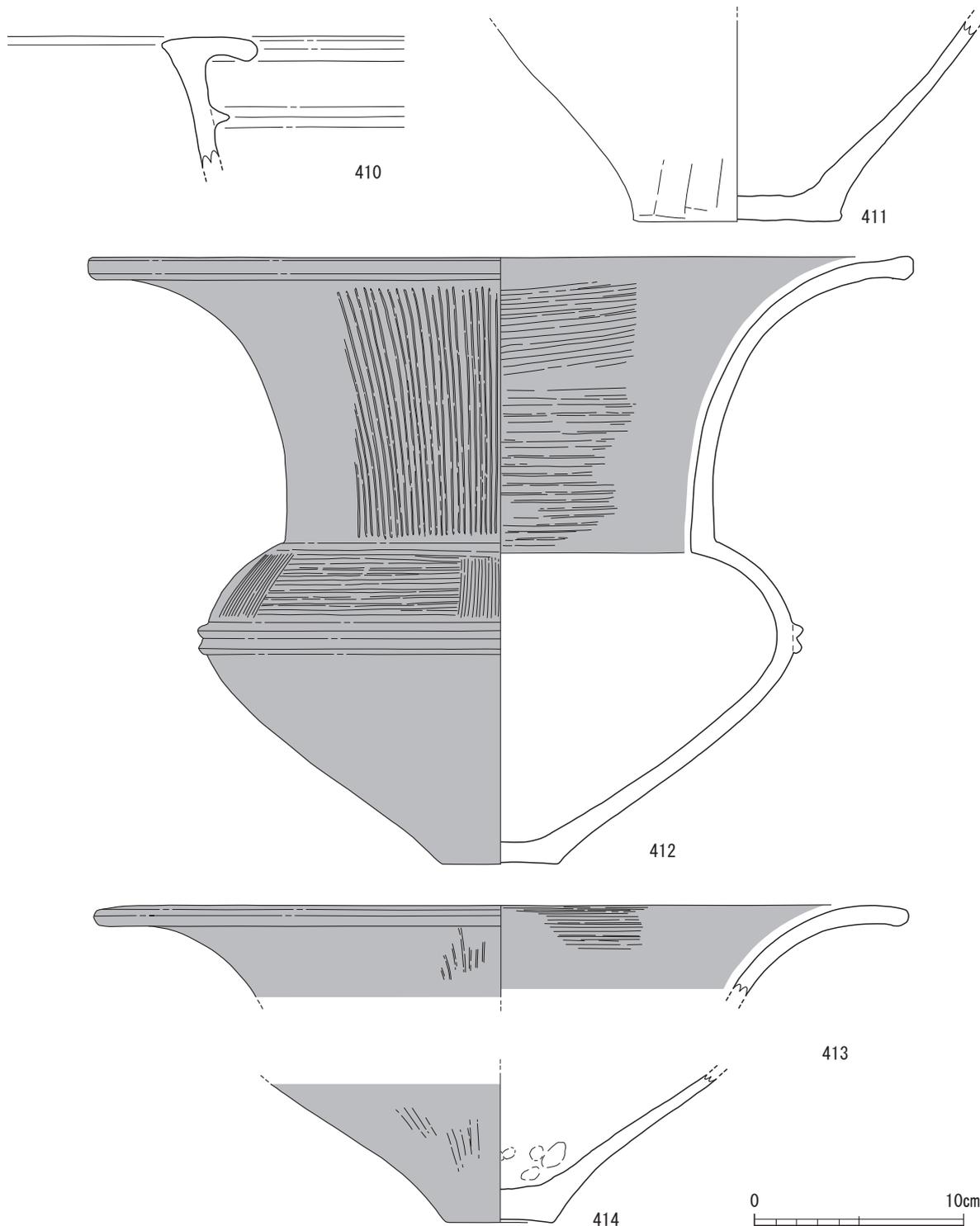


SD01 (5層)



第114図 SD01 出土遺物実測図 (1) (403は1/8、他は1/3)

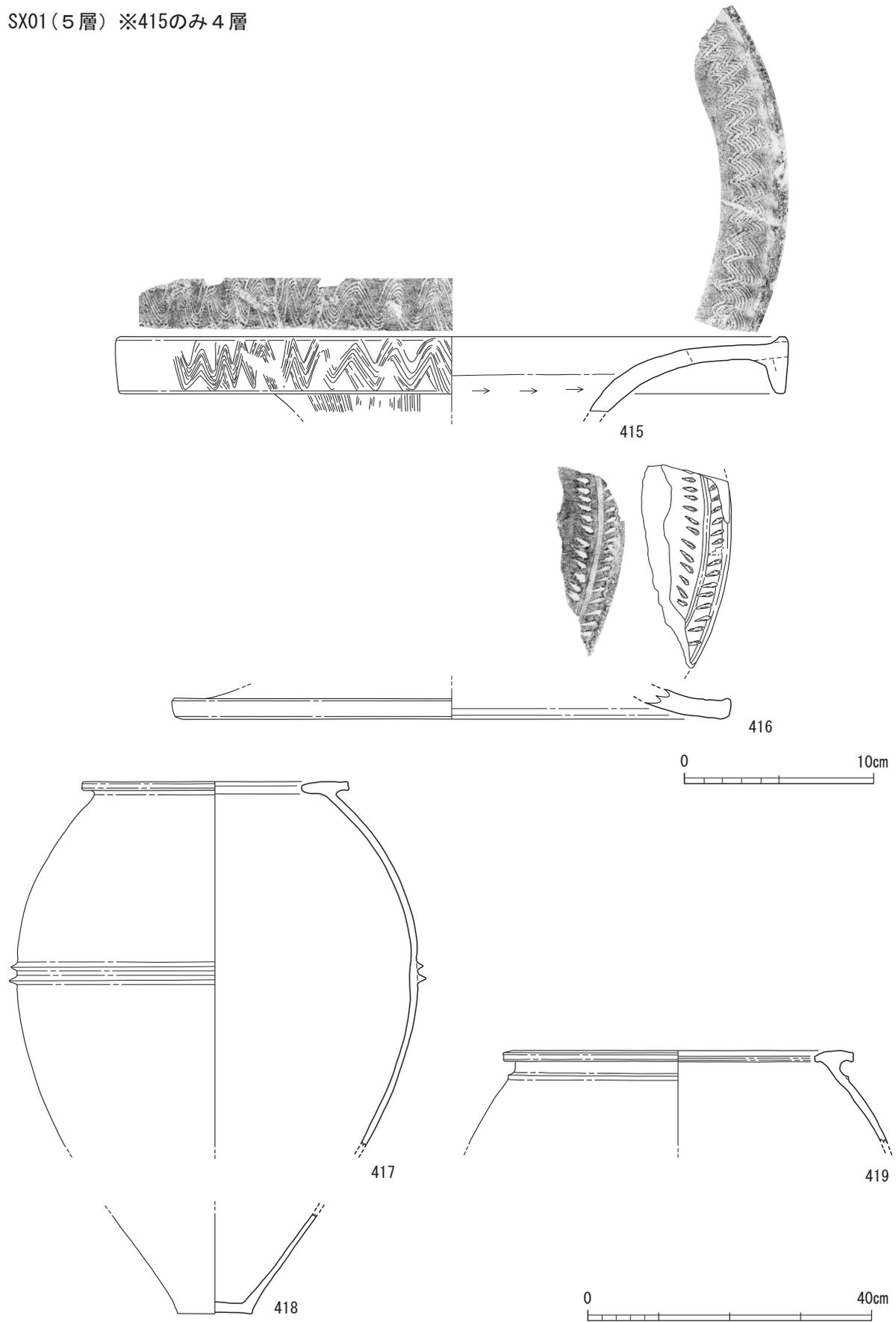
SX01(5層)



第10次  
調査

第115図 SD01出土遺物実測図(2)(1/3)

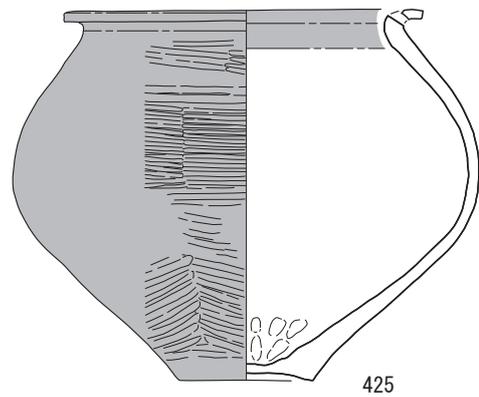
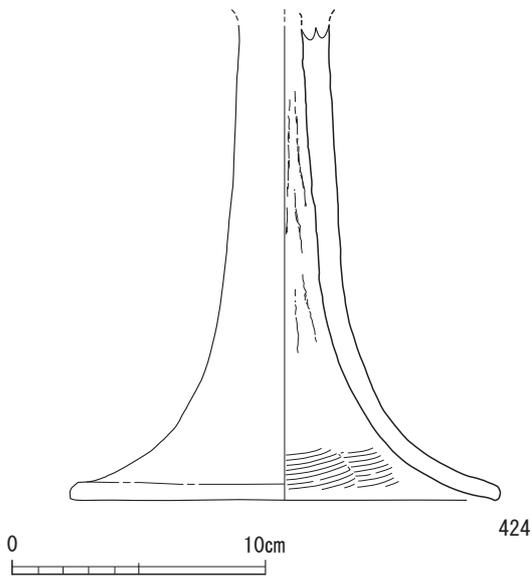
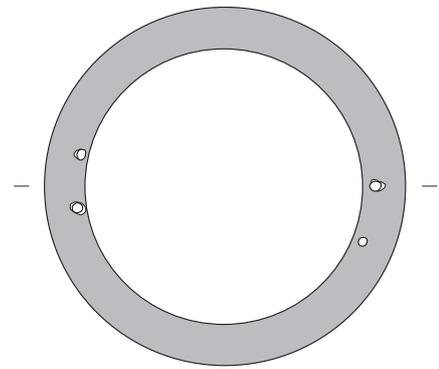
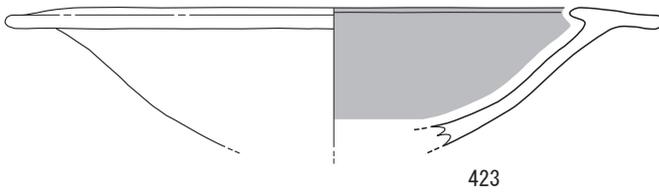
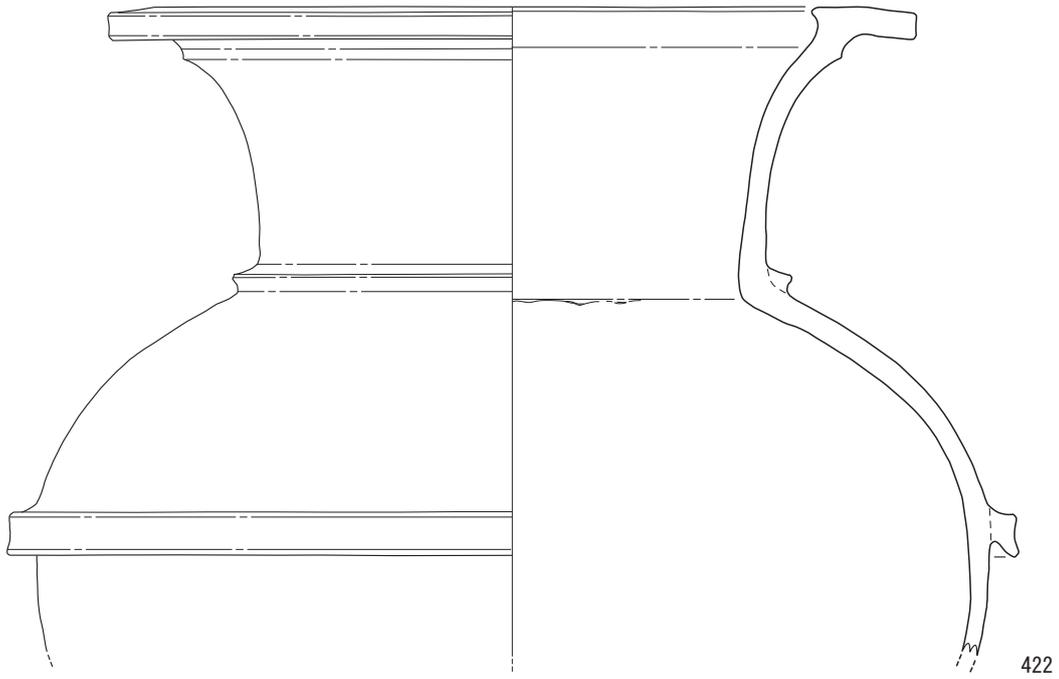
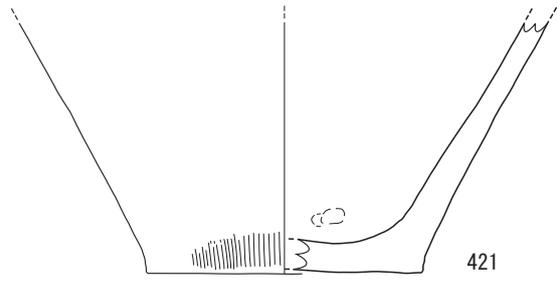
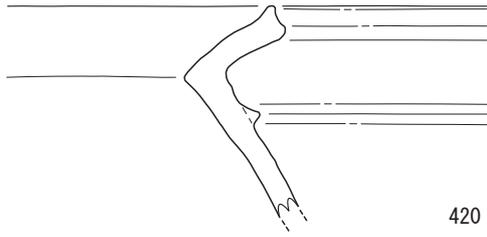
SX01 (5層) ※415のみ4層



第10次  
調査

第116図 SD01 出土遺物実測図 (3) (415・416は1/3、他は1/8)

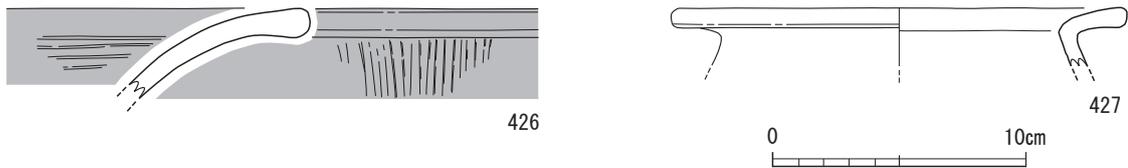
SX01 (7層)



0 10cm

第117図 SD01 出土遺物実測図(4)(1/3)

## SD01（その他）



第118図 SD01 出土遺物実測図（5）（1/3）

を含む。また、外来系と考えられる弥生土器も出土した。

以下では、現場の取り上げ時に付与したラベルの注記にしたがい、層位毎に遺物の報告を行う。なお、SD01とSX01が混在しているが、SX01の1・2層は土層図（SD01②）の1・2層に、SD01の5層は土層図（SD01②）の5層、SX01の7層は土層図（SD01②）の7層に対応する。また、SX01の4・5層は確実性に欠くが、土層注記との整合性から土層図（SD01②）の4・5層に対応する可能性がある。

## SD01（SX01 1・2層）出土遺物（第114図、図版100）

**弥生土器（401～403）** 401は丹塗りの甕である。口縁部は鋤先状で口縁部と外面に丹塗りを施す。口縁端部に細い刻目を施す。402は高杯で、杯部の大半と脚裾部を欠失する。杯部内面はナデで脚部内面に絞り痕がある。外面の調整は磨滅のため不明。403は甕棺の破片で、口縁部から胴部上位しか残存しないが、砲弾形の器形になると考えられる。T字状口縁で口縁部下にM字突帯を貼り付ける。口縁部と突帯がヨコナデ、胴部内外面はナデ。

## SD01（SD01 5層）出土遺物（第114図、図版100）

**弥生土器（404～409）** 404は甕の口縁部である。鋤先状口縁で、口縁部はヨコナデ。胴部は内外面ともにナデ。405は甕の底部。胴部外面はハケで、内面はナデ。406は甕で、407・408と同一個体の可能性がある。口縁部は鋤先状で、口縁部下に三角突帯を1条貼り付ける。口縁部から外面がヨコナデ、内面はナデ。409は大形甕の口縁部で、口縁部はくの字を呈し、肩の張りが強い。口縁下に1条の三角突帯を貼り付ける。口縁部と突帯はヨコナデ、胴部は内面がナデ、外面は磨滅するがナデと思われる。

## SD01（SX01 5層）出土遺物（第115・116図、図版100・101）

**弥生土器（410～419）** 410は甕の口縁部。鋤先状口縁で、口縁部下に三角突帯を貼り付ける。口縁部から突帯はヨコナデ、内面はナデ。403・404・405と同一個体の可能性がある。411は壺の底部。底部側面は工具痕が残り他はナデである。412は広口壺。部分的に欠損するが、口縁部から底部まで残存する。外面と口縁部内面に丹塗りを施す。口縁部は素口縁で、頸部から口縁部は外湾して外に大きく開き、胴部最大径にM字突帯を貼り付ける。口縁部から突帯はヨコナデ。胴部内面と底部内外面はナデ。その他はミガキである。肩部外面はヨコ方向のミガキ後タテ方向の線刻を6か所施す。頸部外面はタテ方向の長いミガキで、内面はヨコ方向のミガキ。413は広口壺の口縁部で、内外面ともに丹塗りで、内面はヨコ方向のミガキで、外面には一部に暗文が残る。414は壺の

底部片である。胴部外面は丹塗り磨研で、他はナデ。415は垂下口縁壺の口頸部片である。外湾して外に大きく開き、口縁端部は上方に小さく、下方に大きく張り出す。口縁端部外面と上面に8条1単位の櫛描波状文を施す。口縁部はヨコナデ。頸部は外面がハケメ、内面はナデ。搬入品の可能性がある。416は器台の脚裾部か。外面に沈線と刺突文を施す。裾端部と内面はヨコナデ、外面はヨコナデ後、タテ方向のナデ。搬入品の可能性が高い。後述する432と同一個体である。417・418は甕棺の破片で、胴部と底部は接合しない。胴部は丸みを持ち、口縁部は上面がほぼ水平で内側の張り出しが強い。胴部中位に三角突帯を2条貼り付ける。口縁部と突帯がヨコナデの他はナデ。419も丸みを持つ甕棺で、口縁部から胴部上位が残存する。口縁部は外側の張り出しが強く、上面は丸みを持つ。

#### SD01 (SX07 7層) 出土遺物 (第117図、図版101・102)

**弥生土器 (420～425)** 420は甕の口縁部。くの字口縁で、端部を上方にはね上げる。口縁部から突帯がヨコナデ、他はナデ。421は甕の底部。底部側面にハケメが残る他はナデ。422は鋤形口縁の広口壺で胴部下位を欠損する。頸部付け根に三角突帯、中位に頂部を強くナデ凹ませた突帯を1条ずつ貼り付ける。胴部突帯は下方に張り出す。423は高杯の杯部で、内面に丹塗りが残る。鋤形口縁で外方は垂れ下がる。磨滅のため調整は不明。424は高杯の脚部。外面は磨滅するがタテ方向のナデと思われ、内面はナデで裾部にハケメが残る。425は短頸壺。口縁部内面から胴部外面は丹塗りで、口縁部上面に2個一対の穿孔がある。底部はわずかに上げ底となる。口縁部と胴部外面はヨコ・ナナメ方向のミガキで、他はナデ。

#### SD01 (その他) 出土遺物 (第118図、図版102)

**弥生土器 (426・427)** 426は壺の口縁部片で、内外面ともに丹塗り磨研で、外面には縦方向の暗文を施す。427は甕の口縁部。くの字に近い。内面下位はナデで、他はヨコナデ。

#### SD02 (第113図)

調査区中央に位置し、大半がSD01に切られるため全形は不明である。長さ3.0m以上、幅0.8m以上で、埋土は上下2層からなる。出土遺物はない。

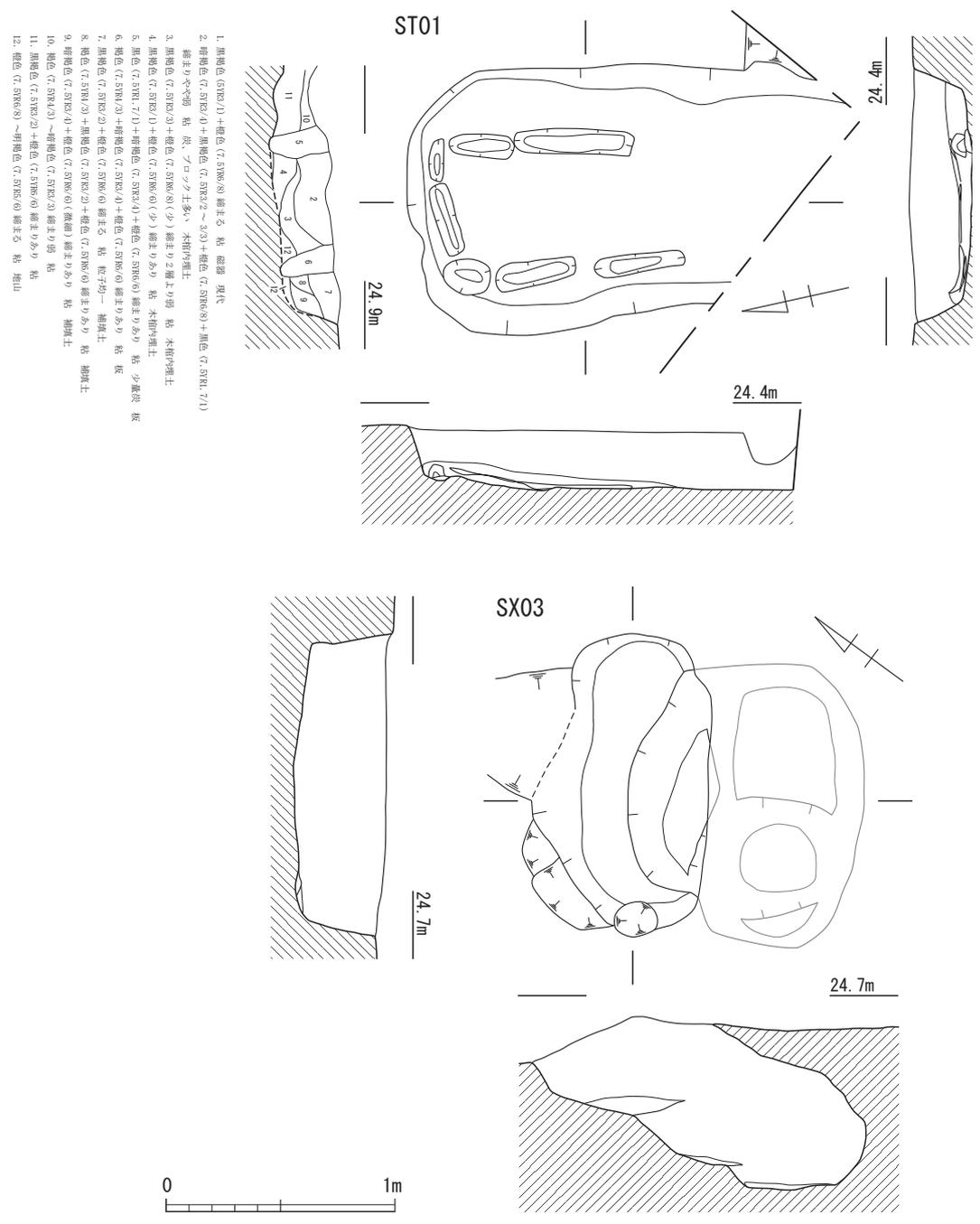
## (2) 木棺墓

#### ST01 (第119図、図版73・74)

調査区中央西側に位置し、SD01を切る。南側は調査区外に展開するため全形は不明であるが、掘方は長軸2.0m以上、短軸1.15mの平面隅丸長方形を呈すものと考えられる。床面の壁面沿いに細長い溝状の掘り込みが連続することや、土層の状況から木棺墓と考えられる。これらから判断して、木棺の規模は幅0.5mと想定できる。南壁土層では、棺材が腐朽したと考えられる縦方向の痕跡があり(5・6層)、これより外側は裏込め土と考えられる土(7～9層・10・11層)、内側には木棺腐朽後に流入したと考えられる土(2～4層)が堆積する。床面北側から、完形品の土師器杯と須恵器杯B片が出土した。8世紀後半～9世紀前半の所産と考えられる。

#### 出土遺物 (第120図、図版102)

**土師器 (428)** ほぼ完形の杯。底部外面から体部外面下位までは回転ヘラケズリ。体部は外面下位以外は内外面ともにヨコナデ、底部内面はナデ。



第 119 図 ST01・SX03 実測図 (1/30)

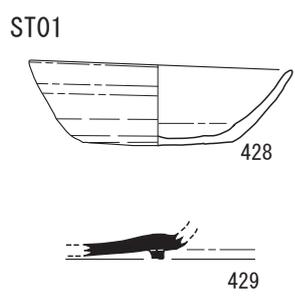
須恵器(429)杯Bの底部片。高台と体部は回転ナデ。

底部内外面はナデ調整。

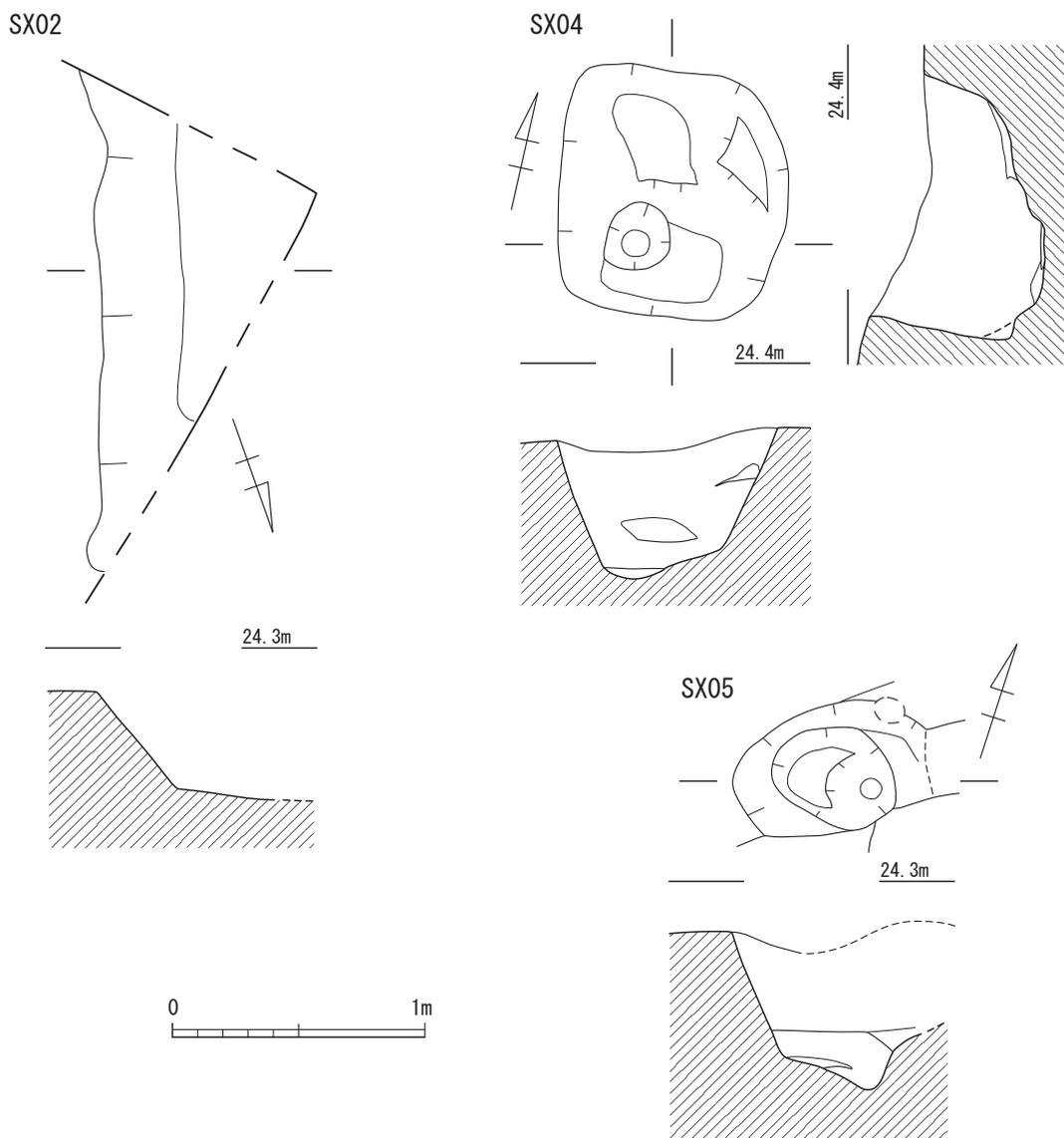
(3) 横口式土坑墓

SX03 (第 119 図、図版 74)

調査区東端部に位置し SD01 を切る。上面は長軸 1.3m、短軸 0.7m の楕円形を呈す。東壁を横穴状に掘り込み、床面は長軸 1.1m、短軸 0.4m の隅丸長



第 120 図 ST01 出土遺物実測図 (1/3)



第121図 SX02・04・05実測図(1/30)

方形を呈し、中央部がわずかにくぼむ。出土遺物はない。

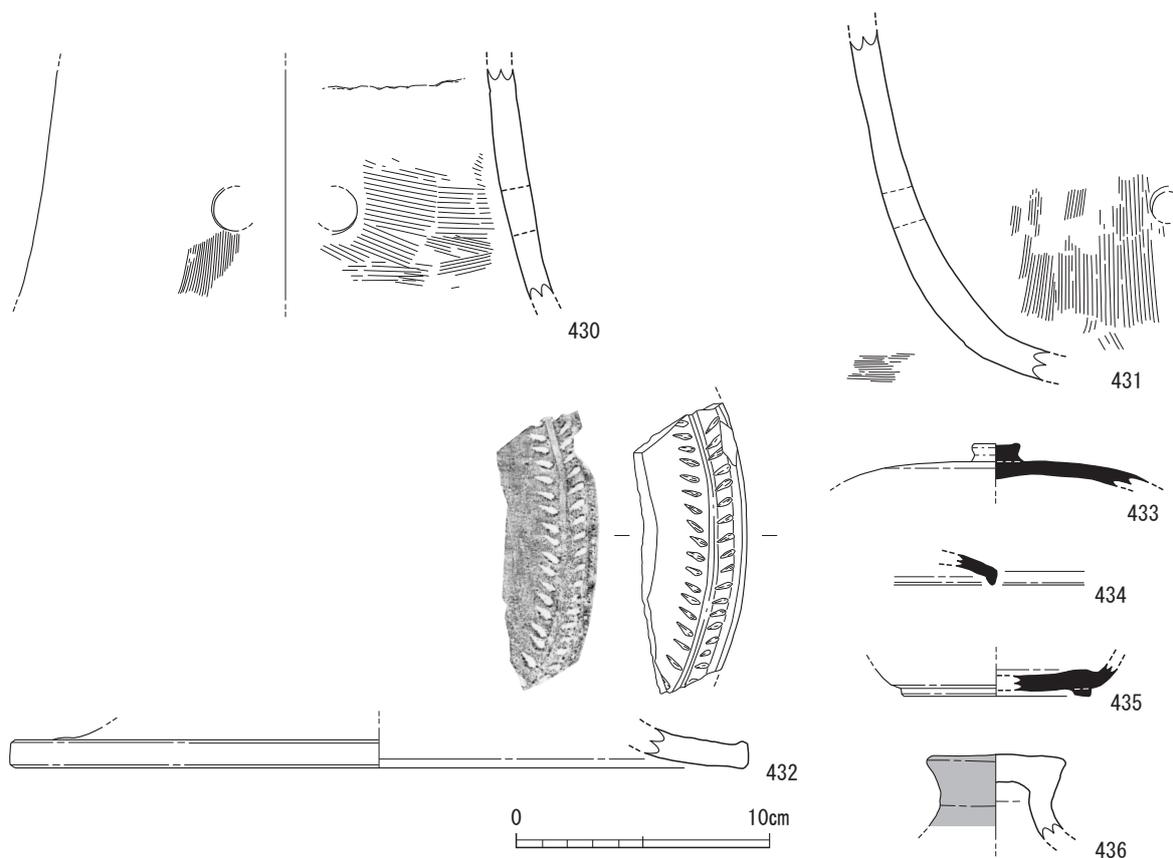
#### (4) 土坑

##### SX02 (第121図)

調査区西端部に位置する落ち込みで、大半が調査区外に展開するため全形は不明であるが、長さ2.0m以上である。東側は緩やかに立ち上がり、床面は平坦である。出土遺物はない。

##### SX04 (第121図)

調査区中央北側に位置し、東側にSX05が接する。長軸1.0m、短軸0.9mの平面隅丸方形で、床面付近は北側に複数のテラスがあり、中央部がピット状に窪む。深さは0.6mである。出土遺物はない。



第122図 その他の出土遺物実測図 (1/3)

SX05 (第121図)

調査区中央北側に位置し、西側にSX04が接する。長軸0.8m以上、短軸0.5m以上、平面楕円形で、深さは0.6mである。中央部がピット状に窪む。出土遺物はない。

(5) その他の出土遺物 (第122図、図版102)

弥生土器 (430 ~ 432・436) 430は器種不明であるが、器台であろうか。円形穿孔を施す。外面は一部にハケメが残る。内面は上位がナデ、他はハケメ。後述する431と同一個体の可能性がある。431は器種不明であるが、器台であろうか。円形穿孔を施す。外面はハケメ。内面は裾部がヨコ方向のハケメ、他はナデ。432はSD01出土遺物416と同一個体と考えられ、調整・施文ともに416と同様。436は甕蓋の頂部付近の破片で、外面は丹塗り。外面は天井部がナデ、他はヨコナデと思われる。内面はナデ。

検出時出土遺物 (図版102)

須恵器 (433 ~ 435) 433は杯B蓋の天井部。内外面は回転ナデで内面の中央部はナデ。434は杯B蓋の口縁部。内外面ともに回転ナデ。435は須恵器の杯B底部。底部は回転ヘラ切りで、高台部と胴部内外面は回転ナデ、底部内面はナデ。

### 3. 小結

SD01 では上層より弥生時代中期後半の土器群や須玖式甕棺が出土しており、当該期に埋没したことを示す。ST01 は副葬品の土師器より 8 世紀後半～9 世紀前半に位置づけられる。このほかの遺構については、出土遺物がないため時期不明である。

表2 第3次調査出土遺物観察表

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm) ①口径②器高③底径④最大径 ※( )は復元<>は残存	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
1	土師器	壺	SD01 埋土中	②<3.8>	内面 ナデ 外面 ナデ	A:2mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共にふいじ黄橙10YR7/3	
2	土師器	不明	SD01 埋土中	①(1.8) ②<2.8>	内面 ケズリ 外面 ナデ	A:1.5mm以下の石英・長石を少量含む B:良好 C:内外共に 橙5YR6/6	
3	土師器	ミニチュア土器 高杯	SD01 埋土中	②<2.8>	内面 ナデ 外面 ナデ	A:3mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:やや良好 C:内外共にふいじ黄橙10YR7/2	
4	土師器	杯	SD01 埋土中	②<1.6> ③(7.0)	内面 ナデ 外面 ヨコナデ	A:1mm以下の白色粒子・雲母をわずかに含む B:良好 C:内外共に 灰黄2.5Y7/2	
5	土師器	高杯	SX01 埋土中	②<3.5>	内面 ナデ、一部ハケ、ヨコナデ 外面 ナデ、ハケ、ヨコナデ	A:微細な白色粒子・雲母を少量含む B:良好 C:内外共にふいじ橙7.5YR7/4	
6	土師器	高杯	SX01 埋土中	②<2.0>	内面 ナデ 外面 ハケ	A:2mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:やや不良 C:内外共にふいじ橙7.5YR6/4	
7	土師器	高杯	SX01 埋土中	②<6.6> ③(9.0)	内面 ケズリ、絞り痕 外面 ナデ	A:2.5mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:やや良好 C:内外共にふいじ黄橙10YR7/3	
8	土師器	器台	SX01 埋土中	②<7.5>	内面 ナデ 外面 工具ナデ	A:2.5mm以下の石英・長石を多く含む B:やや不良 C:内面 黄灰2.5Y5/1 外面 にふいじ黄橙10YR7/2	
9	土師器	鉢?	SX01 埋土中	①(6.6) ②3.5	内面 ナデ 外面 ナデ	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:良好 C:内外共に 褐灰10YR6/1 にふいじ黄橙10YR7/3	
10	土師器	ミニチュア土器 高杯	SX01 埋土中	②<2.95> ③(3.0)	内面 ナデ 外面 ナデ	A:2mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共に 橙5YR6/6 にふいじ黄橙10YR7/3	
11	土師器	ミニチュア土器 高杯	SX01 埋土中	②<2.7>	内面 ナデ 外面 ナデ	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:やや不良 C:内外共にふいじ黄橙10YR7/4~7/3	
12	瓦器	椀	SX01 埋土中	②<2.6>	内面 ミガキ 外面 ミガキ	A:1.5mm以下の白色粒子を少量含む B:良好 C:内外共に 灰N31 灰白N71	
13	白磁	椀	SX01 埋土中	②<3.0> ③7.2	内面 施釉、沈線 外面 ケズリ	A:精良 B:良好 C:釉調はやや黄色味をおびた透明釉、光沢あり、貫入あり	
14	土師器	高杯	P02	②<4.6>	内面 ハケ後研磨 外面 ハケ後研磨	A:1mm以下の白色粒子・雲母をわずかに含む B:良好 C:内外共にふいじ黄橙10YR7/4	
15	土師器	高杯	SX02 埋土中	②<2.3>	内面 ヨコナデ、ナデ、ハケ 外面 ハケ	A:微細な白色粒子・雲母をわずかに含む B:良好 C:内外共にふいじ橙7.5YR6/4	

表3 第7・8次調査出土遺物観察表(甕棺)

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm) ①口径②器高③底径④最大径 ※( )は復元<>は残存	形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調・釉調	備考
016	弥生土器	壺	1号甕棺墓	①(35.0) ②<39.9±α> ③(8.4)	内面 頸~口縁に横方向ミガキ 外面 不明(器面風化)	A:1~2mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 褐灰10YR5/1 外面 洗黄橙10YR8/3	上蓋
017	弥生土器	壺	1号甕棺墓	①(22.3) ②52.2~53.4 ③11.8 ※器高は打ち欠き	内面 縦・斜め方向ナデ 外面 ナデか(器面風化)	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 洗黄橙7.5YR8/6 外面 橙7.5YR7/6	下蓋
018	弥生土器	壺	2号甕棺墓	①(37.2) ②推定56前後 ③9.2	内面 不明(器面風化) 外面 不明(器面風化)	A:1mm以下の石英・長石を含む B:不良 C:内面 洗黄橙7.5YR8/6 外面 洗黄橙7.5YR8/6	上蓋
019	弥生土器	壺	2号甕棺墓	①40.45 ②51.4~52.7 ③8.6	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ	A:2mm程度の石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙5YR7/6 外面 洗黄橙10YR8/4	下蓋
020	弥生土器	壺	3号甕棺墓	①42.2 ②49.65 ③9.45	内面 縦方向ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 灰黄橙10YR4/2 外面 にふいじ黄橙10YR5/4	上蓋
021	弥生土器	壺	3号甕棺墓	①(43.0) ②<26.5>	内面 縦方向ナデか 外面 不明(器面風化)	A:1~3mmの石英・長石を含む B:不良 C:内面 黄橙7.5YR7/8 外面 橙7.5YR7/6	下蓋
022	弥生土器	鉢	4号甕棺墓	①59.5 ②42.0 ③12.0	内面 ナデ 外面 ナデ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 黄橙7.5YR7/8 外面 にふいじ橙7.5YR7/4	上蓋
023	弥生土器	壺	4号甕棺墓	②<53.8> 胴径57.0	内面 ナデ 外面 ナデ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 洗黄橙7.5YR8/6 外面 洗黄橙10YR8/3	中蓋
024	弥生土器	壺	4号甕棺墓	①63.8 ②81.8~94.0 ③11.6	内面 ナデ 外面 ナデ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR7/6 外面 橙5YR7/6~7/8	下蓋 下半に黒斑あり
025	弥生土器	壺	5号甕棺墓	①63.4 ②85.6~87.4 ③11.8	内面 横・斜め方向ナデ 外面 縦・斜め方向ハケ	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR8/6 外面 洗黄橙7.5YR8/6	上蓋
026	弥生土器	壺	5号甕棺墓	①71.1~75.4 ②95.3 ③12.2	内面 ナデ 外面 ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 橙5YR7/6 外面 橙5YR7/6~7/8	下蓋
027	弥生土器	壺	6号甕棺墓	①29.3 ②34.4 ③7.5	内面 縦方向ナデか 外面 縦方向ハケ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 明黄橙10YR8/6 外面 明黄橙10YR7/6	上蓋
028	弥生土器	壺	6号甕棺墓	①29.8 ②36.35 ③7.5	内面 不明(器面風化) 外面 縦方向ハケ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 洗黄橙10YR8/4 外面 にふいじ黄橙10YR7/4	下蓋
029	弥生土器	鉢	7号甕棺墓	①(87.0)	内面 ナデ 外面 ナデ	A:1~5mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふいじ黄橙10YR6/4 外面 にふいじ黄橙10YR7/4	上蓋
030	弥生土器	壺	7号甕棺墓	①(68.4) ②<64.2>	内面 ナデか(器面風化) 外面 ナデか(器面風化)	A:1mm以下の石英・長石を含む B:不良 C:内面 橙5YR7/6~7/8 外面 橙5YR7/6~7/8	下蓋
031	弥生土器	壺	8号甕棺墓	①59.3 ②85.4 ③12.0	内面 横・縦・斜め方向ナデ 外面 縦方向ナデ	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふいじ橙7.5YR7/4 外面 洗黄橙10YR8/4	上蓋

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm)		形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調・釉調	備考
				①口径	②器高③底径④最大径 ※ ( )は復元<>は残存			
032	弥生土器	甕	8号壺棺墓	①71.8 ②90.3 ③10.2	内面 縦・斜め方向ナデ 外面 ナデ(器面風化)	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙5YR7/6 外面 淡橙7.5YR8/4	下壺	
033	弥生土器	鉢	9号壺棺墓	①(46.4) ②<12.8>	内面 横方向 ナデ 外面 ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙7.5YR7/6 外面 橙7.5YR7/6	上壺	
034	弥生土器	甕	9号壺棺墓	①(44.8) ②(64.0) ③11.2	内面 ナデ 外面 不明(器面風化)	A:1~3mmの石英・長石を含む B:不良 C:内面 にふい橙7.5YR7/4 外面 淡黄橙7.5YR8/6	下壺 胴中に大きい黒斑あり	
035	弥生土器	甕	10号壺棺墓	①49.3~62.2 ②72.0~72.8 ③9.6	内面 横・斜め方向ナデ 外面 ナデ	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふい黄橙10YR6/4 外面 橙2.5YR7/8~5YR7/6	上壺	
036	弥生土器	甕	10号壺棺墓	①51.5~57.8 ②71.4~72.4 ③11.1	内面 ナデ 外面 ナデ	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふい黄橙10YR7/3 外面 淡黄橙10YR8/4	下壺	
037	弥生土器	甕	11号壺棺墓	①(34.5) ②<18.5>	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1mm程度の石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙10YR8/4 外面 淡黄橙5YR7/6	上壺	
038	弥生土器	甕	11号壺棺墓	①35.8 ②46.9~48.4 ③8.7	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙10YR8/4 外面 淡黄橙10YR8/4	下壺	
039	弥生土器	甕	12号壺棺墓	①(31.9) ②<17.0>	内面 斜め方向ナデ 外面 不明(器面風化)	A:1~3mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 橙2.5YR7/8 外面 黄橙7.5YR7/8	上壺	
040	弥生土器	甕	12号壺棺墓	①63.0 ②85.3~87.2 ③12.1	内面 横・縦・斜め方向ナデ 外面 主に縦方向のナデ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 淡黄橙7.5YR8/6 外面 淡黄橙10YR8/4	下壺	
041	弥生土器	甕	13号壺棺墓	①39.2 ②51.7~55.7 ③10.05	内面 縦・斜め方向ハケ後ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふい橙10YR7/4 外面 橙7.5YR7/6	下壺	
042	弥生土器	甕	14号壺棺墓	②<37.0> ④62.0	内面 縦方向ナデ 外面 横・斜め方向ナデ	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙7.5YR8/6 外面 橙7.5YR7/6	上壺	
043	弥生土器	甕	14号壺棺墓	①(31.7) ②<88.4>	内面 不明(器面風化) 外面 縦方向のナデか	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙7.5YR8/6 外面 橙2.5YR7/8	下壺	
044	弥生土器	甕	15号壺棺墓	①61.9 ~71.4 ②98.6~99.4 ③11.9	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ後ナデ	A:2mm程度の石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙5YR7/6 外面 にふい橙5YR7/4	下壺	
045	弥生土器	甕	16号壺棺墓	①62.7 ②80.1 ③10.4	内面 ナデ 外面 ナデ(底部ハケ)	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 明黄橙10YR7/6 外面 明黄橙10YR7/6	上壺	
046	弥生土器	甕	16号壺棺墓	①60.1 ②81.4~83.5 ③10.9	内面 ナデ 外面 ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙7.5YR8/6 外面 橙5YR7/6	下壺	
047	弥生土器	甕	17号壺棺墓	①46.2 ②<75.2> ③(10.2)	内面 縦・斜め方向ハケ、ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR7/6 外面 橙2.5YR7/6	上壺	
048	弥生土器	甕	17号壺棺墓	①65.6 ②83.8~84.2 ③13.0	内面 縦・斜め方向ナデ 外面 縦方向ナデ	A:1~5mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 淡黄橙10YR8/4 外面 淡黄橙10YR8/3	下壺	
049	弥生土器	壺	18号壺棺墓	①(37.4) ②<52.0> ④(59.4)	内面 縦・斜め方向ナデ 外面 横方向ナデか	A:1~2mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 灰黄橙10YR6/2 外面 明黄橙10YR7/6	下壺	
050	弥生土器	甕	19号壺棺墓	①(62.0) ②<56.8>	内面 縦・斜め方向ナデ(器面風化) 外面 器面風化	A:1~2mmの石英・長石を含む B:不良 C:内面 淡黄橙7.5YR8/4~6 外面 淡黄橙7.5YR8/4~6	上壺	
051	弥生土器	甕	19号壺棺墓	①61.6 ②116 ③82.4~82.6	内面 縦・横・斜め方向ナデ 外面 ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR8/8 外面 明黄橙10YR7/6	下壺	
052	弥生土器	甕	20号壺棺墓	①(37.4) ②<16.3>	内面 ナデ 外面 ナデ(器面風化)	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙7.5YR8/6 外面 淡黄橙7.5YR8/6	上壺	
053	弥生土器	甕	20号壺棺墓	①(35.6) ②46.3~47.5 ③9.45	内面 ナデ 外面 ナデ(器面風化)	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙7.5YR7/6 外面 黄橙10YR8/6	下壺	
054	弥生土器	甕	21号壺棺墓	①61.4 ②83.0 ③10.4	内面 縦方向ナデ(一部に縦ハケ残る) 外面 不明(器面風化)	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふい黄橙10YR6/4 外面 にふい黄橙10YR7/4	上壺	
055	弥生土器	甕	21号壺棺墓	①(71.2) ②98.7 ③11.6	内面 縦・横方向ナデ 外面 主に縦方向ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 淡黄橙10YR8/4 外面 にふい黄橙10YR7/3	下壺	
056	弥生土器	甕	22号壺棺墓	①42.3 ②56.7~58.0 ③10.0	内面 縦・斜め方向ナデ 外面 ナデ(器面風化)	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好(一部不良) C:内面 淡黄橙7.5YR8/6 外面 橙7.5YR7/6	上壺	
057	弥生土器	甕	22号壺棺墓	①48.4 ②71.5~81.2 ③11.8	内面 縦・斜め方向ナデ 外面 ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR6/8 外面 橙2.5YR7/8	下壺	
058	弥生土器	甕	23号壺棺墓	①28.6 ②<4.2>	内面 不明(器面風化) 外面 不明(器面風化)	A:1mm以下の石英・長石を含む B:不良 C:内面 淡黄橙7.5YR8/6 外面 淡黄橙7.5YR8/6	上壺	
059	弥生土器	甕	23号壺棺墓	①(31.4) ②38.1 ③6.35	内面 縦・横方向ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙10YR8/4 外面 にふい橙7.5YR6/4	下壺	
060	弥生土器	鉢	25号壺棺墓	①(73.2) ②<30.7>	内面 縦方向ナデ 外面 不明(器面風化)	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙5YR7/6 外面 淡黄橙10YR8/4	上壺	
061	弥生土器	甕	25号壺棺墓	①(62.2) ②91.4 ③11.4	内面 縦・横方向ナデ 外面 縦・斜め方向ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙10YR8/4 外面 淡黄橙7.5YR8/4	下壺	
062	弥生土器	甕	26号壺棺墓	①63.2~67.2 ②91.0~92.4 ③11.1	内面 ナデ(器面風化) 外面 ナデ(器面風化)	A:1mm程度の石英・長石を含む B:やや不良~良好 C:内面 淡黄橙5YR7/6 外面 淡黄橙5YR7/6	上壺	
063	弥生土器	甕	26号壺棺墓	①(69.0) ②94.0 ③(10.8)	内面 ナデ(器面風化) 外面 ナデ(器面風化)	A:1~3mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 淡黄橙10YR8/4 外面 淡黄橙10YR8/4	下壺	
064	弥生土器	鉢	27号壺棺墓	①62.9~65.6 ②47.6~49.8 ③10.4	内面 横・縦・斜め方向ナデ 外面 縦・斜め方向ナデ	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR6/8 外面 橙2.5YR7/8	上壺 口縁平坦部に小黒斑あり	
065	弥生土器	甕	27号壺棺墓	①64.3 ②99.0~100.8 ③12.4	内面 縦・斜め方向ナデ 外面 縦方向ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙5YR7/8 外面 橙2.5YR6/8	下壺	
066	弥生土器	甕	28号壺棺墓	①46.8 ②<51.5>	内面 不明(器面風化) 外面 横方向ナデか	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙7.5YR7/6 外面 橙2.5YR6/8	上壺	
067	弥生土器	甕	28号壺棺墓	①56.8 ②(42.3)	内面 縦・斜め方向ナデ 外面 縦方向ナデ	A:1mm程度の石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙5YR7/6 外面 橙5YR7/6	中壺	
068	弥生土器	甕	28号壺棺墓	①54.5 ②78.0~79.9 ③10.5	内面 縦・斜め方向ナデ 外面 横・斜め方向ナデ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふい橙7.5YR6/4 外面 橙2.5YR6/8	下壺	
069	弥生土器	甕	29号壺棺墓	①(66.8) ②89.0 ③10.8	内面 縦・斜め・横方向ナデ 外面 縦・斜め方向ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:やや不良 C:内面 淡黄橙7.5YR8/6 外面 橙5YR7/8	上壺	
070	弥生土器	甕	29号壺棺墓	①(63.2) ②<36.8>	内面 横方向ナデ 外面 縦方向ナデ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙5YR6/8 外面 橙5YR6/6	下壺	
071	弥生土器	甕	30号壺棺墓	①(28.8)	内面 ナデ 外面 ナデ	A:2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙10YR8/4 外面 淡黄橙10YR8/4	下壺	
072	弥生土器	壺	31号壺棺墓	①(43.3) ②<33.1>	内面 不明(器面風化) 外面 横・縦方向ミガキ	A:1~5mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふい橙7.5YR7/4 外面 橙5YR6/6	上壺	
073	弥生土器	甕	31号壺棺墓	②(37.25) ③(10.4)	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙7.5YR7/8 外面 橙7.5YR7/4	下壺	
074	弥生土器	甕	32号壺棺墓		内面 ナデ 外面 ナデ	A:細い砂粒を含む B:不良 C:内面 淡黄橙10YR8/4 外面 淡黄橙10YR8/4	下壺	
075	弥生土器	甕	33号壺棺墓	①76.2 ②109.4 ③13.9	内面 ナデ 外面 ナデ(底部ハケ)	A:1mm程度の石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR6/8 外面 橙5YR7/6	下壺	
076	弥生土器	甕	34号壺棺墓	①30.1~34.6 ②35.0~35.9 ③7.8	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1mm程度の石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙5YR7/8 ~黒褐5/1 外面 淡黄橙5YR7/6	上壺	
077	弥生土器	甕	34号壺棺墓	①30.4~33.5 ②35.3 ③7.8	内面 丁寧ナデ 外面 縦方向ハケ	A:2mmの石英・長石・雲母を含む B:良好 C:内面 黄橙7.5YR7/8 外面 淡黄橙7.5YR7/6	下壺	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm)		形態・技法の特徴	A : 胎土 B : 焼成 C : 色調・釉調	備考
				①口径②器高③底径④最大径 ※( )は復元く>は残存				
078	弥生土器	鉢	35号壘棺墓	①68.0 ②51.1~52.15 ③5.8	内面 ナデ 外面 ナデ(底部ハケ)	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙7.5YR8/6 外面 橙5YR7/6	上壘 口縁平坦部に小黒斑あり	
079	弥生土器	壺	35号壘棺墓	①71.0 ②91.0~91.2 ③12.0	内面 ナデ 外面 ナデ	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面にふい 黄橙10YR8/4 外面 橙5YR7/6	下壘	
080	弥生土器	壺	36号壘棺墓	①34.7 ②36.9 ③8.0	内面 ミガキ(器面風化) 外面 ミガキ(器面風化)	A:1mm程の白色砂粒を含む B:良好 C:内面 明黄橙10YR7/6 外面 明黄橙10YR5/6	上壘	
081	弥生土器	壺	36号壘棺墓	①31.8 ②36.2 ③7.75	内面 丁寧なナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~3mmの石英・細い長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙7.5YR8/6 外面 橙2.5YR7/8	下壘	
082	弥生土器	壺	37号壘棺墓	①33.5~23.7 ②38.1~38.25 ③7.2	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふい橙7.5YR8/4 外面 黄橙10YR7/4	上壘	
083	弥生土器	壺	37号壘棺墓	①34.25 ②37.2~38.25 ③7.2	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふい橙7.5YR7/4 外面 淡黄橙7.5YR8/6	下壘	
084	弥生土器	壺	38号壘棺墓	①36.4~40.5 ②54.5~54.25 ③10.95	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:下位は良好・上位は 不良 C:内面 淡黄橙10YR8/3 外面 淡黄橙10YR8/3	下壘	
085	弥生土器	壺	39号壘棺墓	①78.4 ②113.4~108.0 ③13.0	内面 縦・横方向ハケ 外面 縦方向ハケ・ナデ	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR8/6 外面 橙5YR7/6	下壘	
086	弥生土器	壺	40号壘棺墓	①43.7(40.2) ②60.6 ③11.0	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙7.5YR8/4 外面 黄橙7.5YR8/8	上壘	
087	弥生土器	壺	40号壘棺墓	①51.0 ②82.0~82.4 ③11.1	内面 ナデ(脚に横・斜めハケ) 外面 縦方向ハケ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙10YR8/3 外面 淡黄橙10YR8/3	下壘	
088	弥生土器	鉢	41号壘棺墓	①73.6 ②51.2~53.5 ③10.2	内面 横・縦方向ナデ 外面 縦方向ナデ・ハケ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR7/8 外面 橙2.5YR6/8	上壘 口縁平坦部に小黒斑あり	
089	弥生土器	壺	41号壘棺墓	①75.6 ②102.2~102.8 ③13.6	内面 縦・斜め方向ナデ 外面 縦・横方向ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふい黄橙10YR7/4 外面 黄橙10YR8/6	下壘	
090	弥生土器	壺	42号壘棺墓	①35.6 ②36.2~37.7 ③10.3	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙5YR7/6 外面 橙5YR7/6	下壘	
091	弥生土器	鉢	43号壘棺墓	①(53.8) ②47.0	内面 斜め方向ハケ 外面 縦・斜め方向ナデ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 明黄橙10YR6/6 外面 橙2.5YR6/8	上壘	
092	弥生土器	壺	43号壘棺墓	①70.8~73.6 ②105.0~106.5 ③12.4	内面 縦方向ハケ・板状工具ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR8/6 外面 橙2.5YR7/6	下壘	
093	弥生土器	壺	44号壘棺墓	①76.8 ②108.9~111.4 ③11.0	内面 ハケ後縦・斜め方向ナデ 外面 主に縦方向ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR7/8 外面 橙2.5YR7/6	下壘	
094	弥生土器	鉢	45号壘棺墓	①81.5 ②45.8~47.6 ③11.4	内面 縦方向ハケ後ナデ 外面 縦方向ナデ・ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR8/6 外面 橙2.5YR7/6	上壘	
095	弥生土器	壺	45号壘棺墓	①78.1~86.8 ②119.6~121.6 ③12.4	内面 縦・横方向ハケ 外面 縦・斜め方向ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR7/6~6/8 外面 橙2.5YR7/6~6/8	下壘	
096	弥生土器	鉢	46号壘棺墓	①68.3~72.4 ②46.0~42.9 ③12.4	内面 縦方向ナデ 外面 横方向ナデか	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 黄橙7.5YR8/6 外面 淡橙5YR8/4	上壘 口縁平坦部に小黒斑あり	
097	弥生土器	壺	46号壘棺墓	①67.2~75.9 ②101.8~103.5 ③13.8	内面 縦・横方向ナデ(薄くハケが残る) 外面 縦方向ナデ	A:1~4mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 明黄橙10YR7/6 外面 淡黄橙10YR8/3	下壘	
098	弥生土器	鉢	47号壘棺墓	①65.5 ②50.3 ③12.2	内面 横・縦方向ナデ 外面 横・縦方向ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 淡黄橙10YR8/4 外面 にふい黄橙10YR7/4	上壘	
099	弥生土器	壺	47号壘棺墓	①(68.0) ②<32.4>	内面 横方向ナデ 外面 縦方向ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙5YR7/6 外面 橙2.5YR6/8	下壘	
100	弥生土器	壺	49号壘棺墓	①89.4 ②109.7~111.6 ③13.6	内面 縦・横方向ナデ(底部縦方向ハケ) 外面 縦方向ナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:不良(良い部分も有) C:内面 橙5YR7/6 外面 橙5YR7/8	下壘	
101	弥生土器	壺	50号壘棺墓	①<49.6> ②<74.8> ③10.8	内面 ハケ後縦方向ナデ 外面 縦方向ナデ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR8/6 外面 橙2.5YR7/6	上壘	
102	弥生土器	壺	50号壘棺墓	①65.3 ②105.8 ③13.05	内面 縦・斜め方向ナデ 外面 主にナデ	A:1~3mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 橙2.5YR8/6 外面 橙5YR7/6	下壘	
103	弥生土器	壺	51号壘棺墓	①(32.0) ②(34.0)~33.8 ③7.05	内面 ナデ 外面 縦方向ハケ	A:1~2mmの石英・長石を含む B:良好 C:内面 にふい黄橙10YR7/4 外面 橙2.5YR7/6	下壘	

表4 第7・8次調査出土遺物観察表 (土器・土製品・磁器・瓦器)

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm)		形態・技法の特徴	A : 胎土 B : 焼成 C : 色調・釉調	備考
				①口径②器高③底径④最大径 ※( )は復元く>は残存				
105	弥生土器	筒形器台	40号壘棺墓	②<6.0> ③(40.0)	内面 ヨコナデ・ナデ 外面 ヨコナデ・ミガキ	A:1mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:やや良好 C:内面 橙5YR6/6 外面 明赤橙2.5YR5/8	丹塗り	
106	弥生土器	筒形器台	40号壘棺墓	②<4.8>	内面 ナデ 外面 ミガキ	A:3.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内面 橙5YR6/6 外面 明赤橙2.5YR5/4	丹塗り	
107	弥生土器	筒形器台	40号壘棺墓	②<6.1>	内面 ナデ 外面 ミガキ	A:2mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内面 橙2.5YR6/6 外面 明赤橙2.5YR4/8	丹塗り	
112	弥生土器	壺	SX188	②<2.6>	内面 ミガキ 外面 ミガキ・ヨコナデ	A:0.5mm以下の白色砂粒と雲母を少量含む B:良好 C:内外共 明赤橙5YR5/6	丹塗り	
113	弥生土器	筒形器台	SX188	②<13.3>	内面 ナデ 外面 ミガキ	A:4mm以下の石英・長石をやや多く含む B:良好 C:内面 橙5YR6/6 外面 赤橙5YR4/8	丹塗り	
114	弥生土器	壺	6号石蓋土坑墓	②<5.7>	内面 ナデ・胴部に工具痕 外面 ヘラケズリ・ハケ	A:5mm以下の石英・3mm以下の長石・1mm以下の雲母を 含む B:良好 C:内外共 灰白2.5Y8/2	黒斑	
118	弥生土器	壺	SX26	①(38.0) ②<19.7+3.8> ③5.8	内面 ナデ・ミガキ 外面 ナデ・下位マツ、ミガキ・ハケ・ヨコナデ	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:やや良好 C:内面 明赤橙2.5YR5/8 外面 明赤橙2.5YR5/8 橙 5YR6/6	内外面丹塗り(底部は線沁、線刻 文あり)	
119	弥生土器	壺	SX74-75 周辺	②<4.5>	内面 ナデ・ヨコナデ 外面 ヨコナデ	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:やや良好 C:内面 にふい黄橙10YR7/4 外面 橙5YR6/6		
120	弥生土器	壺	SX74-75 周辺	①(52.0) ②<6.1>	内面 ナデ・ヨコナデ 外面 ナデ・ヨコナデ	A:2mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共 橙5YR6/6		
121	弥生土器	壺	SX74-75 周辺	②<6.8>	内面 ナデ・ヨコナデ 外面 ナデ・ヨコナデ	A:2mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:良好 C:内外共 橙5YR6/6		
122	弥生土器	壺	SX74-75	②<3.9>	内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ	A:1mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:やや良好 C:内外共 橙5YR6/6		
123	弥生土器	壺	SX74-75	②<2.6>	内面 マツ、ヨコナデか 外面 ヨコナデ	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:やや不良 C:内外共にふい橙7.5YR8/4		
124	弥生土器	壺	SX74-75	②<6.6> ③10.6	内面 工具ナデ・ナデ 外面 ナデ	A:1mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内面 橙2.5YR7/6 外面 橙2.5YR7/6 黒7.5YR2/1		
125	土製品	不明	SX74-75 周辺	縦 14.8 横 10.5 高さ <5.7>	全体的に型押し、内外面に割れ	A:微細な白色粒子をわずかに含む B:やや良好 C:内外共 淡黄橙10YR8/3~淡橙5YR8/3~灰黄2.5Y7/2	胎土は空疎で軽い	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm)		形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調・釉調	備考
				①口径②器高③底径④最大径※( )は復元( )は残存				
126	弥生土器	壺	SX138	②<11.2> ④<28.9>	内面 ナデ、指押え 外面 ナデ、間隔をあげてハケ様の縞文	A:微細な白色粒子・雲母を少量含む B:やや良好 C:内面 橙5YR6/6 外面 赤褐2.5YR4/6	丹塗り	
127	弥生土器	無頸壺	SX191	①8.4 ②7.2~7.3 ③4.9 ⑤12.2	内面 ナデ、ミガキ 外面 ナデ、わずかにミガキの痕跡	A:1mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内面 橙7.5YR6/6 外面 赤褐5YR4/8	丹塗り、穿孔あり 内面に丹が垂れる	
128	土師器	小型丸底壺	1号墳周溝 (SD03 5区上層)	①<10.9> ②<7.7>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 マツ、一部ハケ残る	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共にぶい橙7.5YR7/4		
136	弥生土器	壺	1号墳主体部 (SK01 3区上層)	②<5.5>	内面 ナデ 外面 ナデ、ヨコナデ	A:1mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内面 橙7.5YR6/6 外面 橙7.5YR6/6 にぶい黄橙 10YR7/4		
137	弥生土器	瓢形壺	1号墳主体部 (SK01 3区上層) 棺?検出面上層	②<4.2>	内面 ナデか	A:2mm以下の石英・長石・雲母を多く含む B:やや不良 C:内外共に 橙5YR6/6		
138	弥生土器	筒形器台	1号墳主体部 (SK01 木棺 裏込め)	②<3.5>	内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ミガキ、ヨコナデ	A:2.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内面 橙5YR6/6 外面 明赤褐2.5YR5/8	丹塗り	
139	弥生土器	筒形器台	1号墳主体部 (SX160 1区 黒褐色土)	②<4.4>	内面 ヨコナデ 外面 ミガキ	A:3mm以下の長石・石英をやや多く含む B:良好 C:内面 橙5YR6/6 外面 明赤褐5YR4/8	丹塗り	
140	弥生土器	筒形器台	1号墳主体部 (SX160 1区 黒褐色土)	②<6.5>	内面 ヨコナデ 外面 ミガキ	A:3mm以下の長石・石英をやや多く含む B:良好 C:内面 橙5YR6/6 外面 明赤褐5YR4/8	丹塗り、透かしあり	
141	弥生土器	甕	1号墳主体部 (SK01 木棺 裏込め 3区 粘土重土)	②<3.3> ③<10.0>	内面 ナデ 外面 ナデ、工具ナデ	A:1mm以下の白色粒子・雲母を少量含む B:やや良好 C:内外共に 橙5YR6/6		
144	土師器	蓋	1号墳主体部(SX160 3 区盛土・黒褐色土)	①<14.0> ②<3.0>	内面 回転ナデ 外面 回転ナデ、回転ヘラケズリ	A:0.5mm以下の白色粒を少量、微細な雲母をやや多く含む B:良好 C:内外共に 橙5YR6/6	内面に墨書	
145	土師質土器	壺	1号墳主体部(SX160 3 区盛土・黒褐色土)	①<15.0> ②<15.6> ④22.0	内面 ロクロナデ 外面 ロクロナデ	A:2mm以下の長石・石英をやや多く含む B:良好 C:内面 明褐7.5YR5/9 外面 橙7.5YR6/6	口縁部～肩部上位部分と胴部を 線上で合成する	
146	土師器	壺	3号墳周溝(SD02-6)	①<15.0> ②<5.4>	内面 ミガキ、ハケ状工具のナデ 外面 ミガキ、口縁外面は粗いミガキ	A:1mm以下の白色粒子をわずかに、雲母を少量含む B:やや良好 C:内外共に 橙5YR6/6		
147	陶器	甕	SX04	①52.3 ②77.4 ③28.1	内面 格子目タタキ、ヨコナデ 外面 格子目タタキ、ヨコナデ、口縁部に沈線	A:2mm程の白色粒子をやや多く含む B:良好 C:暗褐色の釉を施す	口縁部に目アト	
148	陶器	甕	SX05	①53.2 ②80.0~80.2 ③31.0	内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ	A:1mm以下の白色粒子をわずかに含む B:良好 C:明褐色を呈す鉄釉、素地は暗赤褐色	口縁部に目アト 外面に刻印あり	
149	陶器	甕	SX07	①50.5 ②71.3~72.0 ③27.2	内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ 外面 格子目タタキ、口縁部に沈線	A:2mm以下の白色粒子を少量含む B:良好 C:明茶褐色の不透明釉を施す、光沢はない	口縁部に目アト 外面に手書き「十」	
150	陶器	甕	SX10	①35.4 ②55.0 ③22.1	内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ 外面 沈線	A:2mm以下の白色粒子をやや多く含む B:良好 C:茶褐色を呈しきらめ光沢(鉄釉)あり		
151	陶器	甕	SX12	①35.0 ②57.8 ③22.2 ④38.0	内面 ヨコナデ、底部内面 格子目タタキ 外面 ヨコナデ、沈線	A:白色粒子を少量含む B:良好 C:暗赤褐色の釉を施す	口縁部に目アト	
152	陶器	甕	SX80	①53.45 ②74.2 ③29.7 ④58.6	内面 ヨコナデ、底部内面 格子目タタキ 外面 ヨコナデ、沈線	A:白色粒子を少量含む B:良好 C:暗赤褐色の鉄釉を施す	口縁部に目アト	
153	陶器	甕	SX88	①55.6 ②81.1~80.7 ③28.5	内面 ヨコナデ 外面 格子目タタキ、沈線	A:にぶい橙褐色、微細な白色粒子をわずかに含む B:良好 C:暗褐色の鉄釉、光沢はない	胴縁2枚が付着していた痕が 残る 口縁部に目アト	
154	陶器	甕	SX92	①48.7 ②72.5 ③27.5 ④55.7	内面 格子目タタキ、ヨコナデ 外面 格子目タタキ	A:明赤褐色の素地に白色粒子を少量含む B:良好 C:暗赤褐色の鉄釉を施し、上から黄釉を掛け流す		
155	陶器	甕	SX97	①51.9 ②70.3 ③26.8	内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ 外面 格子目タタキ、沈線	A:1mm以下の白色粒子を含む B:良好 C:暗赤褐色の釉を施す		
156	陶器	甕	SX107	①55.2 ②71.5~73.5 ③28.0	内面 ヨコナデ 外面 平行タタキか	A:にぶい赤褐色、1.5mm以下の白色粒子をわずかに含む B:良好 C:明褐色の鉄釉を施す、上から土灰釉を掛け流す	口縁部に目アト	
157	陶器	甕	SX158	①53.5 ②81.5~83.0 ③30.7	内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、口縁部に沈線	A:にぶい赤褐色、1mm以下の白色粒子を少量含む B:良好 C:褐色の鉄釉を施す、胴部境より下に鉄釉の上 から薄く掛け流す	口縁部に目アト	
158	陶器	甕	SX161	①50.6 ②75.6 ③26.9 ④57.1	内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ 口縁部に沈線	A:1mm以下の白色粒子をわずかに含む B:良好 C:暗石灰の釉を施す		
173	陶器	甕	SX166	①49.0 ②74.0 ③26.4	内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ 外面 平行タタキか、口縁部に沈線	A:1mm以下の白色粒子を少量含む 明褐色 B:良好 C:褐色の鉄釉に黄釉を施す、光沢はない、釉を重ね掛け	口縁部に目アト	
174	陶器	甕	SX169	①50.2 ②75.4~75.9 ③24.0	内面 ヨコナデ、底部内面 格子目タタキ 外面 ヨコナデ、口縁部に沈線	A:にぶい赤褐色 微細な白色粒子をわずかに含む B:良好 C:明褐色の鉄釉を施し、上から土灰釉を掛け流す	口縁部に目アト	
175	陶器	甕	SX171	①37.8 ②35.5~36.7 ③19.0	内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ	A:灰色の4mm以下の粒子、2mm以下の白色粒子を少量含む B:良好 C:明るい褐色を呈し光沢あり、黒釉を口縁下より 掛け流す		
176	陶器	甕	SX172	①39.0 ②61.5 ③25.0	内面 ヨコナデ、格子目タタキ、 底部内面 格子目タタキ 外面 ヨコナデ、口縁部に沈線	A:赤褐色に1mm以下の白色粒子を少量含む B:良好 C:褐色の釉を施す	波状沈線	
177	陶器	甕	SX174	①49.3 ②76.2 ③26.1	内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ 外面 ヨコナデ、口縁部に沈線	A:1mm以下の微細な白色粒子を含む B:良好 C:暗赤褐色の釉を施す	口縁部に目アト	
178	陶器	甕	SX175	①34.0 ②43.6 ③22.0 ④36.1	内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ 外面 沈線	A:微細な白色粒子をわずかに含む、赤褐色の胎 B:良好 C:暗褐色を呈す、光沢はない		
202	陶器	甕	SX178	①52.3 ②81.5~82.0 ③28.0	内面 格子目タタキ、ヨコナデ、 底部内面 格子目タタキ 外面 平行タタキ、ヨコナデ、口縁部に沈線	A:赤褐色、1mm以下の白色粒子を少量含む B:良好 C:褐色の鉄釉を施す、内外に鉄釉(土灰釉か)を上から掛 け流す	ボタンの貼り付け 口縁部に目アト	
203	陶器	甕	SX179	①46.4 ②76.8 ③24.0 ④56.4	内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ 外面 口縁部に沈線	A:白色粒子を少量含む B:良好 C:褐色の鉄釉を施す	口縁部に目アト	
204	陶器	甕	SX180	①56.1 ②81.2~84.4 ③30.0	底部内面 格子目タタキ 外面 格子目タタキ、口縁部に沈線	A:にぶい赤褐色、微細な白色粒子を少量含む B:良好 C:暗褐色の鉄釉を施す、胴部最下位に	口縁部に目アト	
205	陶器	甕	SX181	①35.0 ②59.2~60.2 ③23.0	内面 ヨコナデ、底部内面 格子目タタキ 外面 沈線	A:暗赤褐色、1mm以下の白色粒子をわずかに含む B:良好 C:褐色の鉄釉、鉄釉の上から明るい褐色釉を流 し掛け	口縁部に目アト	
206	陶器	甕	SX189	①49.2 ②75.5~75.8 ③29.0	内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ 外面 沈線	A:にぶい橙褐色、1.5mm以下の白色粒子を少量含む B:良好 C:褐色を呈す鉄釉、上から重ね掛け(土灰釉か)	口縁部に目アト	
207	陶器	甕	SX190	①50.1 ②76.0~76.4 ③25.0	内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ	A:1mm以下の白色粒子を少量含む、素地は赤褐色 B:良好 C:褐色の鉄釉を施す	口縁部に目アト	
213	磁器(染付)	紅皿	SX179 ①	①4.2 ②1.8 ③2.0	内外面共に施釉 高台先端部を削ぎとる、重ね焼き痕	A:白色、精良 B:良好 C:光沢のある、やや水色味を おびた透明釉が内外にかかる	「京都」都紅「紅清」の文字	
214	磁器	小椀	SX179 ①	①7.8 ②4.6~4.5 ③3.4	内外面共に施釉 高台先端部を削ぎとる、重ね焼き痕	A:白色、精良 B:良好 C:光沢のある、白色の半透明釉が内外にやや厚くかかる	緑色と褐色の印刷捺付け 高台内に「柏山精製」の文字	
224	陶器	甕	SX196	①48.7 ②86.5 ③27.0	内面 格子目タタキ 外面 ヨコナデ、口縁部に沈線	A:赤褐色、1mm以下の白色粒子をわずかに含む B:良好 C:褐色の鉄釉、光沢はない	胴部最下位に凹み4ヶ所 口縁部に目アト	
225	陶器	甕	SX199	①34.6 ②32.5 ③19.1 ④35.3	内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ	A:微細な白色砂粒を少量含む B:良好 C:暗赤褐色の釉が掛かり、光沢がある	見込みを重ね焼き痕	
226	陶器	甕	帰属不明	①36.3 ②55.0 ③22.0 ④40.3	内面 格子目タタキ、ヨコナデ 外面 格子目タタキ、沈線	A:微細な白色粒子を少量含む B:良好 C:褐色の鉄釉を 薄く施す、口縁部内側は明赤褐色釉を施す	口縁部に目アト	
227	陶器	甕	帰属不明	①55.6 ②71.3 ③27.5 ④55.6	外面 平行タタキか	A:2mm以下の白色砂粒を少量含む B:良好 C:暗赤褐色の鉄釉を施した土灰釉を重ね掛け	底部内面に鉄粒の痕	
228	陶器	甕	帰属不明	①22.0 ②26.2~26.3 ③15.4	内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、沈線	A:にぶい黄褐色、微細な白色粒子をわずかに含む B:良好 C:黄褐色を呈し光沢あり、胴部上位と口縁部に 白化粧を掛け	指で文	
229	陶器	甕	帰属不明	①57.3 ②82.0~82.7 ③29.0	内面 ヨコナデ、底部内面 格子目タタキ 外面 口縁部に沈線	A:1mm以下の白色粒子を少量含む B:良好 C:暗褐色の鉄釉を施す、光沢はない	口縁部に目アト 底部外面に目アト	
230	陶器	甕	帰属不明	①60.0(52.0~61.3) ②71.8 ③27.6	内面 ヨコナデ、底部内面 格子目タタキ 外面 ヨコナデ、沈線	A:橙褐色、1mm以下の白色砂粒を含む B:良好 C:褐色の 鉄釉を施す	口縁部に目アト	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm)		形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調・釉調	備考
				①口径②器高③底径④最大径	※( )は復元( )は残存			
231	陶器	壺	帰属不明	①53.6 ②86.4 ③28.6 ④58.4		内面 格子目タタキ、底部内面 格子目タタキ 外面 十字目、沈線	A:白色粒子を少量含む B:良好 C:褐色の鉄粉で施釉後 黄釉を重ね掛け	口縁部に目アト
232	陶器	壺	帰属不明	①50.4 ②74.8~75.3 ③26.6		内面 ヨコナデ、底部内面 格子目タタキ 外面 ヨコナデ、口縁部に沈線	A:にぶい赤褐色、微細な白色粒子をわずかに含む B:良好 C:褐色の鉄粉を施す	口縁部に目アト
233	陶器	壺	帰属不明	①52.1 ②75.6~75.8 ③29.0		内面 平行タタキ、底部内面 格子目タタキ 外面 ヨコナデ、沈線	A:にぶい褐色、1.5mm以下の白色粒子を少量含む B:良好 C:明褐色の鉄粉を施す	口縁部に目アト
249	磁器	皿	SX52	①(15.6) ②2.85 ③(7.9)		内面 施釉、型押し 外面 施釉、高台先端釉を剥ぎとる	A:灰白 精良 B:良好 C:やや緑青色味を帯びた半透明の 釉が内外にかかる、光沢あり	内面 編みカゴ状の型押し文様に 赤絵付(エド)
260	磁器	紅皿	SX110	①4.3 ②1.0~1.3 ③1.2		内外面共 施釉	A:灰白、精良 B:良好 C:やや水色をおびた透明釉、光沢 あり	外面半分ほどは釉が薄い
265	磁器	猪口	SX122	①6.8 ②4.3 ③3.3		内外面共 施釉 高台先端釉を剥ぎとる、白砂付着	A:灰白、精良 B:良好 C:淡い水色をおびた透明釉、光沢 あり	
269	磁器(染付)	小碗	SX130	①7.5 ②4.15 ③3.2		内面 施釉 外面 施釉、高台先端釉を剥ぎとる、一部白砂 付着、体部下位に墨線、釉下に具須で草花文 を描く	A:灰白 精良 B:良好 C:やや水色味をおびた透明釉、光沢あり	
270	弥生土器	高杯	SX130	①(19.4) ②<12.5>		内面 ナデ 外面 絞り痕、ナデ、ヨコナデ	A:微細な白色粒子・雲母をわずかに含む B:やや良好 C:内外共 赤褐2.5YR4/6	丹塗り(脚部除く)
280	磁器(染付)	小碗	SX150	①10.2 ②4.65 ③3.8		内面 施釉、釉を輪状に剥ぎとる 外面 全体に施釉、一部ナズリ、高台先端釉を 剥ぎとる、体部に墨線、施文(草花文)	A:灰白N81、精良 B:良好 C:やや水色をおびる 光沢あり	
282	土師器	杯	SX18	①(9.5) ②<2.2> ③(4.8)		内面 マツ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共ににぶい黄褐色10YR7/4	
283	青磁	碗	SX21	②<2.1> ③(5.3)		内面 施釉 外面 ケズリ、施釉、施文(菊目)	A:精良(空疎あり) B:良好 C:淡い緑青色を呈する透明 釉、光沢あり	同安窯系
291	土師器	小皿	SX32	②<1.0> ③(7.0)		内面 ナデ、ヨコナデ 外面 回転糸切り、ヨコナデ	A:0.5mm以下の白色粒を少量含む B:やや不良 C:内外共ににぶい黄褐色10YR7/3	
297	陶器	皿	SX34 P-2	①10.55 ②3.4~3.5 ③4.2		内面 施釉 外面 ケズリ、ロクロナデ、施釉	A:茶灰色、精良 B:良好 C:灰緑色を帯びた半透明釉、光沢あり	
299	土師器	小皿	SX37 P-1	①(9.4) ②1.7 ③5.0		内面 ナデ 外面 回転糸切り、ヨコナデ	A:1mm以下の白色粒子・雲母をわずかに含む B:良好 C:内外共ににぶい黄褐色10YR7/3	
300	土師器	小皿	SX37 P-2	①9.2 ②1.5~1.6 ③5.3		内面 工具ナデ(ミガキ状) 外面 回転糸切り、ヨコナデ	A:微細な白色粒子・雲母をわずかに含む B:良好 C:内外共ににぶい黄褐色10YR7/3	
301	土師器	小皿	SX37 P-3	①9.3 ②1.5~1.6 ③5.5		内面 一部ナデ、一部に指押え痕 外面 回転糸切り、ヨコナデ、板状圧痕あり	A:2mm以下の白色粒子・雲母を少量含む B:良好 C:内面 褐灰色10YR6/1~灰黄褐10YR4/2 外面 灰黄褐 10YR4/2	
302	土師器	小皿	SX37 P-4	①9.2 ②1.45~1.55 ③5.8		内面 ヨコナデ、一部ナデ、一部指押え 外面 回転糸切り、スダレ状圧痕か、ヨコナデ	A:1mm以下の白色粒子・雲母を少量含む B:良好 C:内外共ににぶい黄褐色10YR7/4~灰黄褐10YR5/2	外面スス付着
303	土師器	小皿	SX37 P-5	①9.8 ②1.8~2.2 ③7.3		内面 ヨコナデ 外面 回転糸切り(板状?圧痕あり)、ヨコナデ	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共ににぶい黄褐色10YR5/3	
304	土師器	小皿	SX37 P-6	①9.4 ②1.35~1.45 ③4.6		内面 一部ナデ、条痕あり 外面 回転糸切り、板状圧痕あり、ヨコナデ	A:1mm以下の白色粒子・雲母を少量含む B:良好 C:内外共ににぶい黄褐色10YR7/3	
308	弥生土器	壺	SX45	②<13.9>		内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ、ヨコナデ	A:3mm以下の長石・石英を多く含む雲母を少量含む B:良好 C:内面 にぶい黄褐色7.5YR7/4 外面 灰黄褐10YR6/2	
309	磁器	小碗	SX55	①長径8.1 短径7.0 ②4.2~4.5 ③3.0		内外面共 施釉 高台先端釉を剥ぎとる、高台量付部に白砂付 着	A:白 精良 B:良好 C:淡い緑青色をおびた透明釉が内外 にやや厚くかかる	口縁部のゆがみが大きい
317	弥生土器	壺	SX67 上層	②<8.4> ③10.1		内面 ナデ、刷毛状工具ナデ、指押え痕 外面 ナデ、指によるナデ成形	A:1.5mm以下の白色粒子・雲母を少量含む B:良好 C:内面 明赤褐5YR5/6 外面 橙7.5YR6/6	
318	弥生土器	壺	SX67-68 一段下げ	①(68.2) ②<27.5>		内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ、ヨコナデ	A:2mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:やや不良 C:内面 橙5YR6/6 外面 橙5YR6/6 褐灰5YR4/1	外面に黒斑あり
331	磁器	猪口	SX103	①6.4 ②3.8~4.0 ③2.6		内外面共 施釉 高台先端釉を剥ぎとる、一部白砂付着	A:灰白、精良 B:良好 C:やや灰色を帯びた透明釉、光沢あり	
337	磁器(染付)	小碗	SX114	①7.0 ②3.3~3.35 ③2.6		内面 施釉 外面 施釉、高台先端釉を剥ぎとる、白砂付着、 施文	A:灰白、精良 B:良好 C:やや灰色を帯びた透明釉、光沢あり	
343	土師器	小皿	SX125	①4.9 ②1.5~1.6 ③7.9		内面 ナデ 外面 回転糸切り、板状圧痕あり、ヨコナデ	A:2mm以下の石英・長石・雲母と茶色粒子を少量含む B:やや不良 C:内外共ににぶい黄褐色7.5YR6/4	
344	土師器	杯	SX125	①(12.4) ②2.65 ③(8.8)		内面 ナデ(横方向の強いナデ) 外面 回転糸切り、板状圧痕あり、ヨコナデ	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:やや良好 C:内外共ににぶい黄褐色10YR7/3	
345	磁器(染付)	碗	SX125	①11.2 ②5.8 ③4.2		内面 施釉 外面 施釉、高台先端釉を剥ぎとる、 高台部に墨線、施文	A:灰白 精良 B:良好 C:淡い水色をおびた透明釉、光沢あり	雲の結晶文を型刷り 周りをイッチン描きする
346	弥生土器	高杯	SX125 (SD01.02 2-3区ベルト)	①(19.2) ②<6.0>		内面 ナデ 外面 ナデ、ヨコナデ	A:1.5mm以下の石英・長石をわずかに含む B:やや良好 C:内外共 赤褐2.5YR4/6	
353	土師器	小皿	SX137	①(9.4) ②1.3 ③(6.8)		内面 ナデ、ヨコナデ 外面 回転糸切り、板状圧痕あり、ヨコナデ	A:2mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共ににぶい黄褐色7.5YR6/4	口縁部にスス付着、灯明皿
359	土師器	小皿	SX139	①7.2 ②1.15~1.3 ③4.4		内面 ヨコナデ 外面 回転糸切り、ヨコナデ	A:1mm以下の白色粒子・雲母を少量含む B:良好 C:内外共ににぶい黄褐色7.5YR7/4	
360	土師器	小皿	SX139 I	①9.5 ②1.3~1.4 ③6.4		内面 ヨコナデ 外面 回転糸切り、板状圧痕あり、ヨコナデ	A:微細な白色粒子・雲母をわずかに含む B:良好 C:内面 淡黄褐7.5YR8/4 外面 淡黄褐7.5YR8/4	
361	陶器	皿	SX139 II	①12.1 ②3.65~3.9 ③4.5		内面 施釉 外面 施釉、ヘラケズリ、ロクロナデ	A:にぶい黄褐色7.5YR7/3 白色粒子・黒色粒子を少量含む B:良好 C:にぶい灰緑色をおびる釉、光沢あり	
368	磁器(染付)	猪口	SX149	①5.4 ②3.3~3.4 ③2.6		内面 施釉 外面 施釉、ケズリ、施文(草花文)	A:灰白N81、精良 B:良好 C:やや水色をおびる、光沢あり	
380	磁器	猪口	SX99	①(5.6) ②<2.9>		内面 施釉 外面 施釉	A:灰白 精良 B:良好 C:わずかに緑青色を帯びた透明釉が 内外にやや厚くかかる、光沢、細かい貫入あり	二条の沈線あり
381	磁器	碗	SX99	①(10.0) ②<4.0>		内面 施釉 外面 施釉	A:灰白 精良 B:良好 C:やや水色味をおびた透明釉が内 外にやや厚くかかる	染付花卉文
383	瓦質土器	壺	SX109	①(20.2) ②3.5 ③15.6		内面 ロクロナデ 外面 ナデ、ロクロナデ	A:2mm以下の長石・石英・微細な雲母片をやや多く含む B:良好 C:内外共 灰褐色7.5YR4/2	385の蓋か
384	陶器	壺	SX109	①(26.0) ②26.5 ③(15.0)		内面 ロクロナデ、薄く施釉、口縁部重ね掛け 外面 ナデ、施釉	A:灰褐7.5YR4/2~にぶい黄褐色7.5YR6/4、2mm以下の白色粒 子・黒色粒子を少量含む B:良好 C:暗褐色を呈し光沢あり	
385	瓦質土器	壺	SX109	②<15.3> ③19.0		内面 ナデ、ロクロナデ 外面 ナデ、ヨコナデ、ハケ状工具でヨコナデ	A:2mm以下の長石・石英・微細な雲母片をやや多く含む B:良好 C:内外共 灰褐7.5YR4/2	383とセット関係か
386	土師器	杯	SX177	①(10.8) ②2.5 ③7.0		内面 ナデ、ヨコナデ 外面 回転糸切り、ヨコナデ	A:1mm以下の長石・石英・雲母を少量含む B:良好 C:内外共ににぶい黄褐色7.5YR7/4	
388	土師質土器	壺	SX28	②<23.6> ③17.6		内面 ナデ、ハケ 外面 ナデ、ハケ後ナデ、一部指押え	A:3mm以下の長石・石英をやや多く含む B:良好 C:内外共ににぶい黄褐色7.5YR7/4	
389	陶器	壺	SX56	①(8.2) ②14.5 ③10.0		内面 ロクロナデ、施釉 外面 回転糸切り、回転ヘラケズリ、施釉	A:灰褐7.5YR4/2、精良 B:良好 C:黒褐色の不透明釉が やや厚く掛かる、一部重ね掛け、光沢あり	
390	土師器	小皿	SX60-69 周辺	①8.2 ②0.9~1.1 ③5.6		内面 ナデ、ヨコナデ 外面 回転糸切り、板状圧痕あり、ヨコナデ	A:1.5mm以下の石英・長石を少量含む B:良好 C:内外共 橙7.5YR6/6	
397	弥生土器	高杯	カクラン5	①(9.2) ②<6.0>		内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ、ヨコナデ	A:1mm以下の石英・長石・雲母をわずかに含む B:良好 C:内外共 赤褐2.5YR4/6	丹塗り
400	弥生土器	筒形器台	表土剥ぎ	②<12.7>		内面 ナデ 外面 ミガキ	A:2.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内面 橙5YR7/8、明赤褐2.5YR5/8	丹塗り、透かしあり

表5 第7・8次調査出土遺物観察表（金属製品）

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量(cm/g)	備考
115	鉄製品	鉄鏃	1号石棺墓	長 6.70 幅 3.30	
116	鉄製品	穂摘鎌	1号石棺墓	長 8.70 幅(刃) 1.85	
129	鉄製品	鉄斧	古墳主体部南小口側墳丘盛土	長 9.95 幅 4.25	
130	鉄製品	鉄斧	1号墳主体部(SK01 木棺 7区 ※墳丘盛土内)	長 8.40 幅 4.15	
131	鉄製品	刀子	1号墳主体部(SK01 木棺 7区)	長 8.45	
159	銅製品	銅銭	SX01	長 2.80 幅 2.90 孔幅 0.50 厚 0.90 重 20.0	6枚重なる ※法量は6枚分
160	鉄製品	鉄釘	SX04 右脛骨近く	長 4.25(銹等込み)	
161	銅製品	銅銭	SX04 棺底出土	長 2.60 幅 2.90 孔幅 0.50 厚 0.40 重 4.70	2枚重なる 1枚完存、1枚1/2 ※法量は2枚分
162	銅製品	銅銭	SX04 棺底出土	長 3.60 幅 3.60 孔幅 0.60 厚 0.55 重 9.60	3枚重なる ※法量は3枚分
163	銅製品	銅銭	SX87	長 2.80 幅 3.00 厚 0.80 重 13.90	4枚重なる ※法量は4枚分
164	銅製品	銅銭	SX88	外径 2.50 孔幅 0.45 厚 0.10 重 2.60	
165	銅製品	銅銭	SX88	長 2.60 横 2.60 孔幅 0.45 厚 0.40 重 10.10	3枚重なる ※法量は3枚分
166	鉄製品	鉄銭	SX88	長 2.60 幅 2.70 孔幅 0.50 厚 0.50 重 1.70	2枚重なる 端部の1/4は欠損 ※法量は2枚分
167	鉄製品	鉄銭	SX89	長 2.70 幅 3.10 厚 0.60 重 8.90	3枚重なる ※法量は3枚分
168	鉄製品	鉄銭	SX89	長 3.20 横 3.10 厚 0.90 重 8.00	銭は3枚か ※法量は3枚分
169	銅製品	銅銭	SX97	長 2.90 幅 3.70 厚 2.50 重 18.50	銅銭は6枚 内1枚は鉄銭か ※法量は6枚分
170	銅製品	銅銭	SX107	外径 2.35 孔幅 0.65 厚 0.12 重 2.60	寛永通寶
171	銅・鉄製品	銅銭・鉄銭	SX107	長 3.10 幅 3.70 孔幅 0.55 厚 1.05 重 10.60	寛永通寶 4枚重なる 3枚完存、1枚1/2 ※法量は4枚分
172	鉄製品	鉄銭	SX107	外径 2.10 孔幅 0.60 厚 0.50 重 2.70	
189	金属製品	硬貨	SX169	外径 2.30 厚 0.15 重 3.50	大正九年十銭
190	銅製品	煙管	SX169	長 19.25	羅字のない延煙管 銅地銀鍍金か銅鍍金
191	金属製品	硬貨	SX170	外径 2.20 厚 0.15 重 1.20	昭和十七年十銭 アルミ製品
192	金属製品	硬貨	SX170	外径 1.60 厚 0.15 重 0.60	昭和十六年一銭
208	銅製品	銅銭	SX174 棺底出土	外径 2.75 厚 0.35 重 4.00	
209	銅製品	銅銭	SX174 棺底出土	外径 2.35 孔幅 0.55 厚 0.19 重 2.70	
210	銅製品	硬貨	SX176	外径 2.30 厚 0.13 重 3.40	「大日本」の文字
211	銅製品	銅銭	SX178 寛骨下出土	外径 2.45 孔幅 0.60 厚 0.15 重 2.50	
212	銅製品	銅銭	SX178 前腕下出土	外径 2.20 厚 0.10 重 3.20	「大日本」の文字
216	金属製品	指めき	SX179 ③	長 2.20 幅 2.05 幅 1.00	
217	銅製品	銅銭	SX180 ①	外径 2.3 厚 0.15 重 2.80	
218	銅製品	銅銭	SX180 ①	外径 1.90 孔幅 0.25 厚 0.15 重 2.50	
219	銅製品	銅銭	SX180 ④ 棺底出土	外径 2.30 厚 0.25 重 3.40	木質付着
220	銅製品	硬貨	SX180 ④ 棺底出土	外径 3.20 厚 0.25 重 12.60	二銭
221	銅製品	煙管	SX180 ①	長 6.85	布でくるまれている
222	銅製品	不明金具	SX180 ②	長 1.98 幅 3.56	銅地銀鍍金か銅鍍金
223	金属製品	硬貨	SX181	長 2.80 幅 2.80 厚 0.15 重 5.50	
234	銅製品	銅銭	SX02	外径 2.40 孔幅 0.60 厚 0.10 重 2.70	寛永通寶
235	銅製品	銅銭	SX02	外径 2.30 孔幅 0.55 厚 0.1 重 2.40	寛永通寶
236	銅製品	銅銭	SX02	長 2.60 幅 2.50 孔幅 0.55 厚 0.45 重 12.0	寛永通寶 4枚重なる ※法量は4枚分
237	鉄製品	鉄釘	SX02	長 3.00	
238	鉄製品	鉄釘	SX02	長 4.15	※法量は木質込み
239	鉄製品	鉄釘	SX02	長 4.75	※法量は木質込み
240	鉄製品	鉄釘	SX02	長 3.60	※法量は木質込み
241	鉄製品	鉄釘	SX02	長 4.05	※法量は木質込み
242	鉄製品	鉄釘	SX02	長 3.70	※法量は木質込み
243	鉄製品	鉄釘	SX06	長 3.55	
245	銅製品	銅銭	SX14	長 3.60 幅 3.70 孔幅 0.60 厚 0.90 重 16.50	6枚重なる 銅銭4枚、鉄銭2枚 ※法量は6枚分
246	銅製品	銅銭	SX39	外径 2.30 孔幅 0.65 厚 0.10 重 1.90	寛永通寶
247	銅製品	銅銭	SX39	外径 2.40 孔幅 0.55 厚 0.10 重 2.40	寛永通寶 外縁部を1/8欠損

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm/g)	備考
248	銅製品	銅銭	SX39 木棺	外径 2.40 孔幅 0.60 厚 0.10 重 2.70	
253	鉄製品	出土釘	SX84	長 4.90(錆等込み)	
254	鉄製品	鉄銭	SX84	外径 2.60 孔幅 0.60 厚 0.70 重 3.30	
255	銅製品	銅銭	SX91?	外径 2.40 孔幅 0.60 厚 0.10 重 3.00	寛永通寶
256	銅製品	銅銭	SX91?	長 2.70 幅 2.70 孔幅 0.50 厚 0.40 重 7.50	3枚重なる 銅銭2枚完存、鉄銭1枚1/2 ※法量は3枚分
257	銅製品	銅銭	SX91?	外径 2.50 孔幅 0.60 厚 0.45 重 3.80	3枚重なる 銅銭1枚完存、鉄銭2枚1/4 ※法量は3枚分
258	銅製品	銅銭	SX108	長 2.80 幅 2.90 孔幅 0.55 厚 0.90 重 11.80	5枚重なる 3枚完存、1枚外縁部1/4欠損、1枚1/2植物繊維付着 ※法量は5枚分
259	銅製品	銅銭	SX108	外径 2.30 孔幅 0.60 厚 0.60 重 1.90	残存1/2 植物繊維付着
261	銅製品	銅銭	SX110	外径 2.40 孔幅 0.55 厚 0.10 重 3.20	寛永通寶
262	銅製品	銅銭	SX110	外径 2.50 孔幅 0.55 厚 0.10 重 3.20	寛永通寶
263	銅製品	銅銭	SX110	外径 2.40 孔幅 0.50 厚 0.10 重 3.60	寛永通寶
264	銅製品	銅銭	SX110	外径 2.50 孔幅 0.50 厚 0.10 重 4.20	寛永通寶「文」の文字
266	銅製品	銅銭	SX122	外径 2.50 孔幅 0.60 厚 0.11 重 2.90	寛永通寶
267	銅製品	銅銭	SX122	外径 2.50 孔幅 0.56 厚 0.12 重 3.30	寛永通寶
268	銅製品	銅銭	SX122	外径 2.40 孔幅 0.55 厚 0.12 重 4.00	寛永通寶
271	銅製品	銅銭	SX130	長 3.10 幅 3.00 孔幅 0.60 厚 0.50 重 5.10	寛永通寶 2枚重なる 1枚完存、1枚ほぼ完存か木質付着 ※法量は2枚分
272	銅製品	銅銭	SX130	長 2.90 幅 3.20 孔幅 0.55 厚 0.35 重 7.00	寛永通寶 3枚重なる ※法量は3枚分
273	銅製品	銅銭	SX130	外径 2.50 孔幅 0.50 厚 0.14 重 3.40	寛永通寶
274	銅製品	キセル	SX131	雁首長 5.75 幅 0.95 吸口長 4.45 幅 1.25	布付着
287	金属製品	十字架	SX21 埋土?	長1.16 幅 0.72 厚 0.09	銅地銀箔貼金鍍金か
305	銅製品	銅銭	SX37	長 2.60 幅 2.60 孔幅 0.40 厚 0.30 重 5.70	2枚重なる ※法量は2枚分
306	銅製品	銅銭	SX41	外径 2.40 孔幅 0.55 厚 0.10 重 0.70	残存1/2
307	銅製品	銅銭	SX45	長 2.70 幅 3.00 孔幅 0.60 厚 0.80 重 21.00	寛永通寶 6枚重なる ※法量は6枚分
319	銅製品	銅銭	SX95	外径 2.30 孔幅 0.60 厚 0.10 重 1.70	寛永通寶
320	銅製品	銅銭	SX95	長 2.70 幅 2.40 孔幅 0.40 厚 0.20 重 7.30	寛永通寶 2枚重なる ※法量は2枚分
321	銅製品	銅銭	SX95	外径 2.30 孔幅 0.65 厚 0.10 重 2.20	寛永通寶
322	銅製品	銅銭	SX95	長 2.50 幅 2.70 孔幅 0.40 厚 0.40 重 6.70	寛永通寶 2枚重なる ※法量は2枚分 表面に布状の付着物あり
323	銅製品	環状	SX102 上層	長 1.75 幅 1.90 高 0.20	残存4/5
327	銅製品	銅銭	SX102	外径 2.40 孔幅 0.62 厚 0.13 重 1.80	寛永通寶 背面に和紙付着
328	銅製品	銅銭	SX102	外径 2.42 孔幅 0.60 厚 0.12 重 2.20	寛永通寶
329	銅製品	銅銭	SX102	外径 2.50 孔幅 0.60 厚 0.15 重 3.30	寛永通寶
330	銅製品	銅銭	SX102	外径 2.48 孔幅 0.68 厚 0.13 重 1.70	寛永通寶 一部欠損
338	銅製品	銅銭	SX118	外径 2.30 孔幅 0.50 厚 0.10 重 1.20	寛永通寶 縁が1/4欠損
339	銅製品	銅銭	SX118	外径 2.50 孔幅 0.50 厚 0.10 重 3.40	寛永通寶「文」の文字
340	銅製品	銅銭	SX118	長 3.00 幅 4.80 孔幅 0.50 厚 0.30 重 8.60	寛永通寶 3枚重なる ※法量は3枚分
341	銅製品	銅銭	SX118	外径 2.40 孔幅 0.50 厚 0.10 重 2.60	
342	銅製品	銅銭	SX119	外径 2.35 孔幅 0.55 厚 0.14 重 2.30	寛永通寶
369	銅製品	銅銭	SX154	外径 2.27 孔幅 0.65 厚 0.10 重 2.20	寛永通寶
370	銅製品	銅銭	SX154	外径 2.40 孔幅 0.55 厚 0.10 重 2.40	寛永通寶
371	銅製品	銅銭	SX154	外径 2.50 孔幅 0.60 厚 0.12 重 2.90	寛永通寶
372	銅製品	銅銭	SX154	外径 2.40 孔幅 0.55 厚 0.13 重 4.10	寛永通寶
373	銅製品	銅銭	SX154	外径 2.38 孔幅 0.55 厚 0.10 重 3.00	寛永通寶
374	銅製品	銅銭	SX154	外径 2.30 孔幅 0.60 厚 0.10 重 2.30	寛永通寶 付着物あり
382	金属製品	模造銭か	SX99	外径 2.45 孔幅 0.50 厚 0.10 重 3.40	円形孔あり
387	銅製品	銅銭	SP02	長 3.40 幅 3.40 孔幅 0.50 厚 2.80 重 37.00	銅銭は寛永通寶 銅銭8枚 内1枚は端部欠損、鉄銭2枚か ※法量は一塊
391	銅製品	銅銭	SX	外径 2.50 孔幅 0.50 厚 0.40 重 2.30	寛永通寶か 裏に「文」の文字
392	銅製品	銅銭	SX	外径 2.40 孔幅 0.45 厚 0.40 重 2.40	
393	銅製品	銅銭	板A	外径 2.25 孔幅 0.60 厚 0.20 重 1.60	

表6 第7・8次調査出土遺物観察表（玉・ガラス製品）

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	備考
108	石製品	勾玉	SX156 東小口側床面直上 No.1	長 1.10 幅 0.65 厚 0.25	灰緑色	
109	ガラス製品	ガラス玉	SX156 東小口側床面直上 No.4	長 0.25 幅 0.30 厚 0.20	青緑色	
110	ガラス製品	ガラス玉	SX156 東小口側床面直上 No.3	長 0.35 幅 0.40 厚 0.20	青緑色	
111	ガラス製品	ガラス玉	SX156 東小口側床面直上 No.2	長 0.40 幅 0.40 厚 0.20~0.25	青緑色	
132	石製品(碧玉)	管玉	1号墳主体部(SK01) 木棺 7区 褐灰色粘質土最下層	長 0.35 幅 0.35 厚 0.90~0.95	緑色	
133	石製品(碧玉)	管玉	1号墳主体部(SK01) 木棺 7区 褐灰色粘質土最下層	長 0.40 幅 0.40 厚 0.50	淡緑色	一部欠損
134	ガラス製品	ガラス玉	1号墳主体部(SK01) 木棺部 1区	長 0.35 幅 0.35 厚 0.20~0.25	青色	
135	ガラス製品	ガラス玉	1号墳主体部(SK01) 木棺部 4区	長 0.40 幅 0.40 厚 0.20~0.25	青緑色	
180	ガラス製品	ガラス玉	SX161	長 1.90 幅 1.90 厚 1.60	白色~赤褐色半透明	孔の中に紐が残る
181	ガラス製品	数珠玉	SX161	長 0.80 幅 0.80 厚 0.80	白色半透明	面取り
182	ガラス製品	数珠玉	SX161	長 0.80 幅 0.80 厚 0.80	白色半透明	面取り
183	ガラス製品	数珠玉	SX161	長 0.80 幅 0.80 厚 0.80	白色半透明	面取り
184	ガラス製品	数珠玉	SX161	長 0.80 幅 0.80 厚 0.80	白色半透明	面取り
185	ガラス製品	数珠玉	SX161	長 0.80 幅 0.80 厚 0.80	白色半透明	面取り
186	ガラス製品	数珠玉	SX161	長 0.80 幅 0.80 厚 0.80	白色半透明	面取り
187	ガラス製品	数珠玉	SX166	長 0.90 幅 0.90 厚 0.90	白色	親玉
188	ガラス製品	数珠玉	SX166	長 0.90 幅 0.90 厚 0.90	白色	親玉
193	ガラス製品	ガラス玉	SX170	長 0.48 幅 0.48 厚 0.25	黒色光沢あり	
194	ガラス製品	ガラス玉	SX170	長 0.48 幅 0.48 厚 0.25	黒色光沢あり	
195	ガラス製品	ガラス玉	SX170	長 0.48 幅 0.48 厚 0.25	黒色光沢あり	
196	ガラス製品	ガラス玉	SX170	長 0.38 幅 0.38 厚 0.50	赤橙色	
197	ガラス製品	ガラス玉	SX170	長 0.40 幅 0.40 厚 0.45	赤橙色	
198	ガラス製品	ガラス玉	SX170	長 0.40 幅 0.40 厚 0.35	赤橙色	
250	ガラス製品	ガラス玉	SX78	長 0.60 幅 0.60 厚 0.45	明黄褐色半透明	
251	ガラス製品	ガラス玉	SX78	長 0.40 幅 0.40 厚 0.20	白色半透明	
252	ガラス製品	ガラス玉	SX78	長 0.40 幅 0.40 厚 0.20	白色半透明	
275	ガラス製品	数珠玉	SX131	長 0.45 幅 0.45 厚 0.35	白色	
276	ガラス製品	数珠玉	SX131	長 0.45 幅 0.45 厚 0.30	白色	
277	ガラス製品	数珠玉	SX131	長 0.45 幅 0.45 厚 0.30	白色	
278	ガラス製品	数珠玉	SX131	長 0.45 幅 0.45 厚 0.30	白色	
279	ガラス製品	数珠玉	SX131	長 0.45 幅 0.45 厚 0.30	白色	
281	ガラス製品	ガラス玉	SX150	長 0.55 幅 0.65 厚 0.30	青緑色半透明	
284	ガラス製品	ガラス玉	SX21	長 0.40 幅 0.40 厚 0.20	明黄褐色半透明	
285	ガラス製品	ガラス玉	SX21 人骨首付近	長 0.45 幅 0.45 厚 0.25	明黄褐色半透明	
286	ガラス製品	ガラス玉	SX21 人骨首付近(図あり)	長 0.40 幅 0.40 厚 0.20	明黄褐色半透明	
288	ガラス製品	ガラス玉	SX22	長 0.70 幅 0.70 厚 0.50	白色	
289	ガラス製品	ガラス玉	SX22	長 0.45 幅 0.45 厚 0.30	明緑色半透明	
290	ガラス製品	ガラス玉	SX22	長 0.35 幅 0.35 厚 0.20	白色	
292	ガラス製品	ガラス玉	SX33	長 0.70 幅 0.70 厚 0.60	青白色	
293	ガラス製品	ガラス玉	SX33	長 0.70 幅 0.70 厚 0.60	青白色	
294	ガラス製品	ガラス玉	SX33	長 0.55 幅 0.55 厚 0.50	濃青色半透明	
295	ガラス製品	ガラス玉	SX33	長 0.50 幅 0.50 厚 0.40	青白色	
296	ガラス製品	ガラス玉	SX33	長 0.50 幅 0.50 厚 0.45	明黄褐色半透明	
298	ガラス製品	ガラス玉	SX34	長 0.75 幅 0.75 厚 0.50	白色半透明	
310	ガラス製品	数珠玉	SX61	長 0.50 幅 0.50 厚 0.30	白色	
311	ガラス製品	数珠玉(親玉)	SX63	長 1.05 幅 0.95 厚 1.05	明黄褐色半透明	
312	ガラス製品	数珠玉	SX63	長 0.50 幅 0.50 厚 0.45	黒褐色	
313	ガラス製品	数珠玉	SX63	長 0.35 幅 0.35 厚 0.30	青緑色半透明	
314	ガラス製品	数珠玉	SX67 (1)	長 0.60 幅 0.60 厚 0.45	白色	
315	ガラス製品	数珠玉	SX67 (1)	長 0.50 幅 0.50 厚 0.35	淡青色	
316	ガラス製品	数珠玉	SX67 (2)	長 0.50 幅 0.50 厚 0.35	淡青色	
324	ガラス製品	ガラス玉	SX102	長 0.80 幅 0.80 厚 0.65	白色	
325	ガラス製品	ガラス玉	SX102	長 0.65 幅 0.65 厚 0.60	透明	
326	ガラス製品	ガラス玉	SX102	長 0.50 幅 0.50 厚 0.40	青緑色	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm)	色調	備考
332	ガラス製品	ガラス玉	SX103	長 0.55 幅 0.55 厚 0.40	明黄褐色半透明	
333	ガラス製品	ガラス玉	SX103	長 0.40 幅 0.40 厚 0.25	明黄褐色半透明	
334	ガラス製品	ガラス玉	SX103	長 0.40 幅 0.40 厚 0.25	明黄褐色半透明	
335	ガラス製品	数珠玉	SX103	長 0.55 幅 0.55 厚 0.45	白色	
336	ガラス製品	数珠玉	SX103	長 0.35 幅 0.35 厚 0.25	白色	
347	ガラス製品	数珠玉	SX129	長 0.75 幅 0.75 厚 0.55	白色白濁	
348	ガラス製品	数珠玉	SX129	長 0.65 幅 0.65 厚 0.60	白色半透明 水晶か	
349	ガラス製品	数珠玉	SX129	長 0.65 幅 0.65 厚 0.35	白色半透明 水晶か	
350	ガラス製品	数珠玉	SX129	長 0.60 幅 0.60 厚 0.60	白色半透明	
351	ガラス製品	数珠玉	SX129	長 0.60 幅 0.60 厚 0.45	白色半透明	
352	ガラス製品	数珠玉	SX134	長 0.75 幅 0.75 厚 0.40	白色	
354	ガラス製品	数珠玉	SX137	長 0.65 幅 0.65 厚 0.55	白色半透明	
355	ガラス製品	数珠玉	SX137	長 0.65 幅 0.65 厚 0.55	白色	
356	ガラス製品	数珠玉	SX137	長 0.65 幅 0.65 厚 0.40	茶白色	
357	ガラス製品	数珠玉	SX137	長 0.60 幅 0.60 厚 0.55	白色	
358	ガラス製品	数珠玉	SX137	長 0.60 幅 0.60 厚 0.50	白色	
362	ガラス製品	ガラス玉	SX139	長 1.05 幅 1.05 厚 0.80	黄褐色半透明	
363	ガラス製品	数珠玉	SX146 下層	長 0.70 幅 0.70 厚 0.40	白色	
364	ガラス製品	数珠玉	SX146 下層	長 0.70 幅 0.70 厚 0.40	白色	
365	ガラス製品	数珠玉	SX146 下層	長 0.70 幅 0.70 厚 0.40	白色	
366	ガラス製品	数珠玉	SX146 下層	長 0.70 幅 0.70 厚 0.40	白色	
367	ガラス製品	数珠玉	SX146 下層	長 0.65 幅 0.65 厚 0.40	白色	
375	ガラス製品	数珠玉	SX154	長 0.45 幅 0.45 厚 0.25	白色半透明	
376	ガラス製品	数珠玉	SX154	長 0.45 幅 0.45 厚 0.25	白色	
377	ガラス製品	数珠玉	SX154	長 0.40 幅 0.40 厚 0.25	白色	
378	ガラス製品	数珠玉	SX154	長 0.40 幅 0.40 厚 0.20	白色半透明	
379	ガラス製品	数珠玉	SX154	長 0.40 幅 0.40 厚 0.30	青緑色	
394	木製品	数珠玉	板A	長 0.60 幅 0.60 厚 0.60		
395	木製品	数珠玉	板A	長 0.60 幅 0.65 厚 0.65		
396	木製品	数珠玉	板A	長 0.60 幅 0.65 厚 0.65		

表 7 第 7・8 次調査出土遺物観察表 (石製品)

遺物番号	器種	出土地点	法量 (cm/g)	石材	備考
104	細石刀核	32号雙棺墓	長 3.65 幅 1.70 厚 1.40 重 8.00	黒曜石	
117	石鏃	1号石棺墓	長 2.74 幅 1.73 厚 0.64 重 2.60	黒曜石	
142	石鏃	SK01 2段目1区	長 2.28 幅 1.93 厚 0.46 重 1.20	黒曜石	
143	石鏃	SX160 1区 黒褐色土	長 2.15 幅 1.67 厚 0.41 重 1.10	黒曜石	
244	石鏃	SX06	長 2.07 幅 1.72 厚 0.51 重 1.50	黒曜石	

表 8 第 7・8 次調査出土遺物観察表 (その他の出土遺物)

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm)	備考
179	木製品	櫛	SX161	長 3.10 幅 12.00 厚 1.00	柁目取り
199	革製品	指ぬき	SX170	長 1.85 幅 1.70 厚 1.05	
200	骨製品	ヘラ	SX170	長 12.05 幅 2.05 厚 0.60	クジラの骨か 赤・緑・白の塗料が残存
201	木製品	鉛筆	SX170	長 16.30 幅 0.75~0.80	
215	合成樹脂製品	蓋付瓶	SX179②	器高(蓋込み) 5.70 (瓶) 4.25 底径 4.60	化粧品瓶の瓶か 内面の器壁に白い内容物が残る
398	ガラス製品	薬瓶	調査区北東隅カラン	口径 2.10 器高 15.00 底径(長径) 6.40 (短径) 4.50	「原病院」の文字 壁内に気泡が多い
399	ガラス製品	薬瓶	調査区北東隅カラン	口径 3.30 器高 16.90 底径(長径) 7.20 (短径) 5.00	「清澤眼科醫院」の文字 壁内に気泡が多い

表9 第10次調査出土遺物観察表

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm)		形態・技法の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底径④最大径 ※( )は復元< >は残存				
401	弥生土器	甕	SX01 拡張1層カクラン	①(31.2) ②<5.3>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ、ヨコナデ、刻目、沈線	A:1mm以下の白色粒子・雲母を少量含む B:良好 C:内面 明赤褐2.5YR5/8 外面 赤褐2.5YR4/8	丹塗り	
402	弥生土器	高杯	SX01 拡張1層カクラン	②<9.7>	内面 絞り痕、ナデ 外面 マツ	A:2mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:やや不良 C:内面 灰黄褐10YR6/2 外面 にぶい黄褐10YR7/4		
403	弥生土器	甕棺	SX01 黒色土(2層)	①(74.0) ②<16.5>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ、ヨコナデ	A:3mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:良好 C:内面 にぶい橙7.5YR7/4 外面 橙5YR6/6		
404	弥生土器	甕	SD01 5層(黒色シルト)	①(32.0) ②<6.4>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ、ヨコナデ	A:2mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共 明赤褐5YR5/8		
405	弥生土器	甕	SD01 5層(黒色シルト)	②<5.1> ③(8.0)	内面 ナデ 外面 ナデ、ハケ	A:2mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:良好 C:内外共 橙7.5YR7/6		
406	弥生土器	甕	SD01 5層(黒色シルト)	①(50.0) ②<4.7>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ	A:3mm以下の石英・長石・雲母を多く含む B:やや良好 C:内外共 橙5YR6/6		
407	弥生土器	甕	SD01 5層(黒色シルト)	②<7.0>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ、ヨコナデ	A:3mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:良好 C:内外共 橙5YR6/6		
408	弥生土器	甕	SD01 5層(黒色シルト)	②<5.5>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ	A:2.5mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:良好 C:内外共 橙5YR6/6	404と同一個体か	
409	弥生土器	甕	SD01 5層(黒色シルト)	①(39.6) ②<9.4>	内面 ナデ、ヨコナデか 外面 ナデ、ヨコナデか	A:3mm以下の石英・長石・雲母を多く含む B:やや不良 C:内面 にぶい黄褐10YR7/4 外面 にぶい橙7.5YR7/4		
410	弥生土器	甕	SX01 5層 黒色土	②<6.8>	内面 工具ナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ	A:3.5mm以下の石英・長石・雲母を多く含む B:良好 C:内外共 橙5YR6/6		
411	弥生土器	壺	SX01 ベルト5層	①<9.7> ②10.0	内面 ナデ、指押え 外面 工具ナデ、ナデ	A:3.5mm以下の石英・長石・雲母を多く含む B:良好 C:内外共 にぶい赤褐5YR5/4		
412	弥生土器	壺	SX01 ベルト(5層黒色土)	①(39.6) ②29.3 ③5.6	内面 ナデ、ミガキ、ヨコナデ 外面 ナデ、ミガキ、細いミガキ、線刻文 ヨコナデ	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内面 にぶい橙 7.5YR7/3 外面 赤褐色2.5YR4/8	口縁から外面まで丹塗り	
413	弥生土器	壺	SX01 5層	①(39.0) ②<4.3>	内面 ミガキ 外面 暗文一部残存	A:1mm以下の白色粒子・雲母を少量含む B:やや良好 C:内外共 赤褐2.5YR4/8	内外面丹塗り	
414	弥生土器	壺	SX01 拡張5層 (ベルト5層黒色土)	②<7.2> ③5.2	内面 ナデか、指押え 外面 縦方向のミガキか	A:1.5mm以下の白色粒子・雲母を少量含む B:やや良好 C:内面 浅黄褐10YR8/3 外面 赤褐2.5YR4/8	外面のみ丹塗り	
415	弥生土器	壺	SX01(ベルト4層、拡張 1層カクラン) 試掘トレンチ 埴土 SD01 カクラン	①(35.6) ②<4.0>	内面 工具ナデ、ナデ、ヨコナデ 外面 ハケ、接合時の押さえ痕顯著 ヨコナデ	A:2mm前後の白色砂透明砂多い、0.3mmの丸い灰色砂含む B:良好 C:内外共 明褐7.5YR5/6	口縁内部、端に縞波状文 外朱系	
416	弥生土器	器台脚裾部か	SD01 5層(黒色シルト)	裾部径(29.6) ②<1.6>	内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ、縦方向ナデ、沈線	A:1~2mmの白色砂粒、1~5mmの透明粘土多い、にぶい 黒色砂粒わずかに含む B:良好 C:内面 明黄褐2.5Y7/6 外面 にぶい黄2.5Y6/4	歯口縁部 刺突文 黒斑あり	
417	弥生土器	甕	SX01 5層	①37.5 ②<52.0>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ、ヨコナデ	A:3mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共 にぶい黄褐10YR7/3	418と同一個体か	
418	弥生土器	甕棺	SX01 5層	②<14.3> ③10.5	内面 ナデ 外面 ナデ	A:3mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共 にぶい黄褐10YR7/3	417と同一個体か	
419	弥生土器	甕棺	SX01 5層	①49.6 ②<13.3>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデか、ヨコナデ	A:2.5mm以下の石英・長石・雲母を多く含む B:やや不良 C:内外共 にぶい黄褐10YR7/4		
420	弥生土器	甕	SX01 ベルト7層	②<8.4>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ、ヨコナデ	A:3mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:良好 C:内面 橙5YR6/6 外面 にぶい橙7.5YR7/4		
421	弥生土器	甕	SX01 ベルト7層	②<10.0> ③11.0	内面 ナデ、指押え 外面 ナデ、ハケ、マツ	A:2mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:やや良好 C:内面 橙5YR6/6 外面 橙7.5YR6/6 褐灰 7.5YR4/1		
422	弥生土器	甕	SX01 ベルト7層	①(32.0) ②<25.9>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ナデ、ヨコナデ	A:4mm~5mm大の礫、3mm以下の石英・長石・雲母をやや 多く含む B:良好 C:内面 赤褐5YR4/6 明赤褐5YR5/6 外面 明赤褐5YR5/6		
423	弥生土器	高杯	SX01 ベルト7層	①(26.0) ②<5.5>	マツのため調整不明	A:3mm以下の石英・長石・雲母を多く含む B:やや不良 C:内面 明赤褐2.5YR5/8 外面 にぶい黄褐10YR7/4	内面丹塗り	
424	弥生土器	高杯	SX01 ベルト7層	②<18.9> ③17.0	内面 ハケ、ナデ、絞り痕 外面 縦方向のナデ	A:2mm以下の石英・長石・雲母を多く含む B:不良 C:内外共 橙5YR6/8		
425	弥生土器	短頸壺	SX01 ベルト7層	①14.2 ②14.7~14.8 ③5.4	内面 指押え、ナデ 外面 ナデ、ミガキ	A:2mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内面 にぶい黄褐10YR7/3 外面 明赤褐2.5YR5/8	丹塗り、口縁部のほぼ対称の位 置に穿孔あり	
426	弥生土器	壺	SD01 サプトレンチ 地山上層	②<3.5>	内面 ミガキ、マツ 外面 ミガキ、縦方向に暗文	A:2.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:やや良好 C:内外共 赤褐2.5YR4/8	丹塗り	
427	弥生土器	甕	SX01 小い	①(18.0) ②<2.3>	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 ヨコナデ	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共 橙5YR6/6		
428	土師器	杯	SK01 床直	①10.4 ②3.0~3.4 ③6.0	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 回転ヘラケズリ、ヨコナデ	A:1mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:良好 C:内外共 橙5YR6/6		
429	須恵器	杯	SK01 床直	②<1.0>	内面 ヨコナデ 外面 ナデ、高台貼付、ヨコナデ	A:微細な白色粒子を少量含む B:良好 C:内面 灰N51 外面 暗灰N31		
430	弥生土器	器種不明	カクラン②	②<9.1>	内面 ハケ、ナデ 外面 ハケ、マツ	A:1mm以下の白色粒子・雲母を少量含む B:良好 C:内面 にぶい黄褐10YR6/4 明赤褐5YR5/6 外面 にぶい黄褐10YR7/4 明赤褐5YR5/6	穿孔あり	
431	弥生土器	器種不明	カクラン③	②<14.0>	内面 ハケ、ナデ 外面 ハケ、マツ	A:4mm大の礫、2mm以下の石英・長石・雲母をやや多く含む B:良好 C:内面 にぶい橙7.5YR6/4 外面 橙7.5YR7/6	穿孔あり	
432	弥生土器	器台脚裾部か	表探	裾部径(29.6) ②<1.6>	内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ後ナデか、沈線	A:微細な白色砂、1~3mmの透明砂粒多い B:良好 C:内面 明赤褐2.5Y7/6 外面 にぶい黄 2.5Y6/4	刺突文	
433	須恵器	蓋	検出時	摘み径1.9 ②<1.2>	内面 ヨコナデ、ナデ 外面 ヨコナデ	A:微細な白色粒子・雲母をわずかに含む B:良好 C:内外共 黄灰2.5Y5/1		
434	須恵器	蓋	検出時	②<1.2>	内面 ヨコナデ 外面 ヨコナデ	A:微細な白色粒子・雲母をわずかに含む B:良好 C:黄灰2.5Y5/1	433と同一個体か	
435	須恵器	杯	カクラン③	②<1.3> ③(7.4)	内面 ナデ、ヨコナデ 外面 回転ヘラケズリ、高台貼付、ヨコナデ	A:微細な白色粒子・雲母をわずかに含む B:良好 C:内外共 灰3Y4/1		
436	弥生土器	蓋	SK01(南側)カクラン	①5.5 ②<3.3>	内面 ナデ 外面 ヨコナデか、ナデか	A:1.5mm以下の石英・長石・雲母を少量含む B:やや不良 C:内面 浅黄褐10YR8/3 外面 赤褐2.5YR4/6	蓋蓋、丹塗り	

## Ⅶ. 瑞穂遺跡第7・8次調査出土人骨について

### 1. 瑞穂遺跡第7・8次調査出土の弥生時代人骨の埋葬状態と形質的特徴

梶佐古幸謙<sup>1)</sup>、富田啓貴<sup>2)</sup>、米元 史織<sup>3・4)</sup>、舟橋 京子<sup>4・5)</sup>

- 1) 九州大学地球社会統合科学府（現・福岡県教育委員会）
- 2) 九州大学地球社会統合科学府（現・北海道庁教育委員会）
- 3) 九州大学総合研究博物館
- 4) 九州大学アジア埋蔵文化財研究センター
- 5) 九州大学大学院比較社会文化研究院

#### はじめに

福岡県大野城市瑞穂遺跡の第7・8次調査において弥生時代に所属する人骨が出土し、調査を担当した大野城市教育委員会より九州大学比較社会文化研究院に人骨調査の依頼があった。そのため、九州大学比較社会文化研究院基層構造講座関連の教職員及び大学院生が現地に赴き、人骨の調査・取り上げを行った。人骨は取り上げ後、九州大学アジア埋蔵文化財研究センターへと搬送され、本センターにおいて整理・分析を行った。以下に結果を報告する。

分析にあたって、歯牙の咬耗度は柘原（1957）を用い、性判定には、頭蓋・骨盤について Buikstra and Ubelaker（1994）の方法を用いた。年齢の表記に関しては、九州大学医学部第二解剖学教室編集の『日本民族・文化の生成2』（九州大学医学部第二解剖学教室編、1988）記載の区分に従い、乳児0-1歳、幼児1-6歳、小児6-12歳、若年12-20歳、成年20-40歳、熟年40-60歳、老年60歳以上、成人20歳以上（詳細は不明）とする。計測はMartin-Saller（1957）、馬場（1991）に従った。

なお、人骨資料は現在、九州大学比較社会文化研究院基層構造講座の古人骨・考古資料収蔵室に保管されている。

#### （1）人骨の出土状態（表1）

##### 【K4号人骨】

甕棺内部から人骨がまとまって出土している。下甕南側から頭蓋片が出土している。頭頂骨・側頭骨は前頭部を南西、後頭部を北東にした状態で、その南西部に前頭部の頭蓋片が出土している。頭頂骨の南側から、右上顎が口蓋を上にし、顔面側を南西方向に向け出土している。この北側からは左頬骨が出土している。下顎は上顎の南からオトガイを西に向け出土し、その南からは右頬骨が出土している。また、左上腕は右上顎の西側より、遠位を北東に向けた状態で出土し、右上腕は頭蓋骨の下位から近位を南に遠位を北に向け出土している。その西側より右橈骨・尺骨が出土しているが、関節状態にはない。右肩甲骨が上腕の南側、頭蓋片に近接して出土している。右脛骨が右上腕骨の東側より、右上腕骨に一部重なりながら、遠位を南、近位を北に向け出土している。

以上の出土状況から、本個体は頭位を南にし、上肢は肘関節を強屈した状態で埋葬されていたと考えられる。頭蓋は軟部組織腐朽後前方に転落し、下顎も若干動き、その後棺内に土砂が流入した際、頬骨・上顎骨が流されたものと考えられる。

#### 【K 5号人骨】

合口甕棺の下甕から頭蓋片、上甕から下肢骨が出土している。頭蓋骨が大きく破損しており、甕棺内に土砂が流入していることから、土砂流入の際に壊れたものと考えられる。また、上甕からは左右の大腿骨が、どちらも近位を北東に、遠位を南西に向けた状態で出土している。保存状態が悪く、土砂が流入してはいるものの、頭蓋と大腿骨の位置関係は解剖学的位置関係を概ね保っていると言える。

以上の出土状況から、本個体は頭位が北東であったと考えられる。

#### 【K 8号人骨】

合口甕棺から人骨が出土している。上甕中央よりやや東側から下顎と頭蓋骨の細片が出土し、下顎は咬合面を下にしている。その他にも頭蓋片が棺内に散乱した状態で出土している。合口部から下甕にかけて下肢骨が出土している。合口部付近より大腿骨が出土し、その西側より脛骨が出土したが、いずれも関節状態にはない。

以上の出土状況から、本個体の頭位は東であったと考えられる。人骨の残存状況がよくないため、詳細な埋葬姿勢は不明である。

#### 【K 10号人骨】

合口甕棺から人骨が出土している。下甕中央から頭蓋片が散乱した状態で出土している。その西側の最も甕底部に近い位置より下顎骨が出土している。また、上甕中央部からは下肢骨が出土している。右大腿骨が遠位を東南、近位を北西に向けた状態で出土している。その下位より左大腿骨、右脛骨が出土している。

以上の出土状況から、本個体は頭位を西にし、下肢を膝関節で強屈した姿勢であったと考えられる。

#### 【K 16号人骨】

合口甕棺の上甕から、頭蓋および上肢が出土している。頭蓋骨は上甕口縁部付近から、顔面を東側に、頭頂部を下にした状態で出土している。頭蓋南西付近から、オトガイを北東に、咬合面を上にした状態で下顎骨が出土している。右上腕骨は頭蓋南側から、近位を西に、遠位を東に向けた状態で出土している。その北側から、右橈骨・右尺骨が近位を東、遠位を西に向け、近位が右上腕の遠位部と接するように出土している。左上腕骨は頭蓋の北西から、近位を南西、遠位を北東に向けた状態で出土している。左右上腕骨はどちらもやや内転した状態である。このことから、解剖学的に正位の状態から、肘を屈曲させた状態で埋葬されたと推定される。左右上腕骨がやや内転しているのはこのためだと推定される。以上の出土状況、特に、左右上腕骨と下顎骨の出土位置から、頭蓋骨は大きく動いているものの、仰臥位であったと推定される。

合口甕棺の下甕からは下肢骨が出土している。右大腿骨は下甕中央部より遠位を北西、近位を南東に向けて出土しており、左大腿骨は右大腿骨遠位部に接するように、近位を南に、遠位を北に向けて出土している。右脛骨は右大腿骨東側のやや離れた位置から近位を北に、遠位を南に向けて出土しており、右距骨は右大腿骨の近位付近から出土する。左脛骨は近位を左大腿骨の遠位に接するように、遠位は南東を向いた状態で出土している。下肢はいずれも関節状態にはない。

以上の出土状況から、本個体は頭位を西にし、上肢は回内して強屈し、下肢は股・膝両関節を屈曲させた立て膝の状態で埋葬され、軟部組織の腐朽に伴い、両脚とも北側に倒れたものと推定される。右の膝関節がやや離れているのは、左側の下肢の上に乗った右脛骨が背面を上に向ける状態に転がったためであると考えられる。

### 【K 17号人骨】

合口甕棺より人骨が出土している。下甕底部付近より右大腿骨が近位を北、遠位を南に向けた状態で出土し、その西側からは上腕骨が出土している。さらにその西側から左脛骨が近位を南、遠位を北に向けた状態で出土している。いずれの部位も関節状態にはない。また、脛骨北側から頭蓋片が出土している。下甕東側の合わせ部に近い場所からも頭蓋片が出土している。この東側に位置する頭蓋骨片と左脛骨片の間から細片化した骨片や人骨の痕跡が出土している。

以上の出土状況から、本個体の頭位は東であったと考えられる。斜位に挿入された甕棺であるため、上甕が下甕よりも高い標高に位置する。そのため、軟部組織腐朽により、上甕から下甕の底部に人骨全体が崩れ落ちたものと考えられる。

### 【K 19号人骨】

合口甕棺の下甕から頭蓋骨片、上甕から下肢骨片がまとまって出土している。上甕底部付近より前頭骨が内面を上に向け出土し、その上から下顎骨が後面を上、オトガイを東に向けた状態で出土している。前頭骨の南側からは、後頭骨が内面を上にして出土している。

上甕中央部より左大腿骨が近位を北西、前面を上にして出土している。そのすぐ北側より、右大腿骨が遠位を北西、前面を横に向けた状態で出土している。左大腿骨の南西から脛骨片が出土している。人骨の保存状態は悪いが、甕棺の埋置角度はほぼ水平であるため、埋葬時の位置を保っていると推定される。

以上の出土状況から、本個体の頭位は南西であったと考えられる。

### 【K 21号人骨】

合口甕棺の下甕から頭蓋骨片のみが出土している。崩落した甕棺の破片と頭蓋骨片のレベルが等しく、その下位から崩落土と思われる地山土が堆積している。したがって、本来の頭蓋の位置は下甕の底部近くであったが、甕棺の崩落によって甕片および流入土とともに胴部付近に移動した可能性が推定される。

以上の出土状況から、本個体の頭位は東と推定されるが、人骨の保存状態が良好でないため詳細な埋葬姿勢は不明である。

### 【K 22号人骨】

合口甕棺の下甕の底部から胴部付近にかけて骨粉と小骨片が出土している。保存状態が良好でなく、詳細な埋葬姿勢は不明である。

### 【K 26号人骨】

合口甕棺の下甕から頭蓋骨片・上肢骨片が、上甕から下肢骨が出土している。頭蓋骨片は下甕の底部付近から出土しており、頭蓋の西より頸椎片が出土している。下甕口縁部付近北寄りから左右不明上腕骨片が出土している。上甕胴部付近からは、左右大腿骨が近位を南に、遠位を北にして出土しており、右大腿骨の東側より右脛骨が右大腿骨と長軸を揃えて出土している。右大腿骨の下位から左脛骨と推定される長管骨が出土している。下肢骨は関節状態に関しては不明なもの、それぞれの位置関係は大きく乱れていないことから、本来は両膝を屈曲していたものが北側へ倒れた状態と考えられる。

以上の出土状況から、本個体の頭位は西であり、下肢を強屈した立て膝の状態で見送られていたと推定される。

### 【K 27 号人骨】

合口甕棺の下甕から人骨がまとまった状態で出土している。口縁部付近から不明長管骨が長軸を南北にした状態で出土している。下甕の底部付近から左右不明上腕骨・部位不明骨片が出土している。これらの人骨とともに下甕口縁部破片が出土しており、この破片の直下およびその付近から頭蓋骨片や歯牙片が出土している。下甕胴部付近からは下肢骨が出土している。北側から右脛骨が近位を北向きに遠位を南向きにして出土しており、右脛骨下位からは右大腿骨が後面を北西側に向けて長軸を南北にした状態で出土している。右大腿骨と右脛骨との関節状態は不明である。下甕の底部付近から左右不明上腕骨・部位不明骨片・下甕口縁部破片が出土している。

以上の人骨出土状況に加え、右脛骨直下から上甕口縁部片が出土し、右大腿骨直下からも甕棺片が出土しており、甕の崩落に伴い人骨が攪乱を受けていることが推定される。

以上の出土状況から、本個体の埋葬姿勢は不明である。

### 【K 28 号人骨】

三連甕棺の下甕底部付近から頭蓋骨が、中甕から下肢骨が出土している。頭蓋骨は右側頭骨が外側を上に向け、鱗状縫合側を西に向けた状態で出土している。側頭骨北西側からは左右不明頭頂骨が外側を上にした状態で出土しており、その西側からは後頭骨が出土している。後頭骨の西側からは下顎骨がオトガイを西、咬合面を上に向けた状態で出土しており、下顎の歯牙の上位から頭蓋骨片が出土している。下顎の南側からは上顎の歯牙が歯根を北西に向けた状態で出土している。下甕口縁部付近から右大腿骨が後面を上に向け、近位を北西に向けた状態で出土しており、その北西側からは左大腿骨が長軸を南西から北東に揃え、近位を北東に向けた状態で出土しており、左右不明脛骨が長軸をほぼ南西から北東にした状態で出土している。下肢骨は関節状態を保っていないことから、軟部組織の腐朽後に土砂の流入による攪乱を受けたと考えられる。

以上のことから、本個体は三連甕棺の下甕側に、頭位を南東に向けた状態で埋葬されたと推定される。

### 【K 29 号人骨】

合口甕棺から人骨が出土している。下甕の4分の3（底部側）は近世の墓壇に切られている。下甕口縁部付近は残存しており、その上位から右脛骨が近位を北東、遠位を南西に向けて出土している。上甕の口縁部付近からは大腿骨片、左脛骨片、部位不明四肢骨が出土している。

以上の人骨出土状況から、近世の墓壇に切られており残存状態が悪く、本個体の埋葬姿勢は不明である。

### 【K 33 号人骨】

単棺の甕棺口縁側（南東）から頭蓋骨が、頭蓋骨の北西側から右上肢骨および右下肢骨が、頭蓋骨の南西側から左下肢骨および左上肢骨が出土している。頭蓋骨は、後頭骨が南東を向き、顔面が北西を向いている。右側頭部を上に向けた状態と推定される。また、頭蓋骨の西側より、椎骨の痕跡が北西に伸びるように出土している。上肢は、右橈骨・尺骨が椎骨の北側より出土しており近位が北東、遠位が南西を向いている。左前腕はその南西側より痕跡が出土する。下肢は、右橈骨・尺骨北側より右大腿骨が前面内側を上に向け、近位が西、遠位が東を向いて出土し、右寛骨下位に近位端が位置する。右脛骨は右大腿骨北側より出土し、近位が東、遠位が西を向き、前縁が斜め上を向いている。右腓骨は右脛骨の下位に位置し、近位が東、遠位が西を向いて出土している。左大腿骨は椎骨南側から、

後面が上を向き近位が北西、遠位が南東を向いて出土している。左寛骨は左大腿骨近位端の北東に位置する。左脛骨は左大腿骨南側より出土し、近位が南東、遠位が北西を向いている。

以上の出土状況、特に、左右とも大腿骨は寛骨とほぼ関節状態を保っていることと、大腿骨と脛骨の位置より、膝関節は遺存しないものの、本個体の下肢はほぼ埋葬時の状態であると推定される。また、前腕、大腿骨、脛骨の位置より、本個体は肘関節を曲げ、下肢を屈曲した埋葬姿勢であったと推定される。

#### 【K 35 号人骨】

本人骨は合口甕棺の下甕から出土している。頭位は西で、頭部から甕棺に挿入されており、下肢の姿勢は不明である。頭蓋骨は下甕中央部から、顔面が上を向き、頭頂部が西を向いた状態で出土している。頭蓋骨の南東側より右肩甲骨・右上腕骨・右尺骨が出土している。上腕骨は近位を南西に向け、尺骨は遠位を南西に向けている。右肩甲骨北西側の肋骨の下位より下顎が出土している。左前腕骨と上腕骨の可能性のある骨が、頭蓋骨の北西に接して出土している。頭蓋骨と右上肢骨の間には肋骨片などの小片が散乱している。頭蓋骨の南西側にも肋骨片などが出土している。また、合わせ口部近くの下甕から、左大腿骨が遠位を北西、近位を南東に向けた状態で出土している。その下位より右下肢が出土している。上甕口縁付近より下肢骨の痕跡が出土している。

以上の出土状況より、本個体は西を頭位にして頭部から甕棺に挿入されており、右上肢の位置関係から、肘関節を屈曲した状態で埋葬されたものと推定される。頭蓋は、合わせ口方向にやや転がった状態で出土しているため、本来は下甕底部付近にあったものと推定される。下肢の詳細な埋葬状態については不明である。

#### 【K 41 号人骨】

本人骨は合口甕棺の下甕から出土している。下甕合わせ口部近くより頭蓋骨片などが出土している。左大腿骨が下甕底部付近より遠位を北、近位を南に向けた状態で出土している。左大腿骨近位付近から左寛骨が近接して出土している。また、左大腿骨の東側から、右大腿骨が遠位を北西に向け、近位を南東に向けた状態で出土している。遠位は左大腿骨遠位側の下位に位置する。右大腿骨近位に接するように右寛骨が出土している。右大腿骨の東側より右脛骨が近位を北、遠位を南に向けて出土し、その上に右腓骨片が乗った状態で出土している。上肢の詳細な埋葬姿勢は、人骨の遺存状態が悪いため不明である。下肢は立て膝が北側へ倒れたか、あるいは屈した膝を北側へ倒した姿勢であったと考えられる。

以上の出土状況より、本個体は西を頭位にして脚部から甕棺に挿入されており、膝関節を屈曲した仰臥屈葬であったと推定される。

#### 【K 46 号人骨】

合口甕棺より人骨が出土している。下甕底部側より頭蓋骨が出土しているが、遺存状態が悪く、向きなどの詳細は不明である。頭蓋骨の南側より歯牙3点が出土しており、その南側より大腿骨骨体部および歯牙2点が出土している。大腿骨骨体部は後面が頭蓋側を向いており、その下位から長管骨らしき痕跡が出土している。頭蓋骨の西側より部位不明骨の痕跡が出土しており、その西側より肋骨片が出土している。これらの人骨は全て下甕片の上位から出土している。甕棺は西側から東側へ挿入されており、西側挿入部の方がやや高いことと、大腿骨が下甕片の上位にのっていることから、本来上甕もしくは下甕口縁部付近に下肢が位置しており、土砂流入により下甕の頭蓋骨近くまで動かされた

と考えられる。

以上の出土状況より、本個体は頭位を東にし、膝関節を屈曲した埋葬姿勢であったと考えられる。

#### 【5号石蓋土坑墓】

長方形の墓坑の東端より30cm南側から頭蓋片が出土している。以上の出土状況から、頭位は東であると推定されるが、人骨の保存状態が良好でないため詳細な埋葬姿勢は不明である。

#### 【7号石蓋土坑墓】

方形の墓坑内の北側側壁付近から頭蓋骨のみが出土している。頭蓋冠は、顔面部を西に向けた状態で出土している。頭蓋冠の周辺から左側頭骨・左頬骨・歯牙が出土している。四肢骨が遺存していないため詳細な埋葬姿勢は不明であるが、本個体は頭蓋の位置から頭位を東側に取った埋葬状態であったと推定される。

## (2) 形質的特徴

出土人骨の性別や年齢については表1にまとめた。計測可能な個体及び項目が極めて少なく、顔面部について検討することができなかった。そのため、主成分分析などの比較分析は行わず、計測可能であった個体について詳述する(表2, 3)。

#### 【K 16号人骨】

[形質的特徴：表2]

本個体で計測可能だった部位は以下の通りである。

頭蓋最大長は194mm、頭蓋最大幅142mmである。頭蓋は、北部九州の弥生時代人男性の集団(頭蓋最大長：183.7mm(N=118)、頭蓋最大幅：142.4mm(N=117))と比べて頭蓋最大長がやや大きい。

大腿骨は、骨体中央部矢状径が右31.07mm・左29.94mm、骨体中央部横径が右26.66mm・左27.22mm、骨体中央断面示数(左大腿骨)は109.99であり、やや柱状性が高く縄文時代集団に近い値を示す。骨体中央周は右95.00mm・左92.00mmである。大腿骨は、北部九州の弥生時代男性の集団(骨体中央部矢状径(左)：29.7mm(N=162)、骨体中央部横径(左)：28mm(N=166)、骨体中央周(左)：90.8mm(N=161))と比べて骨体中央周がやや小さい。

右脛骨は、栄養孔位横径が26.86mm、栄養孔位矢状径は34.36mmである。脛示数は78.17で扁平性は低く広脛と言える。右脛骨は、北部九州の弥生時代男性の集団(栄養孔位横径(左)：25.3mm(N=153))と比べてやや小さい。右脛骨の中央横径は25.04mm、中央最大矢状径は26.85mmであり、中央横断面示数は93.26である。横径が広く、扁平性は低いといえる。

#### 【K 28号人骨】

[形質的特徴：表3]

計測可能部位は大腿骨のみであった。大腿骨は、骨体中央部矢状径が右25.54mm・左25.56mm、骨体中央部横径が右27.13mm・左27.67mm、骨体中央断面示数(左大腿骨)は92.37であり、粗線の発達認められるが、柱状性は低く、幅広の扁平な形と言える。骨体中央周が右83mm・左88mmである。大腿骨は、北部九州の弥生時代人女性の集団(骨体中央部矢状径(左)：25.7mm(N=112)、骨体中央部横径(左)：26.3mm(N=112)、骨体中央周(左)：81.5mm(N=111))であり、中央周と比べると、太く頑丈な傾向を示す。

表1 出土人骨と性別・年齢・埋葬姿勢一覧

墓番号	性別	年齢	埋葬姿勢	特記事項
K4号	男性	熟年	仰臥屈葬	
K5号	男性	不明	不明	
K8号	不明	成年	不明	
K10号	女性	成年	仰臥屈葬	
K16号	男性	熟年	仰臥屈葬	赤色顔料付着。下顎右側第一小臼歯歯槽部に腫瘍。大腿骨近位骨体内側の一部に円形の隆起がみられる。
K17号	女性	成年	不明	
K19号	男性	成年	不明	
K21号	不明	不明	不明	
K22号	不明	不明	不明	
K26号	男性	成人	仰臥屈葬	
K27号	不明	成年	不明	
K28号	女性	熟年	不明	下顎隆起あり。
K29号	不明	成人	不明	
K33号	男性	熟年	仰臥屈葬	赤色顔料付着。腓骨遠位内側側に肥厚あり。
K35号	男性	熟年	仰臥屈葬	
K41号	女性	成人	仰臥屈葬	
K46号	不明	成年	仰臥屈葬	
石蓋土壙5号	女性	熟年	不明	
石蓋土壙7号	女性	熟年	不明	赤色顔料付着。

#### 【K 33号人骨】

[形質的特徴：表2]

計測可能部位は大腿骨、脛骨、右尺骨のみであった。

右尺骨は、尺骨矢状径が14.10mm、尺骨横径が16.33mmである。尺骨矢状径に関しては、弥生時代人の男性集団（尺骨矢状径（左）：13.2mm（N=100））より大きい値を示し、尺骨横径に関しては、弥生時代人の男性集団（尺骨横径（左）：17.6mm（N=100））より低い値を示す。矢状径が極めて大きい値を示すため、骨体断面示数は86.34で北部九州弥生時代人の男性集団の平均（75.4）よりほるかに大きい。

大腿骨は、骨体中央部矢状径が右32.41mm、骨体中央部横径が右26.58mmで骨体中央断面示数は121.93、骨体中央周が98mm、骨体上横径が右30.77mm・左32.81mm、骨体上矢状径が右31.96mm・左29.8mmであり、やや柱状性が高く縄文時代人に近い値を示す。大腿骨は、弥生時代人の男性集団（骨体中央部矢状径（左）：29.7mm（N=162）、骨体中央部横径（左）：28mm（N=166）、骨体中央周（左）：90.8mm（N=161）、骨体上横径（左）：32.6mm（N=115）、骨体上矢状径（左）：26.2mm（N=115））と比べて、骨体中央部横径、骨体上横径がやや低い値を示す。

脛骨は、栄養孔位最大径が右31.53mm・左33.59mm、栄養孔横位径が右24.82mm・左23.89mm、栄養孔周囲が92mmである。脛示数は78.71であり、広脛と言える。脛骨は、弥生時代人の男性集団（栄養孔位最大径（左）：36.5（N=153）、栄養孔位横径（左）：25.3mm（N=153）、栄養孔位周（左）：96.9mm（N=151））と比べて栄養孔位最大径、栄養孔位横径、栄養孔位周の全ての値において低い値を示す。

#### 【K 35号人骨】

[形質的特徴]

計測可能部位は頭蓋のみであった。頭蓋は頭蓋最大長が183mmである。頭蓋は、弥生時代人の男

性集団（頭蓋最大長：183.7mm（N=118））と同程度の値を示す。

### 【K 41 号人骨】

〔形質的特徴：表 3〕

計測可能部位は大腿骨と右脛骨のみであった。

大腿骨は、骨体中央部矢状径が右 25.53mm・左 25.64mm、骨体中央部横径が右 25.65mm・左 27.22mm、骨体中央周が右 81.00mm・左 82.00mm である。大腿骨は、弥生時代人女性の集団（骨体中央部矢状径（左）：25.7mm（N=112）、骨体中央部横径（左）：26.3mm（N=112）、骨体中央周（左）81.5mm（N=111））と比べると平均的な値を示す。左右大腿骨の骨体中央断面示数は 94.20 で、縄文時代人の女性集団の平均が 110.6、土井ヶ浜の女性集団が 102.8 であることから、柱状性は低いと言える。

右脛骨は、栄養孔位最大径が 30.31mm、栄養孔位横径は 20.87mm である。弥生時代人女性の集団（栄養孔位最大径（左）：30.8mm（N=97）、栄養孔位横径（左）：22.3mm（N=98））と比べると平均的な値を示す。脛示数は 68.86 で中脛であり、弥生時代人の平均よりも扁平性が強いと言える。

### おわりに

人骨の出土状況および人骨そのものから得られた瑞穂遺跡第 7・8 次調査出土弥生集団の埋葬習俗・形質的特徴（表 1）は以下の通りである。

- ・甕棺および石蓋土坑墓に人骨が埋葬されており、埋葬姿勢は、甕棺出土人骨に関しては、肘関節を折り曲げ、膝関節を屈曲させたものと考えられる。石蓋土坑墓に関しては、詳細な埋葬姿勢は不明である。
- ・頭蓋が計測可能であった個体は K 16 号人骨と K 35 号人骨のみであった。K 16 号人骨は弥生時代人男性の集団と比較して、頭蓋最大長が大きく、K 35 号人骨は弥生時代人男性の集団平均と同程度の大きさである。
- ・男性の四肢骨（K 16 号人骨）は、弥生時代人男性の集団と比較して、大腿骨骨体中央周がやや大きく、脛骨は栄養孔位横径がやや小さい。
- ・女性の四肢骨（K 28、K 41 号人骨）の周径は、弥生時代人女性の集団と比較して高い値を示し頑丈な傾向をもつ。
- ・計測値および四肢骨の筋付着部の発達程度から、男女ともに四肢骨は頑丈な傾向を有する。

### 謝辞

人骨の取り上げおよび本報告を行うにあたり、大野城市教育委員会諸氏に多くのご配慮を賜りました。深謝いたします。また、本出土人骨のクリーニング作業に従事した九州大学比較社会文化府（当時）、岩橋由季、早川和賀子、中井歩、福永将大、藤井恵美、地球社会統合科学府（当時）の梶原慎司、Carlos Verrecchia、犬童淳一郎、Florencia Botta に感謝いたします。

### 参考文献

- 馬場悠男（1991）人体計測法 II 人骨計測法。人類学講座別巻 1，雄山閣出版。
- Buikstra, J. E, and Ubelaker, D. H (1994) Standards for Data Collection From Human Skeletal Remains. Fayetteville, Arkansas: Arkansas Archaeological Survey Report Number 44.

岩橋由季・米元史織・高椋浩史・石田智子・李ハヤン・谷澤重里・早川和賀子・舟橋京子・田中良之 (2010) 横隈  
 狐塚遺跡7における出土人骨の分析. 横隈狐塚遺跡群7, 小都市文化財調査報告書第250集:202-243, 小都市教  
 育委員会.

九州大学医学部解剖学第二講座編 (1988) 日本民族・文化の生成2. 九州大学医学部解剖学第二講座所蔵古人骨資料  
 集成. 六興出版.

坂田邦洋 (1996) 比較人類学. 青山社.

Martin, R. and Saller, K. (1957) Lehrbuch der anthropologie. Fischer, Stuttgart.

中橋孝博・永井昌文 (1989) 弥生人の形質、男女差、寿命. 弥生文化の研究1 弥生人とその環境, 雄山閣:23-51.

栃原博 (1957) 日本人歯牙の咬耗に関する研究. 熊本医学会雑誌, 31.

Ubelaker, D. H. (1989) Human Skeletal Remains: Excavation, Analysis, Interpretation (2nd Edition).  
 Washington, D. C.: Taraxacum.

表2 瑞穂遺跡出土人骨の計測値 (男性)

	K16号 (弥生)		K33号		横隈狐塚 (弥生)		横隈狐塚Ⅱ <sup>(1)</sup> (弥生)		北部九州 <sup>(2)</sup> (弥生)		山口 <sup>(2)</sup> (弥生)		隈西小田 <sup>(3)</sup> (弥生)		大友 <sup>(4)</sup> (弥生)		津雲 <sup>(5)</sup> (縄文)		九州 <sup>(6)</sup> (現代)			
	L	R	L	R	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M		
尺骨																						
1 最大長					1	244.00	12	253.2	26	258.5	10	257.6	9	249.6	19	249.1	62	236.2				
2 機能長					5	221.20	15	224.7	21	226.2	14	228.8	13	222.9	25	219.7	64	209.2				
3 最小周					4	40.3	13	36.23	63	37.4	35	38.2	26	38.3	22	37.2	34	37.7	65	35.8		
11 尺骨矢状径			14.1	8	13.4	17	13.12	100	13.2	49	13.2	43	13.5	26	15	50	14.3	63	12.8			
12 尺骨横径			16.3	8	18.0	18	17.22	100	17.6	49	17.2	44	17.5	26	17.2	50	16.3	64	16.5			
3/2 長厚示数					1	18.6	5	16.17	15	16.8	21	17.2	14	16.5	13	16.8	25	17.4	63	17		
11/12 骨体断面示数					86.3	8	74.8	17	76.46	100	75.4	49	77.2	43	75.9	26	88	50	88.5	63	74.9	
大腿骨																						
1 最大長					2	415.0	8	431.38	60	430.9	37	434.4	48	437.8	15	420.1	19	414.1	59	406.5		
2 自然位長					2	412.0	6	427.00	18	427.7	26	432.8	6	427.5	17	413.9	19	411	59	403.2		
6 骨体中央部矢状径	29.9	31.1			32.4	7	31.3	23	29.96	162	29.7	72	29.1	92	30.8	41	28.6	47	29	59	26.5	
7 骨体中央部横径	27.2	26.7			26.6	7	28.4	23	27.52	166	28	72	27.2	92	28.1	42	26.4	47	26	59	25.6	
8 骨体中央周	92.0	95.0			98.0	6	94.7	23	90.44	161	90.8	72	88.9	92	92.6	41	87	47	87.4	59	82.4	
9 骨体上横径					32.8	8	32.3	24	31.75	115	32.6	74	32.7	78	32.7	38	31.6	43	30.7	59	29.4	
10 骨体上矢状径					29.8	7	28.1	24	26.29	115	26.2	74	26	78	26.8	38	25.2	43	25.5	59	24.3	
8/2 長厚示数					302.4	2	22.5	6	21.97	18	21.4	26	20.5	6	22.5	16	21.4	19	21.2	59	20.4	
6/7 骨体中央断面示数	110.0	116.5			121.9	7	110.2	23	109.22	162	106.4	72	107.6	92	110.1	41	108.6	47	111.8	58	103.8	
10/9 上骨体断面示数					90.8	103.9	7	87.3	24	82.96	115	80.5	74	80	78	82.2	39	80.1	43	83.1	58	82.8
脛骨																						
1 全長					1	350.0	6	336.83	27	345.6	19	350.5	17	349	10	345.3	20	340	61	320.3		
1a 最大長					1	367.0	9	345.44	52	350.5	21	356.9	28	355.3	11	354.8	22	343.6	60	326.9		
8 中央最大径		26.3			6	31.2	25	31.44	74	32	36	30.6	38	32.9	43	31	46	32.3	61	27.8		
8a 栄養孔位最大径			33.6	31.5	7	36.0	24	35.83	153	36.5	60	35.7	79	37.3	35	34.5	38	35.2	60	30.6		
9 中央横径		25.0			6	23.1	25	22.36	72	22.9	36	22.3	37	23.4	43	21.4	46	20.4	61	21.1		
9a 栄養孔位横径		26.9	23.9	24.8	7	26.0	24	24.33	153	25.3	59	25.1	80	25.5	36	23.3	38	22.2	61	23.7		
10 骨体周					6	83.8	25	85.04	74	86.5	36	83.6	35	88.2	41	83.4	45	84.5	62	78.4		
10a 栄養孔位周					7	97.3	24	95.04	151	96.9	58	95.5	78	97.9	34	92.6	38	92.8	61	88.9		
10b 最小周					5	79.2	27	76.41	122	78.4	63	75.4	67	78.9	38	75.6	41	76.7	60	71.3		
9/8 中央断面示数		95.4			6	74.3	25	71.37	74	72.2	36	73	37	71.5	43	69.1	46	63.3	61	76.1		
9a/8a 栄養孔断面示数		78.2	71.1	78.7	7	72.7	24	68.00	152	69.5	59	70.5	79	68.5	35	67.7	38	63	60	77.5		
10b/1 長厚示数					1	23.1	6	23.03	26	22.7	19	21.5	16	22.7	10	21.9	20	22.9	60	22.4		

1)松下(1985) 2)中橋・永井(1989) 3)中橋(1993) 4)松下(1981) 5)清野・平井(1928) 6)阿部(1955)・鏑鍋(1955)・専頭(1957)・溝口(1957)

表3 瑞穂遺跡出土人骨の計測値 (女性)

	K28号		K41号 (弥生)		横隈狐塚 (弥生)		横隈狐塚Ⅱ <sup>(1)</sup> (弥生)		北部九州 <sup>(2)</sup> (弥生)		山口 <sup>(2)</sup> (弥生)		隈西小田 <sup>(3)</sup> (弥生)		大友 <sup>(4)</sup> (弥生)		津雲 <sup>(5)</sup> (縄文)		九州 <sup>(6)</sup> (現代)		
	L	R	L	R	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	
大腿骨																					
1 最大長					4	408.3	2	388.0	34	405.5	30	403.9	17	413.4	5	386.8	22	388.2	13	380.1	
2 自然位長					3	410.3			11	403.0	26	399.5	5	403.6	4	378.3	22	381.7	13	375.9	
6 骨体中央部矢状径	25.6	25.5	25.6	25.5	6	26.3	20	26.0	112	25.7	50	25.5	44	25.9	30	25.5	45	25.2	13	23.6	
7 骨体中央部横径	27.7	27.1	27.2	25.7	6	26.2	20	25.1	112	26.3	50	26.2	44	26.6	30	25.2	45	24.2	13	23.2	
8 骨体中央周	88.0	83.0	82.0	81.0	6	81.3	20	80.0	111	81.5	50	80.9	43	82.2	29	80.4	45	78	13	74.2	
9 骨体上横径					6	29.8	20	29.4	86	30.5	50	31	38	31.2	30	29.7	42	28.4	13	27.5	
10 骨体上矢状径					6	23.2	20	22.5	86	23.2	50	23	38	23.2	30	22.7	42	22.2	13	21.3	
8/2 長厚示数					2	20.6	20	11	20.8	26	20.2	5	20.7	4	20.3	21	20.3	13	19.8		
6/7 骨体中央断面示数			106.2	110.6	6	107.4	20	103.6	112	98.3	50	97.5	44	97.7	31	102.1	45	104.5	13	102	
10/9 上骨体断面示数					6	71.1	20	76.6	86	76.4	50	74.5	10	74.9	30	76.5	42	78.2	13	77.1	
脛骨																					
1 全長							3	315.0	20	324.3	20	326.8	9	332.2	3	313	17	319.8	14	301	
1a 最大長					1	342.0	4	319.3	30	329.3	23	331	13	333.3	4	324.8	17	324.4	14	306.6	
8 中央最大径					5	26.8	23	26.7	46	27.0	31	26.9	19	27.3	24	27.6	42	27.3	14	24.7	
8a 栄養孔位最大径					30.3	5	30.4	20	31.2	97	30.8	42	30.5	39	31.3	19	30.4	37	30.5	14	28.1
9 中央横径					5	20.4	23	19.9	46	20.4	31	19.1	19	20.7	26	19.7	42	17.9	14	18.8	
9a 栄養孔位横径					20.9	5	22.8	20	22.0	98	22.3	42	21.6	38	22.7	20	21.1	36	19.4	14	21.1
10 骨体周					4	73.8	23	73.7	46	74.5	30	72.6	19	75.4	23	75.3	42	73.4	14	70.1	
10a 栄養孔位周					5	83.6	20	83.8	96	83.2	42	82.2	38	84	18	81.6	35	81.3	14	78.2	
10b 最小周					5	67.2	18	66.2	82	68.6	44	67.5	31	69.1	24	68.3	35	67.6	14	63.6	
9/8 中央断面示数					5	76.6	23	74.8	46	75.7	31	71.1	19	76.2	23	72.1	42	65.8	14	76.3	
9a/8a 栄養孔断面示数					68.9	5	75.7	20	70.4	97	72.4	42	71.2	38	72.6	18	70.4	36	63.6	14	74.9
10b/1 長厚示数					1	19.8	3	21.5	20	21.3	20	20.3	9	21.1	3	21.4	17	21.1	14	21.2	

1)松下(1985) 2)中橋・永井(1989) 3)中橋(1993) 4)松下(1981) 5)清野・平井(1928) 6)阿部(1955)・鏑鍋(1955)・専頭(1957)・溝口(1957)

## 2. 瑞穂遺跡第7・8次調査出土近世人骨の埋葬状態と形質的特徴

米元史織<sup>1・2)</sup>、足達悠紀<sup>3)</sup>・松尾樹志郎<sup>3)</sup>・植野律子<sup>3)</sup>・白楊<sup>3)</sup>・  
Stephen Nguyen Si Minh<sup>3)</sup>・出見優人<sup>3)</sup>・小高蒼大<sup>4)</sup>・田渕朱莉<sup>5)</sup>・  
松村祐奈<sup>5)</sup>・舟橋京子<sup>2・6)</sup>

- 1：九州大学総合研究博物館  
2：九州大学アジア埋蔵文化財研究センター  
3：九州大学大学院地球社会統合科学府  
4：九州大学共創学部  
5：九州大学文学部考古学研究室  
6：九州大学大学院比較社会文化研究院

### はじめに

福岡県大野城市瑞穂遺跡は2011-2012年度に大野城教育委員会によって発掘調査が行われ、近世・近代に属する人骨が多数出土した。そこで、同教育委員会から九州大学比較社会文化研究院基層構造講座に人骨調査の依頼があり、九州大学比較社会文化研究院基層構造講座関連の教職員と大学院生が現地で調査・取り上げを行った。その後、人骨は九州大学大学院比較社会文化研究院基層構造講座に搬送され、九州大学アジア埋蔵文化財研究センターにおいて、出土人骨の整理・分析が行われた。なお、人骨は現在、アジア埋蔵文化財研究センター・九州大学大学院比較社会文化研究院基層構造講座の古人骨・考古資料収蔵室に保管されている。

出土総数は93体である。人骨の年齢推定は、恥骨結合面はTodd (1920)を、耳状面はLovejoy (1985)、咬耗は栃原 (1957) を用い、性判定には、骨盤はBuikstra and Ubelaker (1994) を基準に、恥骨下角の角度・大坐骨切痕の角度・前耳状溝の有無、またPhenice (1969) の腹側弧、恥骨下陥凹、恥骨下枝内側面隆起に基づいて判定を行った。頭蓋はBuikstra and Ubelaker (1994) を基準に、眼窩上隆起・乳様突起・外後頭隆起で判定を行った。年齢の表記に関しては、九州大学医学部第二解剖学教室編集の『日本民族・文化の生成2』(九州大学医学部解剖学第二講座編, 1988) 記載の区分に従い、乳児0-1歳、幼児1-6歳、小児6-12歳、若年12-20歳、成年20-40歳、熟年40-60歳、老年60歳以上、成人は20歳以上(詳細は不明)とする。

### (1) 出土状況

人骨の出土状況に関しては、頭位あるいは躯体正面、想定される棺の種類、改葬の有無、改葬部位に関して記述する。屈葬に関しては、体軸を示す指標として頭位を記述しているが、坐葬に関しては頭位ではなく躯体正面を記述している。坐葬は通常頭部を上にして座した状態であり、体軸は地面に対して垂直に近く頭位は上方を指向された埋葬姿勢である。一方で、江戸の発昌寺においては、出土人骨の骨盤により判断される身体の正面が、内部施設の「前」など正面を記した記号と一致していることや参道や墓地形成を探る手掛かりとなることが指摘されており(井汲1991)、骨盤の向きを報告する必要性が指摘されている(谷川2004)。したがって、本報告では先述の通り、坐葬で躯体正面が明らかな場合はこれを記述することとする。ただし、坐葬の場合でも、背面に倒れこみ仰臥のような状態の場合や正座して上半身がその上に倒れこんだような状態のように、体軸が水平に近い状態になっている場合には頭位も併せて記載するものとする。

葬法に関しては、遺体の周辺に空隙があったことが確実にわかるような、人骨の崩落がみられる場合には棺ありと断定し、人骨の出土範囲の形状から棺の存在が想定される場合には棺の種類に「？」を付している。加えて、墓の再開口を行っているものの改葬による収骨が認められない事例に関しては、改葬不明で再開口ありと記している。

紙幅の都合上本文中に詳述するのは一部の出土事例に留まる。全出土事例の個別情報に関しては表1に挙げる。

#### 【7次 SX04号】

(躯体正面：西向き、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬、改葬：無し)

甕棺内から人骨が出土している。最も北側中央より、頭蓋が顔面を下にし、頭頂部を北に向けた状態で出土している。上下顎は咬合した状態で出土している。頭蓋骨の南西側からは左上肢が、北東側からは右前腕が出土している。左上肢は上腕が近位を北、前腕が遠位を北にし、長軸を南北に揃えた状態で出土している。右前腕は近位を南東に遠位を北西に向けた状態で出土している。これらの上肢は概ね解剖学的位置関係を保っている。頭蓋西側からは左下肢が、東側からは右下肢が出土している。左右股関節・膝関節は関節状態を保っており、屈した状態である。

以上の出土状況から、本個体は正面西向きの坐葬であり、軟部組織の腐朽に伴い頭蓋が腹部付近に転落したと推定される。

なお本人骨の右大腿骨直下および左寛骨外側付近から漆器と銅銭が出土しており、これらは、遺体の左側腰部付近に置かれていたと推定される。

#### 【7次 SX05号】

(躯体正面：西向き？、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内から散乱した状態で人骨が出土している。最上層からは左大腿骨、左上腕骨、左肩甲骨、椎骨肋骨などが甕全体に散乱した状態で出土している。左上腕および左橈骨は棺内南側の近接した位置から出土しているが、関節状態は保っていない。右上肢は、右橈骨が甕内北側、尺骨は甕内南側から出土しており関節状態を保っていない。距骨・踵骨・趾骨はまとまった状態で甕内西側から出土している。

以上の出土状況から、本個体は本来西側に足を置いて埋葬されていた可能性も考えられるが、それ以外の人骨に関してはいずれも関節状態を保っておらず散乱した状態である。加えて残存部位の遺存状態は良いものの頭蓋・長管骨・骨盤など遺存していない部位が多数見られることから、埋葬後完全に軟部組織が腐朽した段階で改葬により骨が持ち去られたと考えられる。

なお、棺底付近から、銭および複数本の煙管、指輪が出土している。

#### 【7次 SX07号】

(躯体正面：西向き、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬、改葬：無し)

甕内から人骨が出土している。甕内東側より、頭蓋が出土している。頭蓋は蓋石の崩落により原位置を保っていない。躯幹骨は胸椎および肋骨が頭蓋下から出土している。胸椎の南東側に接した位置からは腰椎が出土しており、下部胸椎から腰椎および仙骨がほぼ関節した状態で腹側を北西にした状態で出土している。躯幹骨の西側からは左右上肢が長軸をほぼ北西―南東にし、肩関節を北西、肘関節を南東にした状態で出土している。肘関節は左右ともにほぼ関節状態を保っている。

左右下肢は躯幹骨および上肢の下から出土している。左右寛骨は仙骨の南北から仙腸関節が関節した状態で出土している。自由下肢は、右下肢が北側、左下肢が南側から、股関節側を南東、膝関節

を北西にし、股関節・膝関節を強屈した状態で出土している。

以上の出土状況から本個体は頭位を東にとり躯体正面を西に向けた立膝坐葬であり、軟部組織の腐朽の過程で上半身が下肢上に倒れこんだと推定される。

#### 【7次SX16号】

(頭位：北向き、葬法：長方形木棺？、埋葬姿勢：仰臥屈葬、改葬：無し)

墓坑内の最も北側から、頭蓋骨が顔面を下にし頭頂を西に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態である。頭蓋の東側 20 cm 程度離れた位置からは椎骨が数点南北に連なった状態で出土しており、その直上から前腕片及び肋骨片が出土している。頭蓋の直下南側からは右上腕骨が長軸を南北にした状態で出土している。右上腕骨の南側からは右前腕が、上腕骨とほぼ解剖学的位置関係を保った状態で出土している。右前腕は、長軸を北東－南西にし、やや回内して肘関節を軽屈した状態で出土している。

墓坑内南側からは下肢が出土している。左寛骨が墓坑内南東側から出土しており、寛骨の西側から右大腿骨および脛骨が概ね解剖学的位置関係を保ち、大腿骨の近位および脛骨の遠位を南にし、長軸を東西にし、股関節および膝関節を強屈した状態で出土している。膝関節は右側に倒した状態である。左脛骨の直下からは上述の右前腕が出土しており、さらに右前腕の下からは右下肢が長軸を南北にした状態で出土している。

以上の出土状況から、本個体は頭部を右側に倒し、上肢を軽く曲げ前腕を左右下肢の間におき、下肢を右側に倒した、頭位北向きの仰臥屈葬であったと推定される。

#### 【7次SX18号】

(頭位：北向き、葬法：長方形木棺？、埋葬姿勢：右側臥屈葬、改葬：無し)

墓坑内の最も北側から、頭蓋骨が顔面を西やや上方にし、頭頂を北に向けた状態で出土している。頭蓋と下顎はほぼ解剖学的位置関係を保っている。頭蓋の直下南側からは左右上腕骨が長軸を東西にした状態で出土している。上腕骨近位部の南側からは椎骨が数点出土している。

墓坑内南側からは下肢が出土している。左寛骨が墓坑内南東側から、腹側を北西、外側を上にした状態で出土している。寛骨の西側からは左大腿骨および脛骨が概ね解剖学的位置関係を保ち、大腿骨の近位および脛骨の遠位を南東にし、長軸を北西－南東にし、股関節をやや屈し、膝関節を強屈した状態で出土している。左寛骨の北西側からは、右寛骨が腹側を上にし外側を北西にした状態で出土している。右寛骨とほぼ解剖学的位置関係を保ち右大腿骨が長軸を東西にした状態で出土している。

以上の出土状況から、本個体は頭位北向きの右側臥屈葬であったと推定される。

#### 【7次SX19号】

(躯体正面：西、葬法：円形木棺、埋葬姿勢：坐葬、改葬：無し)

墓坑内の最も北側から、頭蓋骨が顔面を西やや下方にし、頭頂を北に向けた状態で出土している。頭蓋の南側からは胸椎が南北に連なった状態で出土している。椎骨の東西からは左右肋骨がほぼ解剖学的位置関係を保った状態で出土している。墓坑内南側からは腰椎が東西に連なって上面を東、腹側を上にした状態で出土している。これらの躯幹骨付近から、上肢が長軸を南北にした状態で出土している。腰椎の西側からは左右の寛骨がそれぞれ腹側を上、腸骨翼を東にし、ほぼ解剖学的位置関係を保った状態で出土している。頭蓋の西側からは右大腿骨が長軸を上下にした状態で出土している。

以上の出土状況から、本個体は躯体正面西向きの坐葬であったものが軟部組織の腐朽に伴い上半身

が下肢上に倒れこんだと推定される。

#### 【7次 SX22号】

(頭位：北向き、葬法：長方形木棺、埋葬姿勢：仰臥屈葬、改葬：無し?)

墓坑内の最も北側から、頭蓋骨が顔面を南西やや上方にし、頭頂を上に向けた状態で出土している。頭蓋の直下南側からは上腕骨が近位を北、長軸を南北にした状態で出土している。上腕骨遠位南側からは、前腕が長軸を南北にした状態で出土している。

墓坑内南側からは下肢が出土している。墓坑内南東側からは寛骨片が出土している。この寛骨片と接した状態で西側から大腿骨および脛骨が出土している。寛骨の北西側からは、右大腿骨・脛骨が近位を南東と北西、長軸を北西—南東にした状態で出土している。右大腿骨の近位直上から左大腿骨が近位を東、遠位を西にした状態で出土している。左大腿骨の南側からは左脛骨が近位を西にし、大腿骨と長軸を揃えた状態で出土している。寛骨・左右大腿骨はほぼ解剖学的位置関係を保っており、股関節・膝関節を強屈した状態である。

以上の出土状況から、本個体は頭位北向きで膝を右側に倒した仰臥屈葬であったと推定される。加えて、本来上腕骨の北側から出土すべき頭蓋が上腕近位上から出土している。頭部側の墓坑壁までは15 cm～20 cm程度離れており、墓坑壁に上半身を立てかけていたとは考えられない。したがって、本来は遺体を埋葬した棺が存在しており、頭から頸部は棺の小口側に押し付けられやや立ち上がった状態であったものが、軟部組織の腐朽に伴い頭蓋が肩口付近にやや落下したと考えられる。

#### 【7次 SX37号】

(頭位：北向き、葬法：長方形木棺?、埋葬姿勢：仰臥屈葬、改葬：無し)

墓坑内の最も北側から、頭蓋骨が顔面を南にし左側頭部を上に向けた状態で出土している。頭蓋の東から南東にかけて椎骨の痕跡が遺存している。

これらの椎骨の痕跡の西側からは左右上腕骨がほぼ上下に重なった状態で、近位を北にし長軸を南北に揃えた状態で出土している。上腕骨の遠位西側および南側からはそれぞれ右と左の前腕が上腕骨とほぼ解剖学的位置関係を保った状態で出土している。左右前腕は、長軸を東西にし、回内して肘関節を屈し、手を腹部付近に置いた状態で出土している。右手の指骨が後述の左膝関節下位から出土している。

墓坑内南西側からは下肢が出土している。最も南東からは左右寛骨および仙骨が関節状態を保ち、腹側を上方やや西に向けて出土している。これらの左右寛骨と関節し、股関節を強屈した状態で左右大腿骨が遠位を北西に向けて出土している。左大腿骨直上及び西側からは左右下腿が、大腿骨とほぼ関節状態を保ち、長軸を南北にし、膝関節を強屈し右側に倒した状態で出土している。

以上の出土状況から、本個体は上半身を腰部でややねじり右側臥にし、上肢を屈し手を腹部付近に置き、下肢の股関節と膝関節を強屈し膝を右側に倒した、頭位北向きのやや右側臥に近い仰臥屈葬であったと推定される。

本個体の膝付近から銅銭および鉄製品が出土している。頭蓋の西側からも鉄製品が出土している。銅銭は手元付近に置かれていたと推定される。左下腿直上からは土師器皿も出土している。

#### 【7次 SX38号】

(頭位：南西向き、躯体正面：北東、葬法：方形木棺、埋葬姿勢：胡座坐葬、改葬：無し)

本個体は弥生時代の合口甕棺墓の下甕中に掘りこまれた墓坑内から出土している。最も南西側の合

口付近に落ち込んだ状態で、頭蓋骨が出土している。頭蓋の北東側から南西―北東に連なった状態で下部胸椎・腰椎・仙骨が腹側を上にし、上面を南西にした状態で出土している。椎骨の南北からはそれぞれ左右肋骨が一部遺存している。

これらの椎骨の南北からはそれぞれ右と左の上肢が出土している。右上肢は、最も南西側から右肩甲骨が出土し、右肩甲骨の北東側に接した位置から右上腕骨が近位を北西にし長軸を南西―北東にした状態で出土している。右上腕の遠位北側からは右前腕が長軸を北西―南東に揃えた状態で右大腿骨直上から出土している。左上肢は椎骨の北西側から左上腕骨遠位付近片が遺存しており、その北東側から左前腕が上腕とほぼ関節し肘関節をやや屈し回内した状態で長軸を東西に揃えて出土している。左手根骨および指骨は左前腕の遠位付近の左寛骨直上から出土している。

墓坑内北東側からは下肢が出土している。最も北東からは左右寛骨および仙骨が関節状態を保ち、腹側を上に向けて出土している。これらの左右寛骨と関節し、股関節を強屈した状態で左右大腿骨が遠位を南西に向けて出土している。左大腿骨内側からは左右脛骨・腓骨が、大腿骨とほぼ関節状態を保ち、膝関節を強屈した状態で出土している。下腿部は足首付近で、右下腿を上にして左右を交差した状態である。左右脛骨・腓骨の北東側からは左右距骨・踵骨以下の骨がほぼ関節状態で出土している。

以上の出土状況から、本個体は左上肢を腹部付近に置き右上肢を下肢外側に回し、下肢を強屈した、躯体正面北東向きの胡座坐葬であったものが、棺の腐朽に伴い、上半身が後方、即ち弥生時代の上甕側の空間に倒れこんだため、出土状況としては仰臥に近い姿勢になったと推定される。

本個体に伴い足元付近から銅銭が出土している。

#### 【7次 SX63号】

(頭位：北東向き、葬法：長方形木棺？、埋葬姿勢：仰臥屈葬、改葬：無し)

墓坑内の最も北東側から、頭蓋骨が顔面を南西にし、頭頂を上に向けた状態で出土している。頭蓋と下顎はほぼ解剖学的位置関係を保っている。頭蓋骨直下から南西方向に向けて椎骨の痕跡が認められる。上肢は頭蓋骨の南西側の南北から左と右の上肢が、それぞれほぼ解剖学的位置関係を保った状態で出土している。頭蓋骨の北西側から右鎖骨・肩甲骨および上腕・前腕が出土している。右上腕骨および前腕は長軸を北西・南東に揃え、肘関節を強屈し上腕骨直上に前腕がのった状態で出土している。左上肢は頭蓋骨の南東側から、左鎖骨・肩甲骨および上腕・前腕が出土している。上腕骨は近位を北東、長軸を北東―南西にした状態で出土している。左上腕骨の遠位側からは左前腕が、肘関節を屈し長軸を南北にした状態で出土している。

墓坑内南西側からは下肢が出土している。左寛骨が墓坑内南東側から、腹側を上方やや北西に向けた状態で出土している。寛骨の北西側からは左大腿骨および脛骨が概ね解剖学的位置関係を保ち、大腿骨の近位および脛骨の遠位を南にし、長軸を南北にし股関節を屈し、膝関節を強屈して右側に倒した状態で出土している。左寛骨の北西側からは、右寛骨が腹側を上にし外側を北西にした状態で出土している。右寛骨とほぼ解剖学的位置関係を保ち、右大腿骨が長軸を東西にし股関節をやや屈した状態で出土している。右大腿骨の北西側からは右脛骨および腓骨が、長軸を北西―南東にし、右大腿骨と解剖学的位置関係を保ち、膝関節を強屈した状態で出土している。

以上の出土状況から、本個体は上肢を胸部付近に置き、股関節を屈し、膝関節を強屈し膝を右に倒した頭位北東向きの仰臥屈葬であったと推定される。

### 【7次 SX68号】

(頭位：北向き、葬法：長方形木棺？、埋葬姿勢：仰臥屈葬、改葬：無し)

墓坑内の最も北側から、頭蓋骨が顔面を西、頭頂を北に向けた状態で出土している。上下顎は咬合状態を保っている。頭蓋の直下南側からは椎骨が南北に連なった状態で出土している。椎骨の東西からは肋骨片が出土している。肋骨のさらに東西外側からは左右上肢が出土している。椎骨東側の肋骨直上からは左上腕骨が近位を北にし長軸を南北にした状態で出土している。椎骨の西側からは右上肢が解剖学的位置関係を保って出土している。右上腕骨は近位を北にし長軸を南北にした状態で出土している。右上腕の遠位側からは右前腕が長軸を北西－南東にし、肘関節を屈した状態で出土している。

墓坑内南側からは下肢が出土している。墓坑中央付近からは左右寛骨が腹側を上にした状態で出土している。左右寛骨の南西側からは左右大腿骨および脛骨が概ね解剖学的位置関係を保ち、股関節をやや屈し、膝関節を強屈して右に倒した状態で出土している。大腿骨は近位を北東、長軸を北西－南東にし、左大腿骨の南側から左右下腿が近位を西、長軸を東西にした状態で出土している。

以上の出土状況から、本個体は上半身をやや右側臥気味にし、股関節を軽屈し、膝関節を強屈して膝を右に倒した、頭位北向きの仰臥屈葬であったと推定される。

### 【7次 SX80号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内の底部付近から人骨が散乱状態で出土している。椎骨・肋骨・尺骨・趾骨など様々な部位の骨が混在した状態である。頭蓋・四肢・骨盤の大部分が甕内から検出されず、甕内から出土した部位に関しても解剖学的位置関係を保っている部位は全く見られないことから、本個体は軟部組織が完全に腐朽した後に改葬を受け大部分の骨が持ち去られたと推定される。

骨に混ざって木片も出土している。

### 【8次 仮A (帰属不明)】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内から人骨が散乱した状態で出土している。元も高い位置から恥骨片が出土している。甕内南側から頭蓋・左寛骨が出土している。甕内中央付近から左右大腿骨・脛骨が近位を東向きにし、長軸を東西に揃えた状態で出土している。これらの下肢の下からは、左前腕が近位を東西、長軸を東西にして出土している。これらの前腕のさらに下からは、距骨・踵骨・足根骨が出土している。甕内北側からは椎骨・右寛骨・右上腕骨が出土している。椎骨は一部連なった状態を保っている。甕内東側の底部付近からは仙骨が正面を西にした状態で出土している。

甕内から、左上腕・右前腕を除くほぼ全身の骨が出土しているが、解剖学的位置関係を保っている部位は椎骨を除いて見られず、恥骨片が最上位から出土することから、本個体は軟部組織がかなり腐朽した後に改葬を受けたと推定される。

骨に混ざって木片も出土している。

### 【8次 SX83号】

(躯体正面：西、葬法：方形木棺、埋葬姿勢：胡座坐葬、改葬：あり)

墓坑内の最も南東側から、躯幹骨および左右寛骨が出土している。これらの躯幹骨の北側と西側から付近からそれぞれ右上肢および左上肢が出土している。右上腕骨は近位を北西、遠位を南東にした状態で出土している。右上腕骨の遠位側から、右前腕が右上腕骨と関節状態を保ち、近位を北東、遠

位を南西にした状態で出土している。左上肢は、長軸を南北にし、上腕骨の近位および前腕の遠位を北に向け、解剖学的位置関係を保った状態で出土している。墓坑内西側からは下肢骨が出土している。墓坑内南西側から左下肢が、北西側からは右下肢が出土している。左右下肢はいずれも股関節がそれぞれ左右の前腕直下に位置しており、左右股関節・膝関節を屈曲し、膝関節を上方にし足首関節側を下方にした状態で出土している。左右下腿部は左下腿を前方にし、足首付近で交差した状態である。右下肢直上からは下顎骨が出土している。

以上の出土状況から、本個体は、上肢を肘関節で屈し手を腹部付近におき、膝関節を屈曲し左右の足を交差させた、躯体正面西向きの胡座坐葬であったものが軟部組織の腐朽に伴い上半身が前方に倒れこんだと推定される。加えて、頭蓋のみ遺存していないことから改葬により持ち去られたと推定される。

#### 【8次 SX87号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内から人骨が散乱した状態で出土している。甕内中央付近には蓋石が落ち込んでおり、蓋石の上面からは左大腿骨・左上腕骨が長軸を南北にした状態で出土している。蓋石東側からは左右寛骨および仙骨が出土している。蓋石下位の南側からは、下顎骨・腰椎・肩甲骨片・左橈骨・腓骨片などが散乱した状態で出土している。棺底付近からは、膝蓋骨・足根骨・趾骨が出土している。

本個体は、解剖学的位置関係を保っている部位が見られず、長管骨や頭蓋骨など主要部位も一部しか出土していないことから、軟部組織が腐朽したのちに改葬を受けたと推定される。

頭蓋底付近からは銅銭が出土している。

#### 【8次 SX88号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内から人骨が散乱した状態で出土している。甕内東北部より上腕骨が出土している。甕内南側からは頭蓋片や脛骨片・腓骨片・距骨が出土し、甕内西側からは寛骨片が出土している。

本個体は、解剖学的位置関係を保っている部位が見られず、長管骨や頭蓋骨など主要部位も一部しか出土していないことから、本個体は軟部組織が腐朽したのちに改葬を受けたと推定される。

頭蓋底付近からは銅銭が出土している。

#### 【8次 SX89号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内から人骨が散乱した状態で出土している。甕内南側の最も高い位置から右寛骨が出土している。甕内中央付近からは長管骨が長軸を南北軸にし、まとまった状態で出土している。これらの長管骨の周辺からは胸骨・椎骨・鎖骨などが散乱した状態で出土している。甕中央東側の棺底付近からは左寛骨が出土している。

本個体は、解剖学的位置関係を保っている部位が見られず、長管骨や頭蓋骨など主要部位が殆ど出土していないことから、本個体は軟部組織が腐朽したのちに改葬を受けたと推定される。

頭蓋底付近からは銅銭が出土している。

#### 【8次 SX92号】

(躯体正面：北西、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内東側から椎骨が、その下位から仙骨が出土している。仙骨の南側からは左寛骨が仙骨とほぼ関

節状態を保って出土している。仙骨の北側からは右寛骨片が出土している。右寛骨の西側からは、橈骨片・左尺骨・下顎片が出土している。左尺骨の直下からは右距骨と踵骨が関節状態で出土している。これらの距骨・踵骨の東側からは腓骨遠位部が出土しており、西側からは趾骨が出土している。甕内西側からは肋骨・橈骨片・指骨が出土している。

本個体は、下肢骨や頭蓋骨など主要部位が殆ど出土していないものの、左仙腸関節や右距骨・踵骨など一部関節した状態も見られることから、本来躯体正面を北西に向けて坐葬で埋葬されていたものが、軟部組織が一部腐朽した段階で改葬を受けたと推定される。

#### 【8次SX94号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：早桶？、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

円形の墓坑内南側から、頭蓋骨・長管骨片が長軸を揃えまとまった状態で出土している。

本個体は、下肢骨や頭蓋骨など主要部位が一部破片で遺存しているのみであり関節状態を保っている骨も見られないことから、軟部組織が腐朽した段階で改葬を受けたと推定される。

#### 【8次SX96号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内底部付近から、人骨が出土している。甕内東側からは左寛骨片・肋骨片が出土しており、甕内西側からは前腕および腓骨が散乱した状態で出土している。

本個体は、主要な長管骨や頭蓋骨・骨盤の一部などが出土しておらず、関節状態を保っている部位も見られないことから、軟部組織が腐朽した段階で改葬を受けたと推定される。

#### 【8次SX102号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：方形木棺？、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

墓坑内底部付近から、人骨が出土している。より上層からは頭蓋片・長管骨片が墓坑全体に散乱した状態で出土している。下層からは、北側から頭蓋片・歯牙が出土し、南側からは長管骨片が出土している。

本個体は、長管片や頭蓋骨片など小片が出土しているのみであり、関節状態を保っている部位も見られないことから、軟部組織が腐朽した段階で改葬を受けたと推定される。

墓坑底付近からは、銅製の指輪が出土している。

#### 【8次SX107号】

(躯体正面：西向き、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬、改葬：？、再開口：あり)

甕内から人骨が出土している。甕内中央より、頭蓋が顔面を下方やや南、頭頂部を西側にした状態で出土している。頭蓋の東側からは躯幹骨がまとまった状態で出土している。第1頸椎から第3頸椎は大後頭孔に関節した状態で出土しており、頭蓋の直下からは第4頸椎以下の頸椎が関節した状態で出土している。

頭蓋の南北からは、左と右の上肢がそれぞれ出土している。右上腕骨は遠位を北西、近位を南東にした状態で出土しており、近位東側からは右前腕が長軸を東西にし、近位を西に向けた状態で出土している。頭蓋骨の南側からは左上腕骨が近位を上にした状態で出土している。左上腕骨の西側からは左前腕が遠位を上にして立った状態で出土している。頭蓋骨の北側からは仙骨及び左右寛骨が出土している。仙腸関節は関節状態を保っていない。

頭蓋骨の南西側からは下肢が出土している。左大腿骨は近位を北西下方、遠位を南東にし、後面を

上にした状態で出土している。左大腿骨の遠位南東側からは左脛骨が近位を上にしてほぼ立った状態で出土している。左大腿骨の西側からは、右大腿骨が遠位を上にし、脛骨が近位を上にし、膝関節が関節した状態で出土している。

以上の出土状況から本個体は頭位を東にとり躯体正面を西に向けた立膝坐葬であり、軟部組織の腐朽の過程で頭蓋が腹部付近落下したと推定される。ただし、仙腸関節・股関節は解剖学的位置関係を保っていない。一方で左右肘関節および右膝関節も関節状態を保っていないものの解剖学的位置関係から大きく乱れてはいない。したがって、本個体はそれ程軟部組織の腐朽が進んでいない段階で再開口され、遺体が乱されているもののほとんど人骨は持ち去られていないと推定される。

#### 【8次 SX127号】

(頭位：北、躯体正面：北、葬法：方形木棺？、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：なし)

墓坑内底部付近から、人骨が出土している。墓坑内北側からは顔面が南、右側頭部を上にした状態で出土している。上下顎はほぼ関節状態を保っている。頭蓋骨西側からは椎骨および上肢帯の痕跡が認められる。頭蓋の南側からは下肢骨が出土している。最も東側からは、右下肢が股関節を南、膝関節を北側にし、大腿骨が脛骨直下から出土している。右膝関節は強屈した状態である。右下肢の西側からは左下肢が出土している。最も西側から大腿骨が、近位を南、遠位を北にし内側を上にした状態で出土している。大腿骨の東側からは左脛骨が近位を北、遠位を南にし、後面を上にした状態で出土している。左下肢中央付近からは左前腕が長軸を東西にし、近位を西にした状態で出土している。

以上の出土状況から、本個体は躯体正面を北に向け、手を下肢上においた正座のような状態で、上半身が下肢上に倒れこんだ坐葬であると推定される。

#### 【8次 SX158号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内から骨が出土している。甕内東側からは椎骨・肋骨および左上腕骨が散乱した状態で出土している。西側からは、右上腕骨・右前腕・左脛骨などが散乱した状態で出土している。

本個体は、主要な長管骨や頭蓋骨・骨盤などが出土しておらず、関節状態を保っている部位も見られないことから、軟部組織が腐朽した段階で改葬を受けたと推定される。

本個体に伴い、甕内東側の左上腕骨付近から銅銭が出土している。

#### 【8次 SX161号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内から散乱した状態で人骨が出土している。甕内最上位のレベルからは上腕骨・前腕を主とする長管骨が出土している。甕内北東から中央にかけて右上肢が、甕内南西側からは左上肢が出土しているものの、いずれも関節状態は保っていない。右上腕の直上からは胸骨が出土している。甕内北東側からは左脛骨と腓骨が甕の内壁によりかかった状態で出土している。

本個体は、下肢など主要な長管骨や頭蓋骨・骨盤などが出土しておらず、関節状態を保っている部位も見られないことから、軟部組織が腐朽した段階で改葬を受けたと推定される。

本個体に伴い、甕内最上位から櫛が出土しており、最下層からは数珠玉およびかんざし様の金属製品が出土している。

#### 【8次 SX166号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内から人骨が出土している。甕内南側からは椎骨・肋骨・仙骨・左寛骨および右上腕骨・左前腕などがまとまって出土している。仙骨下位からは軸椎および腰椎が出土している。甕内北側からは右寛骨片・左脛骨・趾骨が出土しており、より下位から環椎・右距骨などが出土している。

本個体は、主要な長管骨や頭蓋骨などが出土しておらず、関節状態を保っている部位も見られないことから、軟部組織が腐朽した段階で改葬を受けたと推定される。

#### 【8次 SX169号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内から人骨が出土している。甕内西側からは左上腕骨・右橈骨がやや長軸を南北に揃えた状態で出土しており、上腕骨の北側からは肋骨・椎骨および左橈骨が出土している。これら人骨の下位の位置からは距骨・踵骨が出土している。甕内東側からは肋骨・椎骨・胸骨および指骨などが散乱した状態で出土している。

本個体は、主要な長管骨や頭蓋骨・骨盤などが出土しておらず、関節状態を保っている部位も見られないことから、軟部組織が腐朽した段階で改葬を受けたと推定される。

本個体に伴い、左橈骨および肋骨の下位から煙管が出土している。

#### 【8次 SX174号】

(躯体正面：南西向き、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬、改葬：あり)

甕内から人骨が出土している。甕内西側の上位の位置より、下肢骨がまとまった状態で出土しており、東側からは上腕骨・右鎖骨・骨盤片などが出土している。下肢骨は長軸を南北に揃えた状態であり、左右大腿骨が遠位を南上方に向け、左右脛骨が近位を南上方に向けた状態で出土している。下肢骨の下位の甕底部付近からは頭蓋骨が、顔面を南東にむけた状態で出土している。頭蓋の南東側からは下顎骨が出土しており、その下位からは椎骨・肋骨および肩甲骨が出土している。頭蓋の北西からは左前腕および右橈骨が出土している。左前腕の長軸は南北に揃ってはいるものの、橈骨は遠位が南、尺骨は近位が南を向いており、解剖学的位置関係を保っていない。

以上の出土状況から本個体は躯体正面を南西に向けた立膝坐葬であったと推定される。ただし、左右膝関節は解剖学的位置関係から大きく乱れてはいないものの、それ以外の部位に関してはほとんどの部位が解剖学的位置関係を保っていない。したがって、本個体はある程度軟部組織の腐朽が進んだ段階で再開口され、仙骨のみ取り去られたと推定される。

#### 【8次 SX176号】

(躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬、改葬：？、再開口：あり)

甕内から人骨が出土している。甕内南東側の最も上位の位置より、左右寛骨と仙骨が出土している。これらの仙骨及び寛骨はいずれも背側を上にして出土しており、左右の仙腸関節は厳密には関節状態を保っていないが、仙骨の右耳状面と右寛骨の耳状面が近接した位置にある。右寛骨の西側からは右大腿骨が近位を上にし遠位が右寛骨の下に潜り込む形でほぼ立った状態で出土している。同じく右寛骨の直下北西側からは左大腿骨が、近位を南東、遠位を北西に向けた状態で出土している。

左寛骨直下の左大腿骨の北東側からは左前腕が長軸を南北に揃え近位を北にした状態で出土している。これらの左前腕近位直下からは、頭蓋骨が顔面を南、頭頂部を西に向けた状態で出土している。頭蓋の東側の近接した位置から下顎骨が出土しているが顎関節は関節状態を保っていない。下顎の内側からは環椎および軸椎が出土している。左寛骨の東側からは左右の上腕骨がほぼ長軸を北西-南東

にし、近位を互い違いにした状態で出土している。また、上腕骨の周辺からは肋骨・椎骨が多数出土している。

上記の人骨の下位からは、左脛骨・腓骨および右脛骨が出土している。左脛骨・腓骨は近位を北西にし、遠位を南東にした状態で出土している。さらに、右脛骨が遠位を左下腿部の遠位と交差させる形で近位を東側、遠位を西にして出土している。

以上の出土状況から本個体は躯体正面を北西に向けた坐葬であったと推定される。ただし、各部位は比較的まとまって出土しているものの、ほとんどの部位が解剖学的位置関係を保っていない。したがって、本個体はある程度軟部組織の腐朽が進んだ段階で再開口され、遺体が乱されているもののほとんど人骨は持ち去られていないと推定される。

本人骨に伴い、骨盤の下から銅銭が出土し、頭蓋下から毛髪および布片が出土している。

#### 【8次 SX178号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内底部付近から散乱した状態で人骨が出土している。甕内北東側からは椎骨・肋骨片および前腕や寛骨片、膝蓋骨が出土している。甕内南西側からは腓骨・距骨・肋骨片が出土している

本個体は、主要な長管骨や頭蓋骨・骨盤などが出土しておらず、関節状態を保っている部位も見られないことから、軟部組織が腐朽した段階で改葬を受けたと推定される。

本個体に伴い、甕内北東側の尺骨下位から金属片が出土している。

#### 【8次 SX179号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内から人骨が出土している。甕内北西側から、椎骨・肋骨片および左右の上肢・下肢が長軸を東西に揃えた状態で出土している。甕内南東側からは腓骨が長軸を北東―南西にした状態で出土している。

本個体は、頭蓋骨・骨盤などが出土しておらず、関節状態を保っている部位も見られないことから、軟部組織が腐朽した段階で改葬を受けたと推定される。

本個体に伴い、甕内底部付近から腕・ガラス製の瓶・金属製の指輪および金属製品が出土している。

#### 【8次 SX180号】

(頭位：不明、躯体正面：不明、葬法：甕棺、埋葬姿勢：坐葬？、改葬：あり)

甕内から人骨が出土している。甕内南東側からは左右上腕骨・左右橈骨・左右大腿骨などが出土している。甕内北西側からは下顎骨・肋骨・椎骨・左寛骨・左右尺骨が出土している。これら人骨の下位の位置からは肋骨・胸椎・腰椎・右肩甲骨・左脛骨・左腓骨などが出土している。左脛骨は甕内南東側から、長軸を北東―南西にし、近位を南西に向けた状態である。

本個体は、頭蓋骨・仙骨・右寛骨が出土しておらず、かつ主要な長管骨も一部欠いている。加えて、上層から左寛骨が出土しており、関節状態を保っている部位も見られないことから、本個体は、軟部組織が腐朽した段階で改葬を受け、一部人骨が持ち去られたと推定される。

本個体に伴い、甕内最下層から銭・銅製品・櫛が出土している。

#### 【出土状況の全体的傾向】

本遺跡においては、坐葬・仰臥屈葬・側臥屈葬が認められる。

明らかな屈葬（27例）に関しては、24例が頭位を北東から北西に向けており、例外として西頭位

が2例(SX41、SX50)と南頭位が1例(SX95)見られる。加えて、右側臥屈葬のみならず、仰臥屈葬の場合でも膝を右側に倒し、頭部も右側を下にし、頭部或いは上半身を西に向け右側臥を指向したような事例が大半である(cf. 西新開遺跡(大川市教委1997)など)。これに対し、下肢を左に倒した事例は、例外的な頭位をとる2例(SX41、SX50)と主要な頭位である北頭位の1例(SX154)のみである。また、下肢の埋葬姿勢のみに着目すると、膝関節は屈しているないしは強屈している事例のみであるが、股関節に関しては近世墓に典型的な股関節を強屈した事例が多くみられる一方で、股関節を強屈せずやや軽屈させた状態の事例(SX18、SX63、SX68)もみられる。

坐葬の躯体正面に関しては北4体、北東1体、東2体、南東2体、南1体、南西2体、西8体、北西2体と、基本的に北から西を主としているようである。ただし、それ以外の方位も見られることから、先行研究に見られる墓地の経営の様相などと関連する可能性も検討する必要がある。

本遺跡では、改葬に伴い軟部組織の腐朽がある程度進んだ段階で収骨を行った痕跡が多く認められる。一方で、墓を再開口、遺体を乱しているにもかかわらず収骨を行っていない事例も2例(SX107、176)認められる。後者に関しては箱崎キャンパス内遺跡(未報告)においても類例が認められる。類例の増加を待って行為の意味付けについて言及を行う必要がある。

## (2) 形質的特徴

瑞穂遺跡出土人骨の各計測項目の基礎統計量は表2・3に示す。近世江戸時代に関しては鈴木尚(1985a, b)以来、大名家や将軍などを中心に研究が進められてきた。近年、大名・将軍家の形質的検討が追加された(馬場・坂上2012)だけでなく、さらに庶民層と中流程度の武士層の形質が明らかにされるなど江戸市中にみられる階層と形質の関連を探る研究が進められている(Sakaue2012)。しかし、江戸市中を主な対象として研究が行なわれているため、近世の形質の地域性に関しては未検討な部分が多い。以下、本遺跡出土人骨の平均値と比較群との比較を行っていく。

### 頭蓋骨

#### 【男性(表2)】

頭蓋最大長は、182.5mmと天福寺出土人骨と同程度の値を示し、比較群中において中間的な値を示す。頭蓋最大幅は141.5mmで武士階層の牧野家や稲荷谷出土人骨と近似し、Ba-Br高は133.0mmと比較群中では相対的に値が小さい。頭長幅示数(77.5)、頭長高示数(73.5)、頭幅高示数(96.4)を示しいずれも中頭であり、脳頭蓋の形態は古野・原口と同様な傾向を示す。

頬骨弓幅は126.0mm、比較群中において最小の値を示し、中顔幅は99.3mmと比較群中において中程度であり、上顔高は65.6mmと最も低い値を示す。コルマン上顔示数(54.8)は中上顔を示し、ウィルヒョウ上顔示数(67.0)は低上顔を示す。古野・原口に関しては上顔高の値が欠損しているため比較することはできないが、ウィルヒョウ上顔示数は比較群中最小の値を示し、顔高は低い傾向を示すと言えよう。

眼窩は、眼窩幅が40.3、眼窩高が31.5とやや広いため、眼窩示数(77.2)の中眼窩であり、高眼窩を示す古野や原口とは異なる。

鼻型は、鼻幅24.8、鼻高が49.8で鼻示数は41.3と狭鼻であり、開善寺・将軍家と近く、原口とは傾向を異にする。

以上、個体数が少ない計測項目も多いが、男性の顔面頭蓋の形質的特徴を概観すると、脳頭蓋のシェイプは古野遺跡や原口遺跡と大差なく、サイズはやや大きめ、顔面形態は低顔で眼窩もやや低めであるが鼻型は細長いという特徴をしめす。

### 【女性（表 3）】

頭蓋最大長 177.0mm・頭蓋最大幅 136.4mm、Ba-Br 高 135.8mm と、いずれも中間的な値を示す。頭長幅示数（77.1）は中頭、頭長高示数（76.9）は高頭、頭幅高示数（99.0）は狭頭を示し、脳頭蓋は幅径や長径に対しやや高い傾向にある。

頬骨弓幅は 135.3mm、中顔幅 98.0mm・上顔高は 67.8mm と、幅径が広く顔高は低い傾向を示す。コルマン上顔示数が 51.1 で中上顔、ウィルヒョウ上顔示数が 69.4 で低上顔を示す。

眼窩の形は、眼窩幅が 42.0mm、眼窩高が 31.4mm で、眼窩示数は 75.4 で低眼窩であり、比較集団より眼窩の幅が広く低い傾向を示す。

鼻型は、鼻幅は 24.8mm、鼻高は 49.0mm、鼻示数は 50.8 と広鼻よりの中鼻であり、瑞穂の男性と傾向を異にする。また鼻根部は、鼻根彎曲示数が 78.2 と比較群中で小さめの値を示し、やや高い鼻立ちである。

以上、女性の頭蓋骨の形質的特徴を概観すると、男性とは傾向が異なり、脳頭蓋はやや高く、顔面部の形態は顔高と眼窩、鼻型はいずれも低いという特徴を示す。

## 頭蓋骨の比較分析

### ・主成分分析

頭蓋 9 項目（頭蓋最大長・最大幅・Ba-Br 高・頬骨弓幅・上顔高・眼窩幅・眼窩高・鼻幅・鼻高）を用いて男女それぞれ主成分分析を行った。

### 【男性】

第一主成分（表 4 X 軸：固有値 3.87、寄与率 43.0%）は鼻幅とのみ負の相関を、それ以外の項目と正の相関を示すが、鼻幅の主成分負荷量は -0.21 と低いため、概してサイズファクターと考えられる。第二主成分（Y 軸：固有値 2.42、寄与率 26.91%）は、脳頭蓋は長・高径と、顔面部は頬骨弓幅と鼻幅と正の相関を、脳頭蓋の幅径と顔面部の高径・眼窩のサイズと負の相関を示す。第一主成分を横軸に、第二主成分を縦軸にとり二次元に展開したものが図 1 である。横軸で右に位置するほど頭蓋骨全体のサイズが大きい。縦軸で上方に位置すると脳頭蓋の長径が大きく顔面部の幅径が大きい傾向を示し、下方に位置すると脳頭蓋の幅径が大きく顔面部は高径、特に眼窩のサイズが大きく鼻型が高い傾向を示す。瑞穂遺跡出土の男性人骨は、第三象限に位置し、頭蓋骨のサイズが小さく、顔面部の形態は原田や天福寺、開善寺や京町のような福岡県内の諸集団と傾向が異なり、江戸の武士層や畿内・関東

表 4 男性主成分分析 主成分量負荷量

	主成分負荷量		
	1	2	3
1最大長	0.23	0.61	0.75
8最大幅	0.19	-0.87	0.34
17バジオン・プレグマ高	0.84	0.07	0.11
45頬骨弓幅	0.47	0.79	-0.29
48上顔高	0.90	-0.14	-0.06
51眼窩幅(L)	0.79	-0.22	-0.38
52眼窩高(L)	0.79	-0.35	-0.32
54鼻幅	-0.21	0.64	-0.04
55鼻高	0.86	-0.24	0.03
固有値	3.87	2.42	1.02
寄与率	43.00	26.91	11.38
累積寄与率	43.00	69.90	81.28

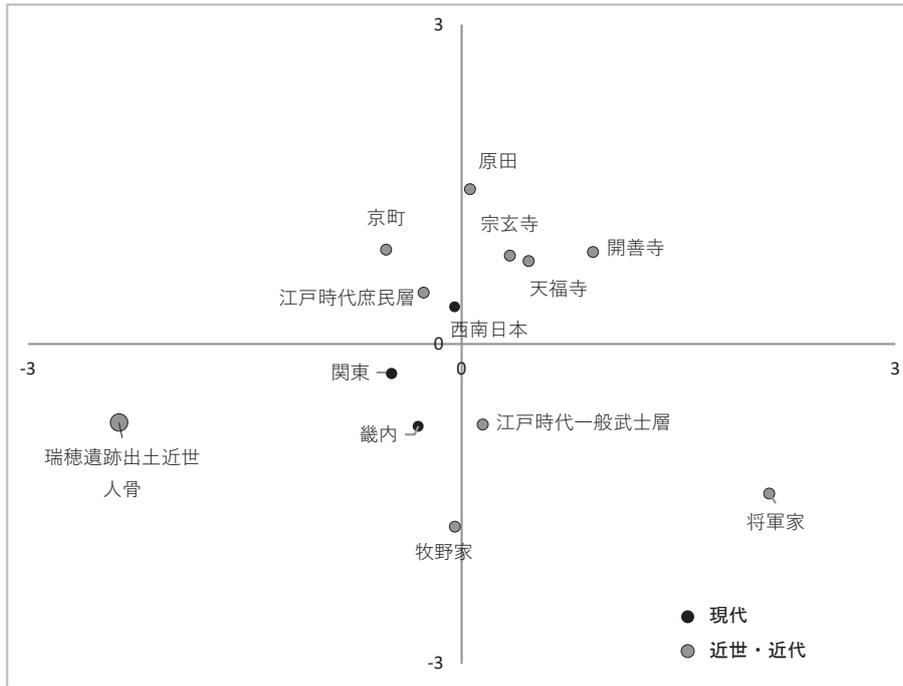


図1 主成分分析結果（男性 頭蓋9項目）

の現代人集団と形態的に類似する傾向を示す。しかし、鈴木の一連の研究（1967, 1985a, b）をふまえ、坂上・馬場（2012）によって「典型的貴族形質」の特徴は以下のようにまとめられている。

- ①低身長・大形の頭・短頭型または中頭型で長頭型ではない
- ②顔高、上顔高の増大と顔幅の減少に基づく超狭顔型化
- ③前頭骨の頬骨突起の繊細化と垂直下垂
- ④高度の狭鼻型と高い鼻根の隆起、高く鋭い前鼻棘
- ⑤眼窩の高径、幅径の増大による入口面積の拡大、しばしば高眼窩型
- ⑥上顎骨の縮小：中顔幅の短縮、鼻棘点の後退、上顎歯槽突起のV字化、歯槽上溝の出現
- ⑦下顎骨体の縮小：歯槽下溝の出現、オトガイの強い突出、下顎枝の繊細化、咀嚼筋と咬力伝達機能の弱体化
- ⑧歯列の不整とかすかな歯冠咬耗

この形質的特徴は主として上下顎及び咀嚼筋の弱体化を要因とする可能性が高く、その程度に応じて形質の発現に若干の差が生じると述べられている（鈴木 1967）。この中で、瑞穂遺跡出土人骨に関して傾向として当てはまる項目は、①・④・⑤であり、中顔幅の短縮や頬骨突起の繊細化などはみられず、計測はできなかったが高い鼻根の隆起が観察された個体もなく、管見の限りにおいて鼻根部は扁平であった。また、下顎骨の脆弱化という重要な項目に関して検討できる個体がおらず不明であるという問題もある。そのため、将軍家や大名家のようないわゆる貴族的形質を顕現するわけではない。また、近世・近代の庶民層の多様な形質発現の一端に過ぎない可能性も捨てきれない。

大野城市内の古野遺跡や原口遺跡出土人骨は上顔高の値が欠損しているため、上記の分析に含めていないが、最も近郊の遺跡から出土した人骨との対比を行うため、上顔高の値を除いて主成分分析を

行った(表5・図2)。第一主成分(表5 X軸: 固有値 3.51、寄与率 43.8%) は鼻幅とのみ負の相関を、それ以外の項目と正の相関を示すが、鼻幅の主成分負荷量は-0.43と低いため、概してサイズファクターと考えられる。

第二主成分(Y軸: 固有値 1.65、寄与率 20.65%) は、脳頭蓋は長・高径と、顔面部は頬骨弓幅と鼻幅と正の相関を、脳頭蓋の幅径と顔面部の高径・眼窩のサイズと負の相関を示す。第一主成分を横軸に、第二主成分を縦軸にとり二次元展開した図が図2である。原口・古野・瑞穂遺跡出土人骨はいずれもサイズが小さいという点で共通するが、縦軸をみると、古野・瑞穂遺跡出土人骨は特徴が異なり、古野・瑞穂遺跡出土人骨は江戸時代武士的あるいは畿内や関東現代人的で、原口は福岡県内遺跡出土人骨や江戸市中庶民層に近い。

表5 男性主成分分析 主成分負荷量

	主成分負荷量		
	1	2	3
1最大長	0.47	0.59	-0.64
8最大幅	0.67	-0.61	-0.07
17バジオン・プレグマ高	0.97	0.04	0.01
45頬骨弓幅	0.37	0.73	0.53
51眼窩幅(L)	0.76	-0.08	0.46
52眼窩高(L)	0.49	-0.23	0.56
54鼻幅	-0.43	0.55	0.24
55鼻高	0.87	-0.18	0.08
固有値	3.51	1.65	1.28
寄与率	43.85	20.65	16.03
累積寄与率	43.85	64.50	80.52

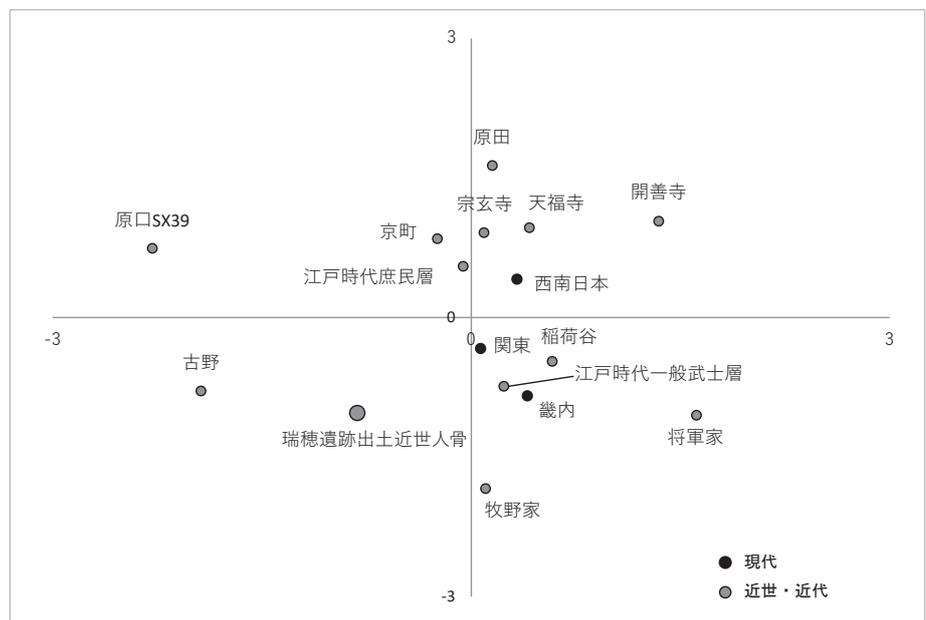


図2 主成分分析結果(男性 頭蓋8項目)

この点に関して、瑞穂遺跡出土人骨や古野遺跡の人骨の年代が比較的新しく近代に近い可能性と関連するかもしれないが、原田遺跡出土人骨も明治大正期の人骨を含み、年代的には大差ないと考えられる。古野遺跡出土人骨はその報告時に形質に関していわゆる江戸時代の貴族形質に近いことが指摘されており(中井・米元ほか2012)、大野城市内に出土するこれらの集団の歴史的経緯や墓地を形成した集団の婚姻圏に何らかの特異性があり、例えば古野の場合は高原家と関連の深い関家の主な墓域であり、有力層であるがゆえに庶民層とは異なる交流があった可能性が高いことも想定することができる。瑞穂遺跡出土の男性も、その位置づけゆえにこのような形質的特徴を有する可能性も考えられよう。

【女性】

第一主成分(表6 X軸:固有値 3.80、寄与率 42.24) は眼窩高以外と正の相関を示し、サイズファクターと考えられる。

第二主成分(Y軸: 固有値 1.54、累積寄与率 59.39) は主に脳頭蓋の諸径と顔面部の高径と正の相

関を示し、頬骨弓幅と鼻幅と負の相関を示すことから、図の上方に位置するほど脳頭蓋のサイズが大きく、顔面部は高い傾向があり、図の下方に位置するほど低顔であることを示している。第一主成分を横軸に、第二主成分を縦軸にとり二次元展開した図が図3である。

瑞穂遺跡出土の女性は、第4象限に位置し、天福寺や開善寺などの福岡県内の各集団や江戸市中庶民層の頭蓋形質を示し、この点において男性と傾向が異なる。女性は周辺部の頭蓋形質と傾向を共有し、一方で男性は周辺部とはやや異なる傾向を示すという点は極めて興味深い結果である。

表6 女性主成分分析結果 主成分負荷量

	主成分負荷量		
	1	2	3
1最大長	0.75	0.09	-0.62
8最大幅	0.40	0.76	0.21
17バジオン・プレグマ高	0.68	0.51	-0.05
45頬骨弓幅	0.92	-0.34	0.17
48上顔高	0.48	0.14	0.73
51眼窩幅(L)	0.77	0.02	-0.07
52眼窩高(L)	-0.64	0.55	0.18
54鼻幅	0.58	-0.09	-0.20
55鼻高	0.44	0.51	0.27
固有値	3.80	1.54	1.14
寄与率	42.24	17.15	12.65
累積寄与率	42.24	59.39	72.04

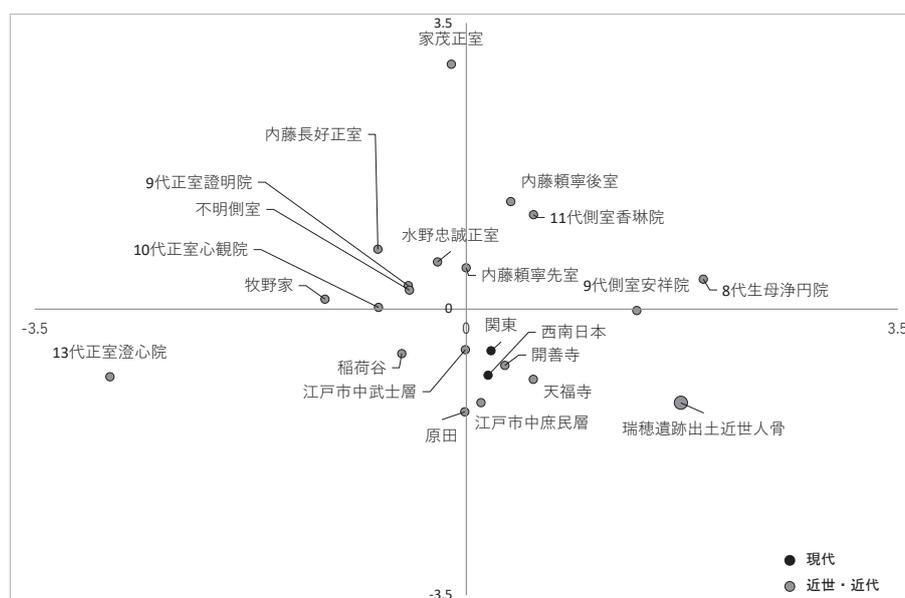


図3 主成分分析結果（女性 頭蓋9項目）

#### 四肢

##### 【男性（表7・8）】

##### 上肢（表7）

- ・ 上腕骨：最大長は298.5 mm、中央周や最小径・最大径も比較群中で中程度の値を示す。
- ・ 橈骨：橈骨は最大長がやや長めであるが、周径や横径・矢状径は中程度の値を示す。
- ・ 尺骨：尺骨も最大長はやや長めであるが、周径や横径・矢状径は中程度の値を示す。

##### 下肢（表8）

- ・ 大腿骨：最大長が左側422.0 mm、右側420.3 mmと比較群中では値が大きい傾向にある。中央周は84.0と中程度であり、顕著に細いわけではないが、中央断面示数が95.1、上骨体断面示数が74.2

と小さく、断面形態からみると柱状性や粗線の後方への突出が顕著ではない。

・脛骨：全長・最大長は一個体の値ではあるが、345.0 mmと大腿骨と同様に比較群中では値が大きい傾向にある。中央最大径・栄養孔位最大径・栄養孔位横径・骨体周・最小周・栄養孔位周は比較群中において小さめの値を示す部位が多い。中央横径が大きく最大径が小さいため、中央断面示数は比較群中において最大の値を示す。脛骨の扁平性は低く、ヒラメ筋線の発達も不明瞭であることを示す。

### 【女性（表9・10）】

#### 上肢（表9）

- ・上腕骨：最大長は261.7 mm、中央周や最小径・最大径も比較群中で中程度の値を示す。
- ・橈骨：橈骨は最大長が199.7 mm、周径や横径・矢状径も中程度の値を示す。
- ・尺骨：尺骨は最大長が212.0 mm、周径や横径・矢状径も中程度の値を示す。

#### 下肢（表10）

- ・大腿骨：最大長が左側381.0 mm、右側378.0 mmと比較群中ではやや大きい傾向を示す。中央断面示数は91.7、上骨体断面示数は75.3と比較的小さい値を示し、相対的に矢状径が大きい傾向が指摘される。しかし、中央周が70.5 mmと小さいため全体的に華奢な傾向を示す。
- ・脛骨：最大長が286.0 mmと比較集団中で小さい値を示す。中央断面示数は75.9、栄養孔位断面示数は76.6と、いずれも中程度であり、脛骨の扁平性やヒラメ筋線の後方への突出は明瞭ではない。
- ・腓骨：最大長が298.0 mm、最小周が35 mmと比較集団中で中程度の値を示す。

### 身長比較（表11・12）

大腿骨最大長にPearsonと藤井の身長推定式を適用して身長を算出した。男性の左側422.0 mm、右側420.3 mmから推定される身長は160.6 cm（ピアソン式）159.1（藤井式左側）である（表11）。女性は左側381 mm、右側378 mmであり、推定される身長は146.9 cm（ピアソン式）146.6 cm（藤井式左側）である（表12）。四肢骨の形態的特徴としては男女ともに大腿骨の粗線やヒラメ筋線の後方への突出も明瞭ではない個体が多く、比較的華奢である。しかし、大腿骨の長さから推定した身長は原田と同程度で、古野や江戸時代の比較集団中では大きい。女性は江戸市中の各集団と比較すると大きく、天福寺や現代人（九州）と近い。

平本（1972・2004）が縄文時代から明治までの身長の変化を検討した結果、古墳時代から近世にかけて平均身長が低くなっていく傾向が指摘されており、江戸時代の平均身長は、近代初期と同程度であり、日本の歴史上最も低いとされている。しかし、瑞穂遺跡出土人骨に関

表11 推定身長の比較（男性）

男性	n	M	
		(Pearson式)	(藤井式)
瑞穂近世	L	160.6	159.1
	R	-	158.7
古野 (SX36)	(近世)	158.8	156.6
天福寺 <sup>1)</sup>	(近世)	159.4	157.4
原田 <sup>2)</sup>	(近世)	160.4	158.7
稲荷谷 <sup>3)</sup>	(近世)	157.9	155.4
蓆田青木 <sup>4)</sup>	(近世)	160.2	158.5
八丁堀三丁目Ⅱ <sup>5)</sup>	(近世)	159.3	157.3
天徳寺 <sup>6)</sup>	(近世)	157.7	155.2
芝公園 <sup>6)</sup>	(近世)	160.6	159.0
九州 <sup>7)</sup>	(現代)	157.7	155.2

1)中橋 (1987)、2)中橋・土肥 (2008)、3)岡崎ほか (2004)、4)中橋 (1993) 5)梶ヶ山・馬場 (1993)、6)加藤 (1991)、7)阿部 (1957) \* 比較集団の身長は平均値より算出。

してはやや平均より高い傾向がみられる。また、男性に関しては原田も同様の傾向を示し、やや高身長である。女性に関しては福岡県内出土の人骨は江戸市中の人骨と比較すると推定身長がやや高い傾向を示す。平本（2004）の値は江戸市中の、特に一橋高校遺跡を主体としたものであり、江戸市中全体を代表させていかどうか検討の余地があるが、仮に江戸市中の傾向だとすると、瑞穂遺跡や原田のように地方にまで低身長化の影響は及んでいない可能性もある。これが江戸時代における東西の栄養状態の違い（速水 2000）に起因するものか、都市や農村部の集団構成の違いによるものかは未解明である。福岡県内で近年近世墓の発掘事例が相次いでいるため、今後比較検討を行っていく予定である。

表 12 推定身長と比較（女性）

女性	n	M	
		(Pearson式)	(藤井式)
瑞穂	L	146.9	146.6
	R	-	145.7
天福寺 <sup>1)</sup>	(近世)	146.9	146.5
原田 <sup>2)</sup>	(近世)	147.3	147.0
稲荷谷 <sup>3)</sup>	(近世)	147.1	146.8
蓆田青木 <sup>4)</sup>	(近世)	148.5	148.5
八丁堀三丁目Ⅱ <sup>5)</sup>	(近世)	142.9	141.8
天徳寺 <sup>6)</sup>	(近世)	145.6	145.1
芝公園 <sup>6)</sup>	(近世)	147.2	147.0
将軍家（成人） <sup>7)</sup>	(近世)	146.2	
九州 <sup>8)</sup>	(現代)	146.8	146.4

1)中橋（1987）、2)中橋・土肥（2008）、3)岡崎ほか（2004）、4)中橋（1993）、5)梶ヶ山・馬場（1993）、6)・7)加藤（1991）、8)阿部（1957）  
6)馬場・坂上（2012） \*比較集団の身長は平均値より算出。

## おわりに

大野城市瑞穂遺跡出土の近世人骨についてその出土状況をまとめると以下のとおりである。

- ・本遺跡においては、坐葬・仰臥屈葬・側臥屈葬が認められる。
- ・明らかな屈葬に関しては、頭位を北東から北西に向けており、例外が3例見られる。
- ・右側臥屈葬のみならず、仰臥屈葬の場合でも右側臥を指向したような事例が大半である。
- ・下肢の埋葬姿勢のみに着目すると、股関節に関しては近世墓に典型的な股関節を強屈した事例が多くみられる一方で、股関節を強屈せずやや軽屈させた状態の事例もみられる。
- ・坐葬の躯体正面に関しては基本的に北から西を主としている。
- ・本遺跡では、改葬に伴い軟部組織の腐朽がある程度進んだ段階で収骨を行った痕跡が多く認められる。一方で、墓を再開口、遺体を乱しているにもかかわらず収骨を行っていない事例も認められる。

本遺跡出土の近世人骨についてその形質的特徴をまとめると以下のとおりである。

- ・男性の頭蓋形質は、サイズが小さく、上顔高は65.6、上顔示数は67.0とやや低いが、眼窩のサイズがやや大きく鼻型は狭くて高い傾向をしめす。
- ・女性の頭蓋形質は、サイズが相対的に大きく、上顔高は67.8、上顔示数は69.4とやや低く、眼窩や鼻型なども低い傾向を示す。
- ・男性と女性の頭蓋形質の傾向はやや異なり、男性が武士層や畿内などの現代人と相対的に類似し、福岡県内の各集団とは異なるのに対し、女性はその逆の傾向を示す。大野城市内でみていくと古野の男性も瑞穂の男性と同様に武士層や現代人集団に形質的に近いが、原口は福岡県内出土の各集団と類似する。男性の頭蓋形質については、下顎骨が未検討であるなどいわゆる貴族形質と全く同じ傾向を

持つと現段階で断定できるものではなく、多様な形質を有していたであろう近世・近代の庶民層のヴァリエーションの1つにすぎない可能性もあるが、男性と女性で形質的な傾向が異なるという点から、瑞穂遺跡から出土した集団の歴史的経緯や婚姻圏に何らかの特異性があったのではないかと考えられる。瑞穂遺跡の墓地を形成した集団は、瓦田村（大野城市史編纂委員会 2000）の共同墓地と推定されており、関家の墓地であった古野遺跡のような特異性を有する可能性は未解明である。大野城市内に立地する近世遺跡群の歴史的立場に関する検討を待ちたい。

・身長は男性 160.6 cm（ピアソン式）159.1（藤井式左側）、女性 146.9 cm（ピアソン式）146.6 cm（藤井式左側）であり、江戸市中出土人骨の平均と比較するとやや高身長であるが、筑紫野市原田遺跡出土人骨の推定身長とは近似している。

・椎骨を除いて重度の関節炎や骨膜炎、LEH や CO などのストレスマーカーを持つ個体の頻度は低く、栄養状態が極端に悪い・身体的負荷が極端に高いなどの特徴は読み取れない。

## 謝辞

人骨の取り上げおよび本報告を行うにあたり、大野城市教育委員会の諸氏に多くのご配慮を賜りました。深謝いたします。

また、本出土人骨のクリーニング作業に従事した九州大学比較社会文化府（当時）、岩橋由季、早川和賀子、中井歩、福永将大、藤井恵美、地球社会統合科学府（当時）の梶原慎司、Carlos Verrecchia、富田啓貴、犬童淳一郎、Florenxia Botta、文学部考古学研究室所属の今村竜平、矢崎空音、瀧内更朝、栗原悠里子、藤岡実優、野村華鈴、渡邊響、共創学部所属の筒井優菜、吉村篤哉、小高蒼大、有尾緒美、米山玲緒、佐々木真子、田代魁斗、湊姫に感謝いたします。

## 参考文献

- 馬場悠男（1991）人体計測法 II 人骨計測法．人類学講座別巻 1，雄山閣出版．
- 馬場悠男・坂上和弘（2012）第 4 章第 1 節寛永寺徳川將軍親族遺体の形態学的研究．寛永寺谷中徳川家近世墓所調査団編，東叡山寛永寺徳川將軍家御裏方霊．吉川弘文館．pp. 223-394.
- Buikstra J.H. and Ubelaker D.H. (1994) Standards for Data Collection from Human Skeletal Remains. Fayetteville, Arkansas :Arkansas Archaeological Survey Report Number44.
- Brooks S. and Suchey J.M. (1990) Skeletal age determination based on the os pubis: A comparison of the Acsadi-Nemeskeri and Suchey-Brooks methods. Human Evolution 5, 227-238.
- 速水融（2000）歴史人口でみた日本 文春新書
- 平本嘉助（1972）縄文時代から現代に至る関東地方人身長の時代変化 人類誌、221-236
- 平本嘉助（2004）江戸時代人の身長と棺の大きさ．江戸遺跡研究会編，墓と埋葬と江戸時代，吉川弘文館，東京，pp. 201-223.
- 原田忠昭（1954）西南日本人頭蓋骨の人類学的研究人類学的研究．人類学研究 1，11-51.
- 井汲隆夫（1991）内部施設と葬法．発昌寺跡，新宿区南元町遺跡調査会．東京，pp135-138
- 欠田早苗（1959）畿内人頭蓋骨の人類学的研究—現代畿内人骨と江戸時代後期墳墓骨について—．人類学輯報 25，53-83.
- 加藤征（1991）江戸時代人骨の形質に関する人類学的研究．平成 2 年度科学研究費補助金一般研究 B 研究成果報告．川久保善智・澤田純明・大野憲五・竹下直美・隅康二・埴原恒彦（2011）第 7 章 1：東畑瀬遺跡 9 区から出土した人骨について．東畑瀬遺跡 3 東畑瀬遺跡 6G・7・9 区—嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 6—．218-239.

- 河本美夫 (1959) 久世家歴代の頭骨に就いて 第2部頭蓋観察 人類学研究 6, 341-400.
- 九州大学医学部解剖第二講座編 (1988) 日本民族・文化の生成 2.九州大学医学部解剖第二講座所蔵個人骨資料集成, 六興出版.
- Lovejoy C.O., Meindl R.S., Pryzbeck T.R., Mensforth R.P. (1985) Chronological metamorphosis of the auricular surface of the ilium: a new method for the determination of adult skeletal age at death. *American Journal of Physical Anthropology*, 68, 15-28.
- Martin, R., Saller, K. (1957) *Lehrbuch der anthropologie*. Fischer, Stuttgart.
- 森田茂 (1950) 関東地方人頭蓋骨の人類学的研究. 東京慈恵医科大学解剖学教室業績集 3, 1-54.
- 中橋孝博・土肥直美 (2008) 原田第1・2・40・41号墓地出土の近世人骨. 原田第1・2・40・41号墓地下巻, 筑紫野市教育委員会.
- 中井歩・福永将大・米元史織・岩橋由季・谷澤亜里・早川和賀子・舟橋京子・足立達朗・中野伸彦・小山内康人・田中良之 (2015) 古野遺跡第2次調査出土近世人骨について. 大野城市教育委員会編, 乙金区画整理地内埋蔵文化財調査報告書 乙金遺跡群-古野第2遺跡調査-
- 小野千吉郎 (1957) 久世家歴代の頭骨に就いて 第一部頭蓋計測 人類学雑誌 95, pp. 89 - 106.
- 岡崎健治・重松辰治・舟橋京子・石川健・田中良之 (2004) 稲荷谷近世墓地群から出土した近世人骨. 国道502号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書, 262-323.
- 大川市教育委員会編 1997 大川市文化財調査報告書4: 西新開遺跡, 大川市教育委員会
- 大野城市教育委員会編 2017 薬師の森遺跡第43次・善一田遺跡第6・7次・古野遺跡第7次調査. 大野城市文化財調査報告書 第146集・乙金第二土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書19・乙金地区遺跡群19, 大野城市教育委員会.
- Sakaue K. (2006) Application of the Suchey-Brooks system of pubic age estimation to recent Japanese skeletal material. *Anthropol Sci* 114:59-64.
- Sakaue K (2012) Craniofacial Variation among the Common People of the Edo Period. *Bull Natl Mus Nat Sci, Ser D* 38:39-49.
- 坂田邦洋 (1996) 比較人類学. 青山社.
- 鈴木尚 (1985a) 骨は語る 徳川将軍・大名家の人びと. 財団法人東京大学出版.
- 鈴木尚 (1985b) 江戸時代における貴族形質の顕現. 人類学雑誌 93 (1), 1-32.
- 谷川章雄 (2004) 江戸の埋葬施設と副葬品. 江戸遺跡研究会編, 墓と埋葬と江戸時代, 吉川弘文館, 東京, pp. 224-250.
- 栃原博 (1957) 日本人歯牙の咬耗に関する研究. 熊本医学会雑誌, 31.
- Ubelaker, D.H. (1989) *Human Skeletal Remains: Excavation, Analysis, Interpretation* (2nd Edition). Washington, D.C.: Taraxacum.
- 米元史織・高椋浩史・李ハヤン・岩橋由季・谷澤亜里・早川和賀子・中井歩・舟橋京子・田中良之 (2013) 自然科学分析-福岡県大野城市原口遺跡第4次調査B区出土近世人骨について-. 乙金地区遺跡群7~原口遺跡第1~4次調査~ 大野城市教育委員会

表1 瑞穂遺跡出土人骨一覽

調査次数	人骨番号	保存状態	性別	年齢	頭位	躯体正面	埋葬姿勢	改葬	持ち去り部位	備考(病変などの所見)	
7	SX-04	○	女性	成年~熟年	-	西	襖棺	立膝坐葬	無し		前耳状溝あり、CO有、上顎左右第2大臼歯・下顎の右第2大臼歯う蝕
	SX-05	△	女性	成人	-	西?	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢・骨盤	胸椎にLipping、膝蓋骨関節面に関節炎
	SX-07	○	男性	老年	-	西	襖棺	立膝坐葬	無し		腰椎Lipping
	SX-09	×	女性	成人	-	北西	円形木棺	坐葬	不明		
	SX-10	×	不明	不明	西	東	襖棺	坐葬	無し?		
	SX-14	×	女性	成年~熟年	-	南東	方形木棺	立膝坐葬	無し?		
	SX-15	×	女性	成人	不明	不明	円形木棺	坐葬	不明		
	SX-16	×	不明	成人	北	-	長方形木棺?	仰臥屈葬	無し		
	SX-17	×	不明	熟年以上	-	不明	円形木棺	坐葬	不明		
	SX-18	×	不明	成人	北東	-	長方形木棺?	右側臥屈葬	無し		
	SX-19	×	女性	成年	-	西	円形木棺	坐葬	無し?		
	SX-22	×	男性	成人	北	-	長方形木棺	仰臥屈葬	無し		
	SX-32	×	不明	不明	北	-	長方形木棺?	屈葬	無し?		
	SX-33	×	不明	不明	-	西	方形木棺	坐葬	無し?		
	SX-34	×	女性	成年~熟年	-	南西?	方形木棺?	坐葬	あり?	四肢	
	SX-37	△	女性	熟年以上	北	-	長方形木棺?	仰臥屈葬	無し		上顎犬歯にLEH有り
	SX-38	△	男性	熟年	南西	北東	方形木棺	胡座坐葬	無し		上顎犬歯にLEH有り
	SX-41	×	不明	成人	西	-	長方形木棺?	仰臥屈葬	無し		
	SX-42	×	不明	熟年~老年	北西	-	長方形木棺?	仰臥屈葬	無し?		
	SX-45	△	不明	熟年~老年	-	北	方形木棺	胡座坐葬			
	SX-47	×	不明	不明	北東	-	長方形木棺?	仰臥屈葬	無し?		
	SX-50	×	男性	熟年	西	-	長方形木棺?	仰臥屈葬	無し		
	SX-51	△	男性	成年	-	東	方形木棺	坐葬	無し		上顎左小臼歯・下顎左第2大臼歯う蝕
	SX-55	×	不明	不明	-	-	不明	不明	不明		
	SX-57	△	女性	成人	-	不明	方形木棺?	坐葬	不明		
	SX-58	△	男性	成年後半~熟年前半	-	不明	方形木棺?	坐葬	あり	四肢(左側)	
	SX-61	×	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明		
	SX-62	×	不明	成年後半以上	北	-	長方形木棺?	屈葬	無し?		下顎犬歯LEH
	SX-63	○	男性	熟年以上	北東	-	長方形木棺?	仰臥屈葬	無し		
	SX-67	○	男性	成人	不明	不明	不明	不明	無し?		
SX-68	○	女性	成人	北	-	長方形木棺?	仰臥屈葬	無し		下顎左右第一大臼歯う蝕	
SX-69	×	不明	成人	不明	不明	円形木棺?	坐葬?	不明			
SX-70	×	男性	熟年	-	不明	円形木棺	坐葬	不明			
8	SX-78	×	男性	熟年	-	南東	円形木棺	坐葬	無し		上顎左右中切歯LEH
	SX-79	○	男性	熟年	北東	南西	方形木棺	坐葬	無し		下顎犬歯LEH
7	SX-80	×	男性?	成人	不明	不明	襖棺	坐葬	あり	頸蓋・四肢・骨盤	胸椎にLipping
	SX-82	×	男性	成人	北	-	長方形木棺?	仰臥屈葬	無し		上顎左側犬歯LEH
8	SX-83	△	男性	成年後半~老年	-	西	方形木棺	胡座坐葬	あり	頸蓋	
	SX-84	×	女性か?	成人	-	南	円形木棺	坐葬	無し?		
	SX-85	×	不明	熟年以上	-	北	円形木棺	坐葬	無し?		歯石沈着
	SX-87	○	男性	老年	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢	腰椎Lipping
	SX-88	×	女性	熟年	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢・骨盤	上顎左側犬歯LEH
	SX-89	×	不明	不明	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢・骨盤	
	SX-92	×	男性	熟年	-	北西	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢	第5腰椎・仙骨Lipping
	SX-94	×	不明	不明	不明	不明	円形木棺?	坐葬?	あり	頸蓋・四肢・骨盤	
	SX-95	×	男性	熟年~老年	南	-	長方形木棺	仰臥屈葬	無し		
	SX-96	×	女性	成人	不明	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢・骨盤	右桡骨骨折
	SX-97	△	女性	成年前半	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢・骨盤	
	SX-98	×	男性?	成人	不明	不明	円形木棺?	坐葬?	不明		
	SX-100	×	不明	不明	不明	不明	襖棺	坐葬?	あり	ほぼ全身	
	SX-102	×	不明	成年	不明	不明	方形木棺?	坐葬?	あり?	頸蓋・四肢・骨盤	
	SX-103	○	女性	成年~熟年	北	-	長方形木棺?	仰臥屈葬	無し		
	SX-104	×	不明	成人	-	不明	円形木棺?	坐葬?	不明		
	SX-107	○	女性	老年	-	西	襖棺	坐葬	再開口		頸椎・胸椎Lipping、前耳状溝あり
	SX-117	×	不明	若年	北	-	長方形木棺?	屈葬	無し?		
	SX-122	×	不明	不明	-	-	円形木棺?	坐葬?	不明		
	SX-125	×	女性	成人	北	-	長方形木棺?	屈葬	無し?		
	SX-126	×	不明	不明	北	-	長方形木棺?	屈葬	無し?		
	SX-127	×	不明	成人	-	北	方形木棺?	坐葬	無し		
	SX-128	×	不明	成人	北	-	長方形木棺?	右側臥屈葬	無し		
	SX-129	△	女性	成年	-	北	方形木棺?	坐葬	無し		
	SX-130	×	不明	成人	-	不明	円形木棺?	坐葬?	不明		
	SX-131	△	女性	熟年	-	不明	円形木棺?	坐葬?	不明		
	SX-133	△	男性	成年	北	-	長方形木棺?	右側臥屈葬	無し		下顎右側犬歯LEH有り、椎骨Lipping、歯石沈着
	SX-134	×	不明	不明	北	-	長方形木棺?	屈葬	無し?		
	SX-135	×	不明	成年	北	-	長方形木棺?	屈葬	無し?		上顎右側犬歯LEH
	SX-136	×	不明	不明	不明	不明	不明	不明	あり?		
	SX-137	×	男性	成人	北	-	長方形木棺?	屈葬	無し?		
	SX-139	×	女性	成人	北西	-	長方形木棺?	屈葬	不明		
	SX-146	×	不明	不明	北	-	長方形木棺?	屈葬	無し?		
	SX-147	×	女性	熟年以上	北西	-	不明	不明	無し?		前耳状溝あり
	SX-148	×	男性	不明	不明	不明	不明	不明	不明		
	SX-149	×	女性?	熟年	北西	-	長方形木棺?	仰臥屈葬	無し?		
	SX-150	×	女性	成人	-	西	円形木棺	坐葬	無し		
	SX-151	×	男性	成人	不明	-	長方形木棺?	屈葬?	不明		
	SX-152	×	不明	不明	-	不明	方形木棺?	坐葬?	不明		
	SX-154	×	不明	不明	北西	-	長方形木棺?	屈葬	無し?		
SX-158	△	女性?	成人	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢・骨盤	頸椎Lipping、胸椎癒合、腰椎Lipping	
SX-161	△	女性	熟年	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢・骨盤	前耳状溝あり	
SX-166	△	男性	熟年以上	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢		
SX-169	△	男性	成人	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢・骨盤	腰椎Lipping	
SX-170	×	不明	未成年	-	南西	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢		
SX-172	×	不明	3~5歳	-	西	襖棺	坐葬?	無し			
SX-173	×	不明	不明	北東	-	長方形木棺?	屈葬?	不明			
SX-174	△	男性	熟年	-	不明	襖棺	坐葬	あり	仙骨	腰椎Lipping	
SX-176	◎	女性	若年	-	不明	襖棺	坐葬	再開口		前耳状溝あり、上顎右側第2大臼歯および上顎左側第2小臼歯・第1大臼歯齲蝕、右大腿骨頸部に骨増殖	
SX-178	×	女性	老年	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢・骨盤	腰椎Lipping	
SX-179	△	男性か?	若年	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・骨盤	左脛骨の近位外側に骨増殖有り	
SX-180	◎	男性	老年	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・四肢・骨盤	腰椎Lipping、前耳状溝あり	
SX-184	×	不明	不明	-	不明	円形木棺?	坐葬	不明			
SX-190	×	不明	成人	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	頸蓋・脛骨		
仮A	△	女性	熟年以上	-	不明	襖棺	坐葬?	あり	四肢	腰椎Lipping、前耳状溝あり、COあり	
人骨ごと取り上げたカメ	×	不明	不明								

表2 頭蓋計測値の比較（男性）（単位は cm）

Martin No.	瑞穂遺跡出土近世人骨			古野 <sup>1)</sup>		原口SX39 <sup>2)</sup>		江戸市中武士層 (薙) <sup>3)</sup>		江戸市中庶民層 (早桶) <sup>3)</sup>		原田 <sup>4)</sup>		開善寺 <sup>5)</sup>		稲荷谷 <sup>6)</sup>	
	男性			男性		男性		男性		男性		男性		男性		男性	
	N	M	S.D	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
1 最大長	2	182.5	2.1	1	175.0	1	177	50	177.4	131	181.5	25	185.3	6	185.2	14	175.4
8 最大幅	2	141.5	4.9	1	133.0	1	134	50	141.3	131	138.5	26	135.9	4	138.8	15	142.4
17 バジオン・プレグマ高	1	133.0		1	130.0	1	126	50	138.0	131	136.2	20	138.4	1	143.0	8	138.9
8/1 頭長幅示数	2	77.5	1.8	1	76.0	1	75.7	50	80.0	131	76.0	25	73.6	4	75.2	14	80.7
17/1 頭長高示数	1	73.5		1	74.3	1	71.2	50	78.0	131	75.0	19	75.0	1	75.7	8	79.7
17/8 頭幅高示数	1	96.4		1	97.7	1	94	50	98.0	131	98.0	19	101.0			8	96.9
45 頬骨弓幅	1	126.0		1	127.0	1	135	50	133.1	131	134.9	19	136.1	3	136.3	8	137.4
46 中顔幅	4	99.3	4.3	1	86.0	1	105	50	97.3	131	99.9	18	99.5	4	98.3	7	97.7
47 顔高						1	102					11	121.6	1	133.0	6	128.0
48 上顔高	5	65.6	4.2					50	73.7	131	72.2	17	72.8	3	71.0	7	75.6
47/45 顔示数 (K)						1	75.6					10	89.6			6	93.9
47/46 顔示数 (V)						1	97.1					9	122.5			6	131.1
48/45 上顔示数 (K)	1	54.8						50	55.0	131	54.0	14	53.3	2	51.4	6	56.1
48/46 上顔示数 (V)	3	67.0	3.5					50	76.0	131	72.0	11	73.4	2	72.4	6	78.3
51 眼高幅	3	40.3	3.2	1	40.0	1	41	50	43.4	131	43.3	24	42.2	4	43.0	8	44.6
52 眼高高	2	31.5	0.7	1	34.0	1	35	50	35.6	131	34.1	24	35.0	2	35.5	8	36.9
52/51(L) 眼高示数	2	77.2	6.3	1	85.0	1	85.4	50	82.0	131	79.0	24	83.0	1	78.7	8	82.7
54 鼻幅	5	24.8	2.2	1	25.0	1	27	50	24.5	131	25.6	23	25.6	2	23.5	7	26.1
55 鼻高	6	49.8	2.1	1	51.0	1	46	50	53.6	131	52.3	25	51.2	3	56.7	7	54.4
54/55 鼻示数	6	41.3	20.8	1	49.0	1	58.7	50	46.0	131	48.9	23	50.0	2	40.8	7	48.1
M50 前眼高間幅	0			1	15	1	16	50	16.9	131	16.9	22	19.1	4	18.0	6	16.7
F 鼻根横弧長	0			1	22	1	20					22	21.9	4	22.0	6	19.5
50/F 鼻根湾曲示数	0			1	68.2	1	80					22	87.3	4	81.8	6	85.2
M57 鼻骨最小幅	0			1	6	1	6	50	7.2	131	7.3	26	8.2	4	8.3	6	8.6

Martin No.	天福寺 <sup>6)</sup>		宗玄寺 <sup>7)</sup>		京町 <sup>8)</sup>		将軍家 (計) <sup>9)</sup>		牧野家 <sup>10)</sup> (近世)		畿内 <sup>11)</sup> (現代)		西南日本 <sup>12)</sup> (現代)		関東 <sup>13)</sup> (現代)	
	男性		男性		男性		男性		男性		男性		男性		男性	
	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
1 最大長	38	182.6	36	180.8	37	180.3	6	183.5	9	174.8	37	177.3	108	181.4	143	178.9
8 最大幅	38	138.6	44	135.2	30	135.2	6	145.7	8	141.5	37	142.9	108	139.3	143	140.3
17 バジオン・プレグマ高	33	139.2	31	136.9	14	136.9	6	141.3	9	137.7	37	139.1	108	139.3	143	138.1
8/1 頭長幅示数	37	76.0	35	78.3	23	74.6	6	79.5	8	81.3	37	80.7	108	76.6	143	78.5
17/1 頭長高示数	33	76.2	26	75.1	11	75.7	6	75.8	9	78.8	37	78.4	108	76.9	143	77.3
17/8 頭幅高示数	33	100.8	29	96.9	12	101.8	6	97.1	8	97.6	37	97.5	108	100.1	143	98.6
45 頬骨弓幅	25	136.4	18	135.9	2	135.0	6	131.3	7	129.3	32	133.5	106	134.5	144	132.9
46 中顔幅	24	101.8	31	99.0	24	98.1	3	90.0	8	93.0	32	97.2	107	99.9	143	98.6
47 顔高	14	126.9	18	128.9	14	125.0	5	138.2	5	125.4			66	122.2	142	123.8
48 上顔高	18	74.5	17	73.3	19	70.3	6	79.8	5	73.0	30	69.9	92	71.8	144	70.7
47/45 顔示数 (K)	13	93.2	10	93.3	1	93.3	5	102.6	5	96.9			64	91.4	142	93.1
47/46 顔示数 (V)	13	123.9	17	130.1	8	127.1	2	150.3	5	132.3			65	122.2	141	125.4
48/45 上顔示数 (K)	17	54.4	8	54.4	2	52.6	6	61.1	5	56.4	27	52.3	90	53.5	144	53.3
48/46 上顔示数 (V)	17	73.1	16	73.5	12	70.2	3	87.8	5	77.0	28	72.1	91	71.8	143	71.8
51 眼高幅	24	42.6	29	43.7	29	42.7	6	44.7	9	44.3	37	41.8	108	43.0	142	42.7
52 眼高高	24	34.1	34	36.1	32	35.0	6	38.3	9	37.8	37	35.1	108	34.4	144	34.3
52/51(L) 眼高示数	24	80.9	29	83.1	26	81.2	6	86.9	9	85.3	37	84.0	108	80.2	142	80.4
54 鼻幅	24	26.5	28	25.4	32	25.5	6	24.0	9	22.9	37	25.0	108	25.9	144	25.0
55 鼻高	24	52.9	31	55.5	32	52.4	6	58.7	9	54.3	37	53.4	108	52.2	143	52.0
54/55 鼻示数	24	50.1	28	45.9	28	49.2	6	40.8	9	42.2	37	47.0	108	49.8	143	48.4
M50 前眼高間幅			27	17.67			3	14.7	9	15.6	37	18.3	108	17.4	142	17.8
F 鼻根横弧長							3	19.0								
50/F 鼻根湾曲示数							3	77.367								
M57 鼻骨最小幅			29	7.38					9	6.2	36	6.3	108	7.1	144	7.0

1) 中井ほか 2) 米元ほか (2013) 3) 坂上 (2012)、4) 中橋・土肥 (2008)、5) 松下 (2005)、6) 岡崎ほか (2004)、7) 中橋 (1987)、8) 松下 (1993)  
 9) 鈴木尚 (1985a)、10) 鈴木尚 (1985b)、11) 加藤 (1991)、12) 川久保ほか (2011)、13) 欠田 (1959)

表3 頭蓋計測値の比較(女性)(単位はcm)

Martin No.	種々遺跡出土近世人骨																				
	江戸市中武士層(豊)			江戸市中市民層(平橋) <sup>1)</sup>			原田 <sup>2)</sup>		開善寺 <sup>3)</sup>		稲荷谷 <sup>4)</sup>		天福寺 <sup>5)</sup>		牧野家 <sup>6)</sup>		西南日本 <sup>7)</sup> (現代)		関東 <sup>8)</sup> (現代)		
	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	女性	
N	M	S.D	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	
1 最大長	5	177.0	3.5	48	169.1	70	172.3	26	172.8	6.0	172.3	14	164.1	38	174.7	3	167.0	42	172.8	82	170.8
8 最大幅	5	136.4	7.7	48	135.3	70	133.2	26	131.1	5.0	136.2	15	135.8	38	133.5	4	133.8	42	133.8	82	135.9
17 バジオン・ブレジマ高	4	135.8	6.6	48	132.0	70	130.6	23	131.3	2.0	132.0	11	130.3	35	132.7	4	131.3	42	131.5	81	132.5
8/1 頭長幅示数	5	77.1	4.2	48	80.0	70	77.0	24	75.5	5.0	78.7	14	83.4	38	76.5	2	80.4	42	77.5	82	79.7
17/1 頭長高示数	4	76.9	2.9	48	78.0	70	76.0	22	76.1	2.0	77.4	11	79.5	35	76.1	2	77.7	42	76.2	81	77.7
17/8 頭幅高示数	4	99.0	2.5	48	98.0	70	98.0	20	100.9	2.0	102.3	11	96.5	35	99.4	3	98.0	42	98.4	81	97.7
45 頬骨弓幅	4	135.3	5.3	48	123.8	70	125.0	19	123.7	2.0	126.5	7	122.3	30	126.5	2	114.5	42	124.3	84	124.9
46 中顔幅	5	98.0	8.3	48	92.2	70	93.3	19	94.5	2.0	90.0	5	88.8	25	95.5	2	83.5	42	93.6	84	93.5
47 顔高	1	119.0	-	-	-	-	-	13	112.2	1.0	115.0	4	113.5	15	115.9	-	-	10	113.0	84	115.0
48 上顔高	5	67.8	4.9	48	68.5	70	66.7	16	67.1	2.0	64.5	5	66.2	22	68.8	1	67.0	48	68.6	83	67.1
47/45 顔示数(K)	1	93.0	-	-	-	-	-	10	92.0	1.0	95.8	3	92.2	15	91.1	-	-	10	90.5	84	92.2
47/46 顔示数(V)	1	125.3	-	-	-	-	-	8	118.1	1.0	127.8	3	127.6	15	120.9	-	-	10	118.3	84	123.3
48/45 上顔示数(K)	3	51.1	3.9	48	55.0	70	53.0	12	54.6	1.0	51.7	5	53.6	22	54.3	-	-	40	55.1	83	53.8
48/46 上顔示数(V)	4	69.4	8.3	48	75.0	70	72.0	11	71.6	2	71.7	5	74.5	22	71.8	-	-	40	73.2	83	72.0
51 眼窩幅(L)	3	42.0	1.0	48	41.2	70	40.8	19	40.4	2	40.5	6	41.7	30	40.5	2	39.5	42	40.7	84	41.1
52 眼窩高(L)	5	31.4	1.1	48	34.6	70	33.3	17	33.9	3	33.7	6	36.3	30	34.3	1	35.0	42	34.0	84	33.8
52/51(L) 眼窩示数	3	75.4	1.9	48	84.0	70	82.0	17	84.2	2	81.5	6	87.2	29	84.8	1	89.7	42	83.7	84	82.4
54 鼻幅	5	24.8	2.2	48	24.5	70	24.4	24	25.0	2	22.0	7	25.9	26	25.3	1	24.0	42	25.2	84	24.5
55 鼻高	5	49.0	4.2	48	49.4	70	48.5	25	47.2	2	49.0	7	48.9	28	49.9	2	49.0	42	48.7	84	49.0
54/55 鼻示数	5	50.8	5.2	48	50.0	70	51.0	24	53.0	2	45.2	7	52.9	26	51.0	1	48.0	42	51.9	84	50.2
M50 前眼窩間幅	2	18.0	1.4	48	16.3	70	16.4	25	17.0	1	14.0	7	16.3	-	-	2	14.0	57	16.8	84	17.4
F 鼻根線弧長	2	23.0	1.4	-	-	-	-	24	19.1	1	17.0	7	18.5	-	-	-	-	57	19.6	-	-
50/F 鼻根湾曲示数	2	78.2	1.3	-	-	-	-	24	89.0	1	82.4	7	88.9	-	-	-	-	57	88.7	-	-
M57 鼻骨最小幅	2	4.5	3.5	48	7.8	70	7.0	25	7.5	-	-	5	7.7	-	-	-	-	57	8.6	84	7.1

Martin No.	家茂正室 <sup>9)</sup>	6代側室法心院 <sup>10)</sup>	6代側室蓮淨院 <sup>11)</sup>	9代側室安祥院 <sup>12)</sup>	12代側室本寿院 <sup>13)</sup>	14代生母実成院 <sup>14)</sup>	10代正室心聡院 <sup>15)</sup>	9代正室聖明院 <sup>16)</sup>	13代正室澄心院 <sup>17)</sup>	不明側室 <sup>18)</sup>	11代側室香琳院 <sup>19)</sup>	10代側室蓮光院 <sup>20)</sup>	8代生母淨円院 <sup>21)</sup>	内藤頼正 <sup>22)</sup>	内藤長好 <sup>23)</sup>	内藤頼季 <sup>24)</sup>	内藤頼家 <sup>25)</sup>	内藤頼直 <sup>26)</sup>	水野忠友 <sup>27)</sup>	水野忠誠 <sup>28)</sup>
1 最大長	173.0	174.0	171.8	172.1	161.4	169.9	166.0	166.9	159.0	164.8	170.0	174.8	173.3	165.0	172.0	167.0	176.0	172.0	183.5	175.2
8 最大幅	144.0	131.1	137.8	139.1	136.3	140.0	143.0	135.8	126.8	136.8	141.1	139.8	139.5	145.0	140.0	140.0	141.0	140.0	143.5	137.0
17 バジオン・ブレジマ高	141.0	133.0	139.1	138.9	130.1	128.9	123.8	134.8	126.7	133.2	138.3	124.9	142.0	133.0	130.0	132.0	136.0	142.0	136.5	132.8
8/1 頭長幅示数	83.3	75.3	80.2	80.8	84.4	82.4	86.1	81.4	79.7	83.0	83.0	80.0	80.5	87.9	81.4	84.3	80.1	81.4	-	78.1
17/1 頭長高示数	81.5	76.4	80.9	80.7	80.6	75.9	74.5	80.8	79.7	80.8	81.3	71.5	81.9	80.6	75.6	79.0	77.3	82.6	-	75.8
17/8 頭幅高示数	98.0	102.1	100.9	99.9	95.5	92.1	86.2	99.2	99.9	97.3	98.0	89.3	101.8	91.7	93.5	94.3	96.5	101.4	-	96.9
45 頬骨弓幅	114.0	123.4	123.6	131.3	118.6	121.6	120.5	119.4	107.5	120.9	124.2	124.9	134.1	120.0	117.0	124.0	121.0	119.0	-	118.2
46 中顔幅	83.0	90.9	86.3	96.4	83.8	84.4	85.5	87.9	79.3	89.8	94.9	89.9	95.4	91.0	88.0	93.0	89.0	88.0	-	90.0
47 顔高	114.0	-	-	121.7	-	-	111.0	120.1	100.7	-	117.4	115.4	124.5	-	114.0	119.0	119.0	-	-	-
48 上顔高	66.0	-	-	69.6	-	-	70.0	67.8	64.8	71.2	72.8	70.5	74.1	-	65.0	72.0	67.0	-	-	65.7
47/45 顔示数(K)	100.0	-	-	92.7	-	-	92.1	100.5	93.6	-	94.5	92.4	92.8	-	97.4	96.0	98.4	-	-	-
47/46 顔示数(V)	137.3	-	-	126.2	-	-	129.8	136.5	127.0	-	123.8	128.3	130.4	119.8	129.6	128.0	133.7	-	-	-
48/45 上顔示数(K)	57.9	-	-	53.0	-	-	58.1	56.8	60.2	58.9	58.6	56.5	55.3	-	55.6	58.1	55.4	-	-	-
48/46 上顔示数(V)	79.5	-	-	72.2	-	-	81.9	77.1	81.7	79.2	76.7	78.4	77.7	-	73.9	77.4	75.3	-	-	-
51 眼窩幅(L)	42.0	40.1	42.1	41.4	37.9	40.7	38.1	41.0	35.5	39.7	39.8	42.3	42.7	37.0	37.0	39.0	40.0	42.5	42.5	39.8
52 眼窩高(L)	37.0	35.2	36.0	32.1	34.9	34.7	34.8	35.9	37.5	36.4	35.0	38.4	35.1	34.0	36.0	37.0	36.0	37.5	-	36.2
52/51(L) 眼窩示数	88.2	87.9	85.6	77.5	92.1	85.1	91.3	87.5	105.4	91.7	88.0	90.9	82.2	91.9	97.3	94.9	90.0	88.2	-	-
54 鼻幅	25.0	26.3	24.7	26.8	27.3	26.0	24.9	23.3	19.4	21.7	22.4	25.4	25.5	25.0	21.0	21.0	24.0	24.0	-	24.8
55 鼻高	51.0	52.2	47.8	49.7	51.1	50.3	47.7	47.8	46.7	49.8	50.2	51.6	50.9	50.0	48.0	54.0	51.0	54.0	52.7	49.5
54/55 鼻示数	49.0	50.4	51.6	53.9	53.5	51.7	52.2	48.9	41.5	43.5	44.6	49.2	50.2	50.0	43.8	38.9	47.1	44.4	-	-
M50 前眼窩間幅	17.0	17.5	16.9	15.0	14.9	15.5	14.1	16.7	12.2	15.3	15.5	18.3	18.3	19.0	15.0	20.0	14.0	16.0	-	16.5
F 鼻根線弧長	19.0	20.0	21.0	19.0	22.0	20.0	18.0	21.5	17.0	19.0	19.0	21.0	21.9	24.1	18.0	24.0	16.5	22.0	-	-
50/F 鼻根湾曲示数	89.5	87.7	80.5	78.7	67.7	77.5	78.4	77.7	71.8	80.6	81.8	87.1	83.6	78.8	83.3	83.3	84.8	72.7	-	-
M57 鼻骨最小幅	-	4.9	8.1	6.4	7.9	8.1	5.4	5.6	4.7	6.3	7.8	9.6	7.2	-	-	-	-	-	-	-

1)原上(2012)、2)中橋・土肥(2008)、3)松下(2005)、4)岡崎社(2004)5)中橋(1987)、6)加藤(1991)、7)原田(1954)、8)森田(1950)、9)鈴木尚(1985b)、10)高橋・坂上(2012)

表7 上肢の計測値の比較（男性）（単位は cm）比較集団は左側の値のみ提示

Martin No.	瑞穂遺跡出土近世人骨																											
	男性				男性				古野 <sup>1)</sup>		原口 <sup>2)</sup>		天徳寺 <sup>3)</sup>		芝公園 <sup>4)</sup>		原田 <sup>5)</sup>		稲荷谷 <sup>5)</sup>		天福寺 <sup>6)</sup>		小倉京町 <sup>7)</sup>		久世 <sup>8)</sup>		九州 <sup>9-10)</sup> (現代)	
	N	M	L	S.D.	N	M	R	S.D.	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
上腕骨																												
1最大長	2	298.5	4.9	2	299.5	2.1	2	287.0	2	287.0	42	289.5	14	301.4	15	294.4	6	293.2	21	296.9	5	278.8	1	301.5	106	295.3		
2全長	2	293.5	2.1	1	297.0			1	295.0	2	283.0	41	285.7	14	297.0	15	290.3	8	287.0	19	293.3	5	276.8	1	298	106	290.6	
5中央最大径	7	22.7	1.1	6	23.0	2.3	1	23.0	2	22.0	83	22.4	47	22.2	22	22.8	6	22.7	22	23.1	11	23.2	6	21.8	106	21.9		
6中央最小径	7	17.9	1.2	6	17.5	1.0	1	17.0	2	20.1	83	17.0	47	17.3	22	17.8	6	18.5	22	17.7	11	18.0	6	16.8	106	16.9		
7骨体最小周	6	64.8	3.2	5	65.6	2.1	2	63.5	3	61.0	-	-	46	62.0	28	63.5	16	62.3	22	63.8	9	65.9	5	64.6	106	61.8		
7a中央周	7	68.4	4.0	5	70.4	1.5	1	67.0	2	66.5	83	64.9	47	65.7	22	67.8	6	64.5	22	66.5	10	69.0	6	65.8	106	63.7		
6/5骨体断面示数	7	78.7	3.6	6	76.6	7.1	1	-	2	90.7	83	76.2	47	78.4	22	78.4	6	81.8	22	77.6	10	77.8	6	76.6	106	79.1		
7/1長厚示数	1	22.0		2	22.2	0.1	2	-	2	21.8	42	22.3	14	21.0	15	21.4	6	21.1	16	21.3	6	21.6	1	20.9	106	20.9		
桡骨																												
1最大長	3	230.7	12.1	2	229.5	17.7	3	220.3	3	216.3	54	222.8	23	226.9	14	225.8	5	219.6	23	228.5	4	215.8	5	230.4	64	219.9		
2機能長	4	215.0	8.8	2	215.0	15.6	3	209.0	3	206.0	55	208.4	24	212.8	17	211.8	7	207.7	23	212.2	2	196.5	6	211.7	64	208.2		
3最小周	4	44.8	2.9	2	43.5	0.7	3	41.3	4	41.5	82	39.9	50	40.4	30	43.6	12	39.8	23	42.2	10	43.3	6	42.1	63	40.1		
4骨体横径	8	17.1	2.0	5	17.0	1.2	3	16.3	4	16.4	84	16.5	51	16.2	32	17.1	14	17.5	23	17.5	12	17.6			63	16.0		
4a骨体中央横径	4	15.8	2.2	2	16.5	0.7	3	15.7	3	14.1	83	15.1	52	14.9	18	15.8	5	15.2	23	15.7	3	16.0	6	14.8	63	15.2		
5骨体矢状径	8	12.1	0.6	5	12.8	0.4	3	12.3	4	12.1	84	11.7	51	11.6	32	12.2	14	12.2	23	12.6	12	12.3	6	11.7	63	11.7		
5a骨体中央矢状径	4	12.3	1.0	2	12.0	0.0	3	12.7	3	13.5	83	11.9	52	11.8	18	12.4	5	12.2	14	12.6	3	13.0			63	11.9		
3/2長厚示数	3	19.9	0.6	2	20.3	1.1	3	19.8	3	19.3	55	19.3	23	19.4	16	20.5	6	18.9	21	19.8	2	22.1	6	19.9	61	20.4		
5/4骨体断面示数	8	71.5	8.2	5	75.5	3.3	3	75.6	4	73.8	84	71.2	51	71.9	32	71.7	14	70.0	23	72.0	12	69.8			60	71.4		
5a/4a中央断面示数	4	78.5	9.1	2	72.8	3.1	3	81.0	3	82.9	83	78.9	52	79.2	18	79.1	5	80.3	22	80.3	3	81.5			40	77.9		
尺骨																												
1最大長	2	247.0	12.7	4	247.8	8.3	2	237.0	2	229.5	51	239.2	25	243.0	10	247.8	6	236.2	18	244.6	3	231.0	4	244.8	62	236.2		
2機能長	3	214.0	8.9	4	216.3	7.5	2	210.0	2	206.0	58	209.1	27	213.1	14	216.7	11	206.8	18	214.6	3	203.7	4	211.5	64	209.2		
3最小周	3	40.3	2.5	4	40.5	1.0	2	33.5	2	35.0	78	35.4	46	35.8	24	40.9	12	34.8	20	37.5	4	39.3	4	35.9	65	35.8		
11矢状径	7	12.9	1.2	4	13.0	0.8	2	13.5	3	13.5	89	12.7	52	12.9	38	12.8	17	13.1	24	13.1	10	13.4	8	14.0	63	12.8		
12横径	7	17.0	1.2	4	18.3	1.5	2	16.0	3	16.8	89	16.4	52	15.9	37	17.0	17	16.4	24	17.0	10	16.9	7	15.0	64	16.5		
3/2長厚示数	3	18.9	1.9	4	18.8	1.0	2	-	2	17.0	58	17.0	27	17.0	14	18.7	11	16.8	18	17.5	3	18.9	4	17.7	63	17.0		
11/12骨体断面示数	7	75.7	5.7	4	71.7	7.9	2	-	3	80.7	89	78.3	52	81.8	37	75.5	17	80.2	23	77.9	10	79.8	8	86.8	63	74.9		

1)中井など、2)米元など、3)加藤 (1991)、4)中橋・土肥 (2008)、5)岡崎ほか (2004)、6)中橋 (1987)、7)松下 (1993)、8)九州大学医学部解剖学第2講座 (1988)、9)阿部 (1957)、10)藤橋 (1955)

表8 下肢の計測値の比較（男性）（単位は cm）

Martin No.	瑞穂遺跡出土近世人骨																											
	男性				男性				古野 <sup>1)</sup>		原口 <sup>2)</sup>		天徳寺 <sup>3)</sup>		芝公園 <sup>4)</sup>		原田 <sup>5)</sup>		稲荷谷 <sup>5)</sup>		天福寺 <sup>6)</sup>		小倉京町 <sup>7)</sup>		久世 <sup>8)</sup>		九州 <sup>9-10)</sup> (現代)	
	N	M	L	S.D.	N	M	R	S.D.	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
大腿骨																												
1最大長	1	422.0			4	420.3	25.1	1	412.0	1	418.0	41	405.2	18	415.8	24	420.2	9	407.4	19	416.9	10	410.2	2	430	59	407	
2自然位長					3	409.7	25.4	1	410.0	1	414.0	40	403.0	17	418.6	17	415.5	8	406.5	12	412.8	5	389.2	2	426	59	403	
6中央矢状径	3	25.7	3.2	7	26.4	2.9	1	29.0	1	25.0	93	27.3	51	27.2	43	28.2	20	28.4	18	27.7	26	28.0	6	28.3	59	27		
7中央横径	3	93.7	114.6	7	27.7	2.4	1	26.0	1	24.9	93	26.1	51	26.7	43	26.6	21	26.7	18	26.7	25	27.5	8	24.8	59	26		
8中央周	3	84.0	6.2	6	85.3	7.2	1	87.0	1	77.0	93	83.6	51	84.8	43	86.4	20	84.1	17	85.2	25	86.9	6	84.7	59	82		
9骨体上横径	5	31.2	2.8	8	32.0	2.5	1	32.0	3	30.1	92	31.3	51	31.2	42	31.6	20	30.6	17	30.2	20	31.8	8	31.8	59	29		
10骨体上矢状径	5	23.2	3.2	7	24.7	4.1	1	23.0	3	22.6	92	24.0	52	23.9	42	25.6	20	25.7	17	26.1	22	24.8	8	24.8	59	24		
8/2長厚示数	0				3	21.3	1.0	1	21.2	1	18.6	40	20.6	16	20.5	17	20.9	8	21.2	8	20.6	5	21.2	2	19.9	59	20	
6/7中央断面示数	3	95.1	11.7	7	95.7	11.4	1	111.5	1	100.4	93	105.1	51	102.1	43	106.3	20	106.7	17	103.4	25	101.9	6	114	59	104		
10/9上骨体断面示数	5	74.2	6.3	7	76.6	8.9	1	71.9	3	75.1	92	77.1	51	76.9	42	81.5	20	84.2	17	87.3	20	78.1	8	78.2	58	83		
脛骨																												
1全長	1	345.0			0				1	321.0	1	316.0	35	329.9	15	339.4	20	334.2	10	330.4	13	334.5	5	313.6	4	340	61	320
1a最大長	1	347.0			0				1	328.0	1	320.0	37	334.0	17	343.0	21	339.0	10	335.5	17	336.5	5	318.6	4	344	60	327
8中央最大径	4	26.0	2.4	3	28.0	4.6	1	27.0	1	26.8	83	27.7	48	28.7	25	28.7	10	28.7	13	29.6	6	27.7	9	27.4	61	28		
8a栄養孔位最大径	5	30.2	3.1	3	31.0	4.4	1	29.0	1	30.9	80	31.9	48	33.0	39	33.2	16	34.0	17	33.1	17	32.4			60	31		
9中央横径	4	21.0	2.0	3	20.3	3.1	1	20.0	1	19.6	83	20.7	48	20.8	25	22.5	10	21.6	13	22.0	6	21.3	7	20.1	61	21		
9a栄養孔位横径	5	22.4	1.9	3	21.3	3.1	1	23.0	1	20.9	81	23.2	49	23.5	39	24.7	16	24.6	17	23.9	18	23.4			61	24		
10中央周	3	74.7	8.1	2	75.0	14.1	1	74.0	1	74.0	83	76.8	48	78.8	25	80.9	10	77.2	13	79.5	6	76.8			62	78		
10a栄養孔位周	5	84.6	8.0	2	81.5	14.8	1	82.0	1	80.0	-	-	-	-	39	91.5	14	88.6	16	88.9	18	87.6			61	89		
10b最小周	4	69.3	5.9	2	68.0	8.5	1	69.0	1	67.0	80	69.9	46	71.9	41	72.3	17	70.6	15	73.1	13	71.0	7	70	60	71		
9/8中央断面示数	4	80.8	4.5	3	72.7	1.1	1	74.1	1	72.9	83	74.7	48	72.8	25	78.7	10	75.6	13	74.5	6	77.9	7	72.5	61	76		
9a/8a栄養孔断面示数	5	74.4	4.0	3	68.8	2.0	1	79.3	1	67.6	80	72.8	48	71.1	39	74.6	16	72.4	17	72.3	18	73.3			60	78		
10b/1長厚示数	0				0				1	21.5	1	21.2	35	21.3	15	21.5	20	21.7	10	21.1	11	22.6	4	22.0	4	19.8	60	22

1)中井など、2)米元など、3)加藤 (1991)、4)中橋・土肥 (2008)、5)岡崎ほか (2004)、6)中橋 (1987)、7)松下 (1993)、8)九州大学医学部解剖学第2講座 (1988)、9)阿部 (1957)、10)藤橋 (1955)

